



System Management Services (SMS) 1.1 リファレンスマニュアル

Sun Microsystems, Inc.
901 San Antonio Road
Palo Alto, CA 94303-4900
U.S.A.650-960-1300

Part No. 816-2246-10
Revision A, 2001 年 11 月

Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc., 901 San Antonio Road, Palo Alto, CA 94303-4900 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョーベイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、AnswerBook2、docs.sun.com、Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サン・のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Java およびその他の Java を含む商標は、米国 Sun Microsystems 社の商標であり、同社の Java ブランドの技術を使用した製品を指します。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

Netscape、Navigator は、米国 Netscape Communications Corporation の商標です。Netscape Communicator については、以下をご覧ください。Copyright 1995 Netscape Communications Corporation. All rights reserved.

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー・インタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典：	<i>System Management Services (SMS) 1.1 Reference Manual</i> Part No: 816-0900-10 Revision A
-----	--



目次

Intro(1M)	2
addboard(1M)	6
addtag(1M)	12
cancelcmdsync(1M)	15
console(1M)	20
dca(1M)	25
deleteboard(1M)	27
deletetag(1M)	32
disablecomponent(1M)	34
dsmd(1M)	39
dxs(1M)	41
enablecomponent(1M)	42
esmd(1M)	47
flashupdate(1M)	50
fomd(1M)	54
frad(1M)	55
help(1M)	56
hpost(1M)	58
hwad(1M)	59

initcmdsync(1M) 60
kmd(1M) 65
mand(1M) 68
mld(1M) 70
moveboard(1M) 73
osd(1M) 80
pcd(1M) 81
poweroff(1M) 84
poweron(1M) 87
rcfgadm(1M) 90
reset(1M) 109
resetsc(1M) 112
runcmdsync(1M) 115
savecmdsync(1M) 117
setbus(1M) 122
setdatasync(1M) 125
setdate(1M) 129
setdefaults(1M) 132
setfailover(1M) 136
setkeyswitch(1M) 138
setobpparams(1M) 142
setupplatform(1M) 145
showboards(1M) 149
showbus(1M) 158
showcmdsync(1M) 161
showcomponent(1M) 163
showdatasync(1M) 168
showdate(1M) 171

showdevices(1M) 173
showenvironment(1M) 178
showfailover(1M) 187
showkeyswitch(1M) 190
showlogs(1M) 192
showobpparams(1M) 196
showplatform(1M) 198
showxirstate(1M) 205
smsbackup(1M) 210
smsconfig(1M) 213
smsconnectsc(1M) 224
smsrestore(1M) 227
smsversion(1M) 229
ssd(1M) 231
tmd(1M) 232

保守コマンド

Intro(1M)

名前	Intro – SMS 管理	
機能説明	この節では、システム管理ソフトウェアの環境で実行可能なコマンドについて説明します。	
コマンド一覧	addboard(1M)	ドメインに対するボードの割り当て、接続、設定
	addtag(1M)	ドメインに対するドメイン名 (タグ) の割り当て
	cancelcmdsync(1M)	コマンド同期リストからコマンド同期記述子を削除
	console(1M)	ドメインコンソールへのアクセス
	dca(1M)	ドメイン構成エージェント
	deleteboard(1M)	ドメインからシステムボードを切り離し、割り当てを解除
	deletetag(1M)	ドメインに関連付けられているドメイン名 (タグ) の削除
	disablecomponent(1M)	特定のコンポーネントをプラットフォームまたはブラックリストファイルに追加
	dsmd(1M)	ドメインの状態監視デーモン
	dxs(1M)	ドメイン X サーバー
	enablecomponent(1M)	特定のコンポーネントをプラットフォーム、ドメインまたは ASR ブラックリストから削除
	esmd(1M)	環境状態監視デーモン
	flashupdate(1M)	PROM システムボードの更新
	fomd(1M)	フェイルオーバー管理デーモン
	frad(1M)	FRU アクセスデーモン
	help(1M)	SMS コマンドのヘルプ情報を表示

hpost(1M)	Sun Fire 15K の電源投入時自己診断 (POST) 制御系アプリケーション
hwad(1M)	ハードウェアアクセスデーモン
initcmdsycn(1M)	回復するスクリプトを特定するための、コマンド同期記述子の作成
kmd(1M)	キー管理デーモン
mand(1M)	管理ネットワークデーモン
mld(1M)	メッセージロギングデーモン
moveboard(1M)	ドメイン間でのボードの移動
osd(1M)	OpenBoot PROM サーバーデーモン
pcd(1M)	プラットフォーム構成データベースデーモン
poweroff(1M)	電源切断の制御
poweron(1M)	電源投入の制御
rcfgadm(1M)	遠隔構成管理
reset(1M)	指定されたドメインのすべての CPU ポートにリセットを送信
resetsc(1M)	スペアシステムコントローラ (SC) のリセット
runcmdsync(1M)	フェイルオーバー後の回復のために、指定されたスクリプトを準備
savecmdsync(1M)	フェイルオーバーの後に、スクリプトを再開する場所の指定、およびマーカーの追加
setbus(1M)	ドメイン内のアクティブな拡張ボタンで動的バスの再構成を実行
setdatasync(1M)	データ同期で使用されるデータ適用リストの変更
setdate(1M)	システムコントローラ (SC) またはドメインの日付と時刻の設定

Intro(1M)

setdefaults(1M)	直前にアクティブであったドメインのすべてのインスタンスの削除
setfailover(1M)	システムコントローラ (SC) フェイルオーバーメカニズムの状態の変更
setkeyswitch(1M)	仮想キースイッチ位置の変更
setobpparams(1M)	ドメインの OpenBoot PROM 変数の設定
setupplatform(1M)	ドメインの使用可能構成要素リストの設定
showboards(1M)	ボードの割り当て情報と状態の表示
showbus(1M)	アクティブドメイン内の拡張ボタンのバス構成を表示
showcmds(1M)	現在のコマンド同期リストの表示
showcomponent(1M)	コンポーネントのブラックリスト状態の表示
showdatasync(1M)	フェイルオーバーに対するシステムコントローラ (SC) のデータ同期状態の表示
showdate(1M)	システムコントローラ (SC) またはドメインの日付と時刻の表示
showdevices(1M)	システムボードデバイスおよび資源使用状況情報の表示
showenvironment(1M)	環境データの表示
showfailover(1M)	システムコントローラ (SC) のフェイルオーバー状態の管理または表示
showkeyswitch(1M)	仮想キースイッチ位置の表示
showlogs(1M)	メッセージログファイルの表示
showobpparams(1M)	ドメインの OpenBoot PROM 起動パラメタの表示
showplatform(1M)	各ドメインのボード使用可能構成要素リストおよびドメイン状態の表示

showxirstate(1M)	プロセッサにリセットパルスを送信後、CPU ダンプ情報を表示
smsbackup(1M)	SMS 環境のバックアップ
smsconfig(1M)	Sun Fire 15K システムのシステムコントロー ラ (SC) 構成ユーティリティー
smsconnectsc(1M)	遠隔 SC コンソールへのアクセス
smsrestore(1M)	SMS 環境の復元
smsversion(1M)	SMS ソフトウェアのアクティブバージョン を、他の常駐バージョンに変更
ssd(1M)	SMS 起動デーモン
tmd(1M)	タスク管理デーモン

addboard(1M)

名前	addboard - ドメインに対するボードの割り当て、接続、設定
形式	addboard -d <i>domain_id</i> <i>domain_tag</i> [-c <i>function</i>] [-r <i>retry_count</i> [-t <i>timeout</i>]] [-q] [-y -n] <i>location</i> [<i>location</i>]... addboard -h
機能説明	<p>addboard(1M) は、ドメイン <i>domain_id</i> <i>domain_tag</i> に対して <i>location</i> の割り当て、接続、設定を行います。</p> <p>ボードは、追加されるドメインで <i>available</i> になっているか、またはそのドメインで <i>assigned</i> になっている必要があります。-c オプションは、現在の設定状態から新しい設定状態へ、ボードの切り替えを指定する場合に使用します。設定状態は、<i>assign</i>、<i>connect</i>、または <i>configure</i> のいずれかとなります。-c オプションが指定されない場合は、デフォルトの設定状態は <i>configure</i> になります。</p> <hr/> <p>注 - addboard はタスクを同期的に実行し、コマンドが完了するまでユーザーに制御を返しません。ボードの電源が入っていないか、またはテストされていない状態で、-c <i>connect</i> <i>configure</i> オプションを指定すると、このコマンドによってボードの電源が投入され、テストされます。</p> <p>1つのボードのみが指定されており、それが自動システム回復 (ASR) ブラックリストファイルに定義されている場合は、addboard はエラーメッセージを表示して終了します。複数のボードが指定されている場合は、addboard は、ボードがスキップ中であることを示すメッセージを表示して次のボードへ進み、最後のボードの場合は、そこで終了します。</p> <hr/>
オプション	<p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-c <i>function</i></p> <p><i>function</i> の有効な値は、<i>assign</i>、<i>connect</i>、または <i>configure</i> です。このオプションは、設定状態の切り替えを制御する場合に使用します。それぞれの機能は、その前の状態に基づいて実行されます。たとえば、<i>configure</i> は最初に 割り当て を行い、次に 接続 してから 設定 を行います。有効な切り替え状態とその意味は以下のとおりです。</p>

■ assign

ボードを論理ドメインに割り当てます。

■ connect

ボードが論理ドメインに割り当てられていない場合は、割り当てます。

ボードを `connected|unconfigured` 状態に切り替えます。これで、システムボードは論理ドメインに割り当てられ、接続されている (`active`) 状態になります。この状態では、標準システムでボード上のハードウェア資源を使用することはできますが、ボードのハードウェア資源は標準の Solaris のデータ構造では表現されないため、Solaris の環境では使用できません。ボード上で使用できる操作は、設定管理に限定されます。

■ configure

ボードが論理ドメインに割り当てられていない場合は、割り当てます。

ボードを `connected|configured` 状態に切り替えます。この状態では、ボードはドメインに割り当て、接続され、アクティブになっており、Solaris の環境用に設定されています。ボード上のハードウェア資源は、Solaris で使用することができます。

-d domain_id

ドメインの ID です。有効な `domain_id` は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。

-d domain_tag

`addtag(1M)` を使用してドメインに割り当てられる名前。

-h

ヘルプ。使用方法を表示します。

注 - 単一で使⽤します。-h に追加して指定されたオプションは無視されま
す。

-n

すべてのプロンプトに自動的に「no」と応答します。プロンプトは、
-q オプションを⽤するまで表示されます。

-q

非出力。プロンプトを含むすべての stdout へのメッセージを抑制し
ます。

-q を単独で⽤すると、すべてのプロンプト対して -n オプションが
デフォルトで定義されます。

-q オプションを -y または -n オプションとともに⽤すると、ユー
ザプロンプトがすべて非表示になり、選択したオプションに基づい
て「y」または「n」のいずれかで自動的に応答します。

-r *retry_count* -t *timeout*

これらのコマンド引数を使用すると、状態の切り替え中に障害が発生
した場合に再試⾏する回数を指定することができます。-r *retry_count*
オプションは、ドメインによって設定状態の変更が再試⾏される回数
を表します。-t *timeout* オプションは、次の再試⾏を⾏うまでにドメ
インが待機する時間(秒)を表します。このオプションは、必ず
retry_count とともに⽤します。デフォルト値は 0 で、これは要求が
すぐに再試⾏されることを意味します。

-y

すべてのプロンプトに対して自動的に「yes」と応答します。プロンプ
トは、-q オプションを⽤するまで表示されます。

オペランド

次のオペランドがサポートされています。

location ボード位置のリストで、スペースで区切ります。複数の
location 引数を使用できます。

次の *location* 形式が使用できます。

SB(0...17)

IO(0...17)

注 - ボードタイプを使用する場合は、showboards(1M)を使用します。

拡張機能説明

必要なグループ特権

-c assign オプションは、プラットフォーム管理者特権を持つユーザーのみ、実行することができます。

ドメイン管理者または設定者特権を持っているユーザーは、自身のドメインについてのみ、このコマンドを実行できます。対象のドメインにボードが割り当てられていない場合は、ドメインの使用可能構成要素リストにボードを定義しておく必要があります。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第2章を参照してください。

使用例

使用例 1 - ドメイン C にボードを割り当てる

ドメイン C に 4 つのボードを割り当てる場合は、プラットフォーム特権を持つユーザーが割り当てを行うか、またはボードをドメインの使用可能構成要素リストに定義しておく必要があります。

```
sc0:sms-user:> addboard -d C -c assign SB0 IO1 SB1 SB2
SB at SB0 assigned to domain: C
IO at IO1 assigned to domain: C
SB at SB1 assigned to domain: C
SB at SB2 assigned to domain: C
sc0:sms-user:>
```

使用例 2 - ブラックリストに定義されているボードをドメイン C に割り当てる

ドメイン C に 4 つのボードを割り当てる場合は、プラットフォーム特権を持つユーザーが割り当てを行うか、またはボードを使用可能構成リストに定義しておく必要があります。

```
sc0:sms-user:> addboard -d C -c assign SB0 IO2 SB1 SB2
SB at SB0 assigned to domain: C
IO at IO2 assigned to domain: C
Warning:IO at IO2 is blacklisted. You will not be able to connect or configure it.
```

addboard(1M)

```
SB at SB1 assigned to domain: C
SB at SB2 assigned to domain: C
sc0:sms-user:>
```

使用例 3 – ドメイン A にボードを接続する

この例では、再試行の回数を 5 回、タイムアウトを 5 秒に設定し、ドメイン A に対して 3 つのボードを接続します。

```
sc0:sms-user:> addboard -d A -c connect -r 5 -t 5 IO3 IO4 IO5
```

使用例 4 – ブラックリストに定義されているボードをドメイン C に接続する

プラットフォーム特権を持つユーザーが接続を行うか、またはボードをドメインの使用可能構成要素リストに定義しておく必要があります。

```
sc0:sms-user:> addboard -d C -c connect SB0
SB at SB0 is blacklisted.
Exiting. sc0:sms-user:>
```

使用例 5 – ボード (ASR ブラックリストに定義されているボードを含む) をドメイン A に設定する

プラットフォーム特権を持つユーザーが設定を行うか、またはボードをドメインの使用可能構成要素リストに定義しておく必要があります。

```
sc0:sms-user:> addboard -d A -c configure IO3 IO4 IO5
Skipping IO at IO4.It is blacklisted.
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、`attributes(5)` を参照してください。

属性タイプ	属性値
Availability	SUNWSMSop

ファイル

このコマンドでは次のファイルが使用されます。

```
/etc/opt/SUNWSMS/config/asr/blacklist
```

esmd によって除外されるコンポーネントの一覧。

注 - このファイルは内部で作成されて使用されます。手動で編集しないでください。

関連項目

addtag(1M)、esmd(1M)

addtag(1M)

名前	addtag - ドメインに対するドメイン名 (タグ) の割り当て
形式	addtag -d <i>domain_id</i> <i>domain_tag</i> [-q] [-y -n] <i>new_tag</i> addtag -h
機能説明	addtag(1M) は、指定されたドメインタグ名 (<i>new_tag</i>) をドメイン (<i>domain_id</i> <i>domain_tag</i>) へ追加します。1つのドメインには1つの名前タグしか割り当てできません。また、この名前はすべてのドメインで必ず一意になるようにします。addtag を使用して <i>domain_tag</i> を変更することもできます。
オプション	<p>-d <i>domain_id</i> ドメインの ID。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p>-d <i>domain_tag</i> addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。</p> <p><i>new_tag</i> ドメインに割り当てられる新しいタグ名。不正なドメイン名の説明については、「拡張機能説明」を参照してください。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されません。</p> <hr/> <p>-n すべてのプロンプトに自動的に「no」と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されません。</p> <p>-q 非出力。プロンプトを含むすべての <code>stdout</code> へのメッセージを抑制します。</p> <p> 単独で使用すると、-q はデフォルトですべてのプロンプトに対して -n オプションを指定します。</p> <p> -y オプションまたは -n オプションのどちらかとともに使用すると、-q ではすべてのユーザープロンプトを抑制し、選択したオプションに基づいて自動的に「y」または「n」のどちらかで応答します。</p>

	-y	すべてのプロンプトに自動的に「yes」と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されません。
オペランド		次のオペランドがサポートされています。
	<i>new_tag</i>	ドメインに割り当てられる新しいタグ名。不正なドメイン名の説明については、「拡張機能説明」を参照してください。
拡張機能説明		
ドメイン名 (タグ) の制約		ドメイン名タグには、次の制約があります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 1 文字の名前は使用しない ■ すべてのドメイン名タグは、同じシャーシ内のドメインで一意とする ■ タグは、Solaris のノード名と同じ制約に準拠します。現在、ドメイン名の長さは 2 文字から 64 文字に制限されています。
必要なグループ特権		このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権が必要です。 詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。
使用例		<p>使用例 1 — プロンプトを表示してタグ eng2 をドメイン A に割り当てる</p> <pre>sc0:sms-user:>addtag -d A eng2</pre> <p>このドメインのタグが終了する場合は、プロンプトが表示されます。</p> <p>使用例 2 — -y オプションを使用して、タグ「eng2」をドメイン A に割り当てる</p> <pre>sc0:sms-user:>addtag -d A -y eng2</pre> <p>プロンプトが表示され、自動的に「yes」と応答します。この応答によって、ドメインに対して (タグがすでに存在している場合でも) ドメインタグが設定されます。</p> <p>使用例 3 — -n オプションを使用してタグ eng2 をドメイン A に割り当てる</p> <pre>sc0:sms-user:>addtag -d A -n eng2</pre>

addtag(1M)

プロンプトが表示され、自動的に「no」と応答されます。この応答によって、このドメインに対するタグがまだ設定されていない場合は、タグが設定されます。

使用例 4 – -qy オプションを使用してタグ eng2 をドメイン A に割り当てる

```
sc0:sms-user:>addtag -d A -qy eng2
```

プロンプトは表示されません。

使用例 5 – -qn オプションを使用してタグ eng2 をドメイン A に割り当てる

```
sc0:sms-user:>addtag -d A -qn eng2
```

この例では、まだ設定されていない場合にのみ、タグ eng2 をドメイン A に割り当てます。プロンプトは表示されません。

使用例 6 – -q オプションを使用してタグ eng2 をドメイン A に割り当てる

```
sc0:sms-user:>addtag -d A -q eng2
```

この例では、タグがまだ設定されていない場合に、タグ eng2 をドメイン A に割り当てます。タグが設定されている場合は、このコマンドを実行しても変更されません。プロンプトは表示されません。

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

属性タイプ	属性値
Availability	SUNWSMSop

関連項目

deletetag(1M)

名前	initcmdsync、cmdsync、cancelcmdsync、savecmdsync – コマンド同期コマンド
形式	<pre>cancelcmdsync cmdsync_descriptor initcmdsync script_name [parameters] savecmdsync -M identifier cmdsync_descriptor [cancel init save]cmdsync -h</pre>
機能説明	<p>これらのコマンド同期コマンドはともに機能し、システムコントローラ (SC) のフェイルオーバーによって中断されたユーザー定義のスキプトの回復を制御します。コマンドを同期化するには、ユーザー定義のスキプトに次のコマンドを挿入します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>initcmdsync</code> は、回復するスキプトを特定するための、コマンド同期記述子を作成します。 この記述子は、コマンド同期リストの中に定義されます。このリストは、フェイルオーバーが発生した後で、新しいメインの SC で再起動するスキプトとコマンドを特定します。 ■ <code>savecmdsync</code> は、フェイルオーバーが発生した後で、スキプト内のどの場所から処理を再開するかを特定するためのマーカーを追加します。 ■ <code>cancelcmdsync</code> は、コマンド同期リストからコマンド同期記述子を削除します。これによって、スキプトは 1 度だけ実行され、それ以降のフェイルオーバーの後には実行されません。 <p>コマンド同期リストから記述子を削除するために、スキプトのすべての出力先には、必ず 1 つの <code>cancelcmdsync</code> シーケンスを定義します。記述子が削除されていない場合にフェイルオーバーが発生すると、スキプトは、新しいメイン SC 上で実行されます。</p> <hr/> <p>注 - <code>initcmdsync</code> と <code>cancelcmdsync</code> のシーケンスは、コマンドが同期化されるように必ず 1 つのスキプトに定義します。<code>savecmdsync</code> はオプションのコマンドで、スキプト内の場所をマークして処理を再開する場所を特定する場合のみ使用します。特別な再開ポイントが必要ない場合は、代わりに <code>runcmdsync(1M)</code> を使用することもできます。</p> <hr/>

cancelcmdsync(1M)

オプション

次のオプションがサポートされています。

- cmdsync_descriptor* コマンド同期記述子 (ユーザー定義スクリプトを指定する記述子) を表します。この記述子は、`initcmdsync` コマンドの標準の出力値として返されます。
- `-h` ヘルプ。使用方法を表示します。

注 - 単一で使います。 `-h` に追加して指定されたオプションは無視されません。

- `-M identifier` フェイルオーバーの後に、スクリプトを再開する場所を指定します。この記述子は、正の整数とします。
- parameters* ユーザー定義スクリプトに関連するオプションまたはパラメータを表します。これらのパラメータは、スペア SC に格納されており、フェイルオーバーの後で指定されたスクリプトを再起動する際に使います。
- script_name* 同期的に処理されるユーザー定義スクリプトの名前を表します。

拡張機能説明

コマンド同期コマンドは、ユーザー定義スクリプト内の特定の論理ポイントに挿入します。

たとえば、**Korn** シェルスクリプトは、以下のようになります。

```
# MAIN CODE STARTS HERE
# Be sure to use a cleanup procedure to handle any interrupts.
# Use the cancelcmdsync to remove the script from the command
# synchronization list. Otherwise, the command will get restarted
# on the new main SC.
#
clean_up () {
    cancelcmdsync $desc
    exit
}

# Declare the clean_up function to capture system signals
# and cleanup.
trap "clean_up" INT HUP TERM QUIT PWR URG
goto_label=1
# Process the arguments, capturing the -M marker point if provided
#
for arg in $*; do
    case $arg in
```

```

        -M )
        goto_label=$arg;;
        .
        .
        .
    esac
done
# Place this script and all its parameters in the command synchronization
# list, which indicates the commands to be restarted after an SC failover.
#
# NOTE:The script must be executable by the user defined in fcmd.cf
# and reside in the same directory on both the main and the spare SC.
# If the command is not part of the defined PATH for the user, the
# absolute filename must be passed with the initcmdsync command.
#
initcmdsync script_name parameters
# The marker point is stored in the goto_label variable.
# Keep executing this script until all cases have been processed or an
# error is detected.
#
while (( $goto_label != 0 )) ; do

    #
    # Each case should represent a synchronization point in the script.
    #
    case $goto_label in

        #
        # Step 1:Do something
        #
        1 )
            do_something
            .
            .
            .

            # Execute the savecmdsync command with the script's
            # descriptor and a unique marker to save the position.
            # If a failover occurs here, the commands
            # represented in the next goto_label (2) will be
            # resumed.
            #

            savecmdsync -M $(( $goto_label + 1 )) $desc
            goto_label=$(( $goto_label + 1 ))
            ;;

        #
        # Step 2:Do more things
        #
        2 )
            do_more_things
            .
            .
            .

            savecmdsync -M $(( $goto_label + 1 )) $desc
            goto_label=$(( $goto_label + 1 ))
            ;;

        #
        # Step 3:Finish the last step and set the goto_label to 0
    esac
done

```

cancelcmdsync(1M)

```
        # so that the script ends.
    3 )
        finish_last_step
        .
        .
        goto_label=0
        ;;
    esac
done

# END OF MAIN CODE
# Remember to execute cancelcmdsync to remove the script from the
# command synchronization list. Otherwise, the command will be restarted
# after the failover.
#
cancelcmdsync $desc
```

必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 0 以外 エラーが発生しました。

注 - `initcmdsync` の標準出力には、コマンド同期記述子が含まれていません。(フェイルオーバーが終了した場合や、単一の SC 環境などでフェイルオーバーが使用できない場合は、同期コマンドが含まれているスクリプトでは、プラットフォームのログファイルに対してエラーメッセージを生成し、ゼロ以外の終了コードを返します。これらのメッセージは無視することもできます。)

属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

属性タイプ	属性値
Architecture	All
Availability	SUNWSMSop
Stability	Evolving
MT-Level	Safe

関連項目

runcmdsync(1M), showcmdsync(1M)

注意事項

(同期コマンドを使用した) ユーザー定義スクリプトの例は、/opt/SUNWSMS/examples/cmdsyncディレクトリに保存されています。

console(1M)

名前	console - ドメインコンソールへのアクセス
形式	console -d <i>domain_id</i> <i>domain_tag</i> [[-f] [-l] [-g] [-r]] [-e <i>escapeChar</i>] console -h
機能説明	<p>console(1M) は、指定されたドメイン (<i>domain_id</i> または <i>domain_tag</i>) に対するコマンドを実行するウィンドウ「コンソールウィンドウ」を作成して、ドメインの仮想コンソールドライバへ遠隔接続します。1つのドメインに対して複数の console コマンドを同時に接続することもできますが、書き込み権は1つの console のみが所有し、その他のコマンドは読み取り専用になります。書き込み権は、「ロック」または「ロック解除」のいずれかのモードになります。</p> <p>オプションを指定しないで console を呼び出すと、排他的な「ロックされた書き込み」モード (オプション -f) の状態になります。排他的なセッションでは、ドメイン仮想コンソールから他のセッションが強制的に切り離されます。</p> <p>ロックされた書き込みモードでは、安全性が高くなります。このモードは、console -f を使用して他のコンソールが開かれた場合、または実行中の他の console ウィンドウから ~* が入力された場合に解除されます。これらの2つの場合には、新しい console セッションが排他セッションになります。</p> <p>ロック解除された書き込み権は、ロックされた書き込みに比べて安全性が低くなります。このモードは、console -g、console -l または console -f、を使用して別の console コマンドが開始された場合、あるいは別のコンソールウィンドウから ~@、~& または ~* が入力された場合に解除されます。</p> <p>console は、IOSRAM、またはドメインに対するネットワークパスを使用して、ドメインコンソールと通信します。~= (チルドおよび等号記号) のコマンドを使用して、通信パスを手動で切り替えることができます。ネットワークが使用できなくなり、console セッションがハングしたと思われる場合は、通信パスを手動で切り替えると有効です。</p> <p>チルドコマンドは「拡張機能説明」で説明します。</p>
オプション	<p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-d <i>domain_id</i> ドメインの ID です。有効な <i>domin_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p>

- `-d domain_tag` addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。
- `-e escapeChar` デフォルトのエスケープ文字を設定します。エスケープ文字を「escapeCharacter」に変更します。デフォルトは~ (チルド) です。
- 有効なエスケープ文字は次のとおりです。
- ```
@ ^ & ? * = . |
```
- 「使用法」セクションの `rlogin` の「注意事項」を参照してください。
- `-f` 強制オプション (デフォルト)。ドメインコンソールウィンドウを「ロックされた書き込み」特権でオープンし、オープンしている他のセッションをすべて終了し、新しいセッションがオープンされないようにします。これにより、セッションが排他になります。このコマンドは、(専用にデバッグを行う場合など) コンソールを排他的に使用する場合のみ使用します。
- 多重セッションモードを復元するには、ロックを開放 (~^) するか、または、コンソールセッションを終了 (~.) します。
- `-g` グラブオプション。コンソールウィンドウを「ロック解除された書き込み」特権でオープンします。他のセッションが「ロック解除された書き込み」特権を持っている場合は、そのセッションは読み取り専用になります。他のセッションが「ロック」特権を持っている場合は、この要求は拒否され、コンソールウィンドウは読み取り専用でオープンします。
- `-h` ヘルプ。使用方法を表示します。

---

**注 -** 単一で使用します。-h と組み合わせて指定されたオプションは無視されます。

---

- `-l` ロックオプション。コンソールウィンドウを「ロックされた書き込み」特権でオープンします。他のセッションが「ロック解除された書き込み」特権を持っている場合は、そのセッ

セッションは読み取り専用になります。他のセッションが「ロック」特権を持っている場合は、この要求は拒否され、コンソールウィンドウは読み取り専用でオープンします。

`-r`            コンソールウィンドウを読み取り専用モードでオープンします。

## 拡張機能説明

### 使用法

ドメインコンソールウィンドウでは、行の先頭文字として現れるチルド (~) は、`console` が特別な処理を行うためのエスケープ記号とみなされます。具体的には、次のものがあります。

- ~? ステータスメッセージ
- ~.console セッションの切断
- ~# OpenBoot PROM または kadb ヘブレーク
- ~@ ロック解除された書き込み特権の取得 (-g を参照)
- ~^ 書き込み権を開放する
- ~= ネットワークと IOSRAM インタフェース間の通信パスを切り替えます。~= はプライベートモードでのみ使用できます (~\* を参照)。
- ~& ロックされた書き込み特権を取得します (-l を参照)。この信号は、読み取り専用、またはロック解除された書き込みのセッションでのみ実行することができます。
- ~\* ロックされた書き込み特権を取得し、オープンしている他のセッションをすべて終了して、新しいセッションがオープンしないようにします (-f を参照)。多重セッションモードを復元するには、ロックを開放するか、またはこのセッションを終了します。

## 必要なグループ特権

---

注 - rlogin は、**チルド** が新しい行の先頭で使用されている場合でも、**チルド・エスケープ** のシーケンスを処理します。行の先頭で**チルド**シーケンスを送信する必要があり、rlogin を使用する場合は、2 つの **チルド** (最初のチルドはエスケープで、2 番目は rlogin に対するチルド) を使用します。もうひとつの方法としては、rlogin の実行中に、行の先頭に**チルド**を入力しないようにします。

kill -9 コマンドを使用してコンソールセッションを終了すると、コンソールコマンドが実行されたウィンドウまたは端末は、raw モードになり、ハングしたように見えます。このような状況を回避するには、^j と入力し、次に stty sane、さらに ^j と入力します。

---

## 使用例

指定されたドメインについて、ドメイン管理者の特権を持っている必要があります。プラットフォームグループ特権のみを持つユーザーは、ドメインコンソールにアクセスすることはできません。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

使用例 - ドメインで、コンソールウィンドウをロックモードでオープンする

```
sc0:sms-user:> console -d a -l
```

---

注 - ドメインコンソールウィンドウでは、環境変数 TERM がコンソールウィンドウと同じ設定になっている場合のみ、vi(1) が正しく実行され、エスケープシーケンス (**チルド**コマンド) が正しく機能します。

たとえば、以下のようになります。

```
sc0:sms-user:> setenv TERM xterm
```

---

## 終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 0 以外 エラーが発生しました。

console(1M)

属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

addtag(1M)、dxs(1M)、kill(1)、rlogin(1)、set(1)、stty(1)、vi(1)、xterm(1M)

|                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前                                         | dca - ドメイン構成エージェント                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 形式                                         | dca -d <i>domain_id</i> \ <i>domain_tag</i> [-H <i>hostname</i> ]<br><br>dca -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 機能説明                                       | dca(1M) は、システムコントローラ上の dca と、指定されたドメインのドメイン構成サーバー (dcs) との通信メカニズムを提供します。dca には、遠隔の動的な再構成コマンドに関する通信サービスが用意されています。<br><br>このエージェントは、ssd(1M) によって自動的に開始されるため、コマンド行から手動で開始しないでください。                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| オプション                                      | 次のオプションがサポートされています。<br><br>-d <i>domain_id</i> ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。<br><br>-d <i>domain_tag</i> addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。<br><br>-h               ヘルプ。指定した <i>hostname</i> について使用法の説明を表示します。                                                                                                                                                                                                               |
| <hr/>                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 注 -   単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されません。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <hr/>                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| ファイル                                       | -H <i>hostname</i> dca に関連付けられているドメインの Solaris のホスト名。<br><br>このコマンドでは、以下のファイルを使用します。<br><br>/var/opt/SUNWSMS/doors/<domain_id>/dca<br>/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain_id>/scdr0<br>/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain_id>/scdr1<br>/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain_id>/scdr2<br>/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain_id>/scdr3<br>/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain_id>/scdr4<br>/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain_id>/scdr5<br>/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain_id>/scdr6 |

dca(1M)

属性

/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain\_id>/scdr7  
/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain\_id>/scdr8  
/var/opt/SUNWSMS/pipes/<domain\_id>/scdr9

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

addboard(1M)、deleteboard(1M)、moveboard(1M)、rcfgadm(1M)



|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | deleteboard - ドメインからシステムボードを切り離し、割り当てを解除                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 形式    | deleteboard [-c <i>function</i> ] [-r <i>retry_count</i> [-t <i>timeout</i> ]] [-q] [-y -n] <i>location</i> [ <i>location</i> ]...                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 機能説明  | <p>deleteboard -h</p> <p>deleteboard(1M) は、ドメインから、割り当てられてアクティブになっている <i>location</i> を削除します。 <i>location</i> のボードは、assigned か active のいずれかの状態になっています。 -c オプションは、現在の設定状態から新しい設定状態へ、ボードの切り替えを指定する場合に使用します。</p> <p>設定状態は、unconfigure、disconnect、unassign のいずれかとなります。 -c オプションを指定しない場合は、デフォルトの設定状態 unassign が使用されます。</p> <p>ドメイン管理者は、ボードの unconfigure や disconnect を行うことができますが、ボードがドメインの使用可能構成要素リストに定義されていない場合は、ドメインからボードを削除することはできません。 setupplatform(1M) を参照してください。これは、deleteboard の <i>location</i> フィールドが、ドメインの使用可能構成要素リストに定義されていないことを表しています。</p> |
| オプション | <p>-c <i>function</i></p> <p><i>function</i> の有効な値は、unconfigure、disconnect、または unassign です。 -c オプションは、設定状態の切り替えを制御する場合に使用します。それぞれの機能は、その前の状態に基づいて実行されます。たとえば、unassign は最初に unconfigure (構成解除) を行い、次に unassign (割り当て解除) してから disconnect (切断) を行います。有効な切り替え状態とその意味は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ unconfigure <p>ドメイン上で稼働している Solaris 環境からボードの構成を解除します。Solaris は、ボード上のすべてのハードウェア資源の使用を停止します。</p> <p>ボードを connected unconfigured 状態に切り替えます。これで、システムボードは論理ドメインに割り当てられており、接続されている (active) 状態になります。この状態で</p> </li> </ul>      |

は、標準のシステムでボード上のハードウェア資源を使用することはできますが、ボードのハードウェア資源は標準の Solaris のデータ構造では表現されないため、Solaris の環境では使用できません。ボード上で使用できる操作は、設定管理に限定されます。

#### ■ disconnect

ドメイン上で稼働している Solaris 環境からボードの構成を解除します。上記の unconfigure を参照してください。

ボードを disconnected|unconfigured 状態に切り替えます。物理ドメインからボードを削除します。このステップで、ドメインによって UNCLAIM 要求が SC に送信されます。これで、システムボードは論理ドメインに割り当て (assigned) られ、切り離されている (disconnected) 状態になります。

#### ■ unassign

ドメイン上で稼働している Solaris 環境からボードの構成を解除します。上記の unconfigure を参照してください。

ボードを切り離します。上記の disconnect を参照してください。

ボードの状態を**使用可能** (available) に切り替えて、論理ドメインからボードを移動させます。

-h

ヘルプ。使用方法を表示します。

---

**注 -** 単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されます。

---

-n

すべてのプロンプトに自動的に「no」と応答します。プロンプトは、-q オプションを使用するまで表示されます。

**-q**

非出力。プロンプトを含むすべての `stdout` へのメッセージを抑制します。

`-q` を単独で使用すると、すべてのプロンプトに対して `-n` オプションがデフォルトで定義されます。

`-q` オプションを `-y` または `-n` オプションとともに使用すると、ユーザープロンプトがすべて非表示になり、選択したオプションに基づいて「y」または「n」のいずれかで自動的に応答します。

**-r *retry\_count* -t *timeout***

これらのコマンド引数を使用すると、状態の切り替え中に障害が発生した場合に再試行する回数を指定することができます。 `-r retry_count` オプションは、ドメインによって設定状態の変更が再試行される回数を表します。 `-t timeout` オプションは、次の再試行を行うまでにドメインが待機する時間 (秒) を表します。このオプションは、必ず `retry_count` とともに使用します。デフォルト値は 0 で、これは要求がすぐに再試行されることを意味します。

**-y**

すべてのプロンプトに対して自動的に「yes」と応答します。プロンプトは、`-q` オプションを使用するまで表示されます。

**オペランド**

次のオペランドがサポートされています。

*location* ボード位置のリストで、スペースで区切ります。複数の *location* 引数を使用できます。

次の *location* 形式が使用できます。

SB(0..17)

IO(0..17)

---

**注 -** ボードタイプを使用する場合は、`showboards(1M)` を使用します。

---

deleteboard(1M)

拡張機能説明

必要なグループ特権

ボードが **割り当て (assigned)** の状態 (つまり実行中のドメインで**アクティブ (active)** になっていない) の場合は、プラットフォーム管理者特権を持っているユーザーのみ `-c unassign` オプションを実行することができます。

ドメイン管理者または設定者特権を持っているユーザーは、自身のドメインについてのみ、このコマンドを実行することができます。

詳細は、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第2章を参照してください。

使用例

**使用例 1** — ドメインからボードの割り当てを解除する

ドメインから4つのボードの**割り当てを解除 (unassign)** するには、ユーザーにプラットフォーム管理者特権、ドメイン管理者またはドメイン設定者の特権を付与して、ボードを、ドメイン使用可能構成要素リストに定義しておく必要があります。

この例のドメインには、**割り当てられている (assigned)** 状態のボードがすべて定義されています。

```
sc0:sms-user:> deleteboard -c unassign SB0 IO1 SB1 SB2
```

**使用例 2** — ドメインからボードを構成解除する

ドメインから3つのボードを**構成解除 (unconfigure)** するために、再試行の回数を5回、タイムアウトを3秒に設定します。

```
sc0:sms-user:> deleteboard -r5 -t3 IO3 IO4 IO5
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、`attributes(5)` を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

deleteboard(1M)

関連項目

addboard(1M)、moveboard(1M)

## deletetag(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                       |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | deletetag - ドメインに関連付けられているドメインタグ名の削除                                                                                                                                                                                  |
| 形式    | deletetag -d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> [-q] [-y   -n]<br><br>deletetag -h                                                                                                                                  |
| 機能説明  | deletetag(1M) は、ドメインに関連付けられているドメインタグを削除します。                                                                                                                                                                           |
| オプション | -d <i>domain_id</i> ドメインの ID。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。<br><br>-d <i>domain_tag</i> addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。<br><br>-h               ヘルプ。使用方法を表示します。                                       |
| <hr/> |                                                                                                                                                                                                                       |
| 注 -   | 単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されません。                                                                                                                                                                                  |
| <hr/> |                                                                                                                                                                                                                       |
| -n    | すべてのプロンプトに自動的に「no」と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されません。                                                                                                                                                           |
| -q    | 非出力。プロンプトを含むすべての <code>stdout</code> へのメッセージを抑制します。<br><br>単独で使用されると、-q はデフォルトですべてのプロンプトに対して -n オプションを指定します。<br><br>-y オプションまたは -n オプションのどちらかとともに使用すると、-q ではすべてのユーザープロンプトを抑制し、選択したオプションに基づいて自動的に「y」または「n」のどちらかで応答します。 |
| -y    | すべてのプロンプトに自動的に「yes」と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されません。                                                                                                                                                          |

| 拡張機能説明       |                                                                                                                                                                                                       |       |     |              |           |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|--------------|-----------|
| 必要なグループ特権    | このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権が必要です。<br>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第2章を参照してください。                                                                                            |       |     |              |           |
| 使用例          | 使用例 – 割り当てられているドメインから、タグ「eng2」を削除する<br><br>sc0:sms-user:>deletetag -d eng2 -qy<br><br>プロンプトは表示されません。                                                                                                  |       |     |              |           |
| 終了ステータス      | 次の終了値が返されます。<br><br>0 正常に終了しました。<br>0 以外 エラーが発生しました。<br><br>domain_id にタグが定義されていない場合は、エラーは返されず、deletetag(1M) は正常に処理されたとみなされます。                                                                        |       |     |              |           |
| 属性           | 次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。<br><br><table border="1"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table> | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ        | 属性値                                                                                                                                                                                                   |       |     |              |           |
| Availability | SUNWSMSop                                                                                                                                                                                             |       |     |              |           |
| 関連項目         | addtag(1M)                                                                                                                                                                                            |       |     |              |           |

## disablecomponent(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | disablecomponent - 特定のコンポーネントを指定したブラックリストファイルに追加                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 形式    | disablecomponent [-d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> ] [-i "reason" ] <i>location</i> [ <i>location</i> ]..<br><br>disablecomponent -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 機能説明  | <p>disablecomponent(1M) は、ドメインまたはプラットフォームのブラックリストにコンポーネントを追加し、起動できないようにします。</p> <p><i>blacklist</i> は、POST が起動時に使用できないコンポーネントを一覧表示した内部ファイルです。POST はシステムを起動用に準備する前にブラックリストファイルを読み取り、OpenBoot PROM とともに正常にテストが完了したコンポーネントのみのリストを渡します。ブラックリストにあるファイルは除外されます。SMS は、ドメインボード、プラットフォームボード、内部の自動システム回復 (ASR) についての 3 つのブラックリストをサポートしています。</p> <p>オプションを指定せずに disablecomponent を使用して、プラットフォームのブラックリストファイルを編集します。</p> <p>disablecomponent は、ASR ブラックリストファイルで使用することはできません。esmd(1M) のみ、ASR ブラックリストファイルに書き込みすることができます。</p> <p>プラットフォームおよびドメインブラックリストの使用および編集に関する詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 7 章を参照してください。</p> |
| オプション | <p>-d <i>domain_id</i>   ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。ドメインブラックリストに追加するコンポーネントを指定します。</p> <p>-d <i>domain_tag</i>   addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。ドメインブラックリストに追加するコンポーネントを指定します。</p> <p>-h               ヘルプ。使用方法を表示します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |



---

注 - 単一で使用します。-h と組み合わせて指定されたオプションは無視されます。

---

-i "reason" コンポーネントがドメインブラックリストに追加された理由を簡潔に示します。単一引用符または二重引用符の記号で囲むか、または単一語で記述する必要があります。

## オペランド

次のオペランドがサポートされています。

*location* スラッシュで区切られた *board\_loc/proc/bank/dimm* または *board\_loc/hsPCI* または *board\_loc/bus* 位置で構成されるコンポーネント位置のリスト。

*location* 引数が複数の場合は、スペースで区切ります。

*location* 形式は、オプションであり、特定の位置にあるボード上の特定のコンポーネントを指定するために使用されます。

たとえば、*location* SB5/P0/B1/D3 は、SB5 にあるプロセッサ 0 のバンク 1 上の Dimm 3 を示します。SB0/PP1 *location* は、SB0 にあるプロセッサペア 1 を示します。CS0/ABUS1 *location* は、CS0 にあるアドレスバス 1 を示します。

次の *board\_loc* 形式が使用できます。

SB(0...17)

IO(0...17)

CS(0|1)

EX(0...17)

プロセッサ位置は、単一のプロセッサまたはプロセッサペアを示します。

1 枚の CPU/メモリーボードでは、4 つのプロセッサが使用できます。ボード上のプロセッサペアは、procs 0 と 1、および procs 2 と 3 です。

## disablecomponent(1M)

MaxCPU には、procs 0 と 1、および 1 つのみの proc ペア (PP0) の 2 つのプロセッサがあります。このボードに PP1 を使用すると、disablecomponent が終了し、エラーメッセージが表示されます。

次の *proc* 形式が使用できます。

P(0..3)

PP(0|1)

次の *bank* 形式が使用できます。

B(0..3)

次の *dimm* 形式が使用できます。

D(0..3)

hsPCI アセンブリには、ホットスワップ可能なカセットが含まれます。

次の *hsPCI* 形式が使用できます。

C(3|5)

V(0|1)

バス位置には、アドレス、データおよび応答の 3 つがあります。

次の *bus* 形式が使用できます。

ABUS|DBUS|RBUS (0|1)

### 拡張機能説明

#### 必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権、ドメイン管理者特権またはドメイン構成者特権が必要です。プラットフォーム特権を持っている場合は、プラットフォームのコンポーネントに対してのみ、このコマンドを実行することができます。ドメイン特権を持っている場合は、特権を持っているドメインに対してのみこのコマンドを実行することができます。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者ガイド』の第 2 章を参照してください。

## 使用例

**使用例 1** – システムボード 1 の CSB 0 とプロセッサ 2 をドメイン A ブラックリストに追加する

```
sc0:sms-user:>disablecomponent -dA CS0 SB1/P2
```

**使用例 2** – プラットフォームブラックリストにシステムボード 3 のプロセッサペア 1 を追加する

```
sc0:sms-user:>disablecomponent SB3/PP1
```

**使用例 3** – IO ボード 6 の 5V スロット 0 内の hsPCI カセットをドメイン A ブラックリストに追加する

```
sc0:sms-user:>disablecomponent -dA IO6/C5V0
```

**使用例 4** – EX9 の データバス CS0 をドメイン A ブラックリストに追加する

```
sc0:sms-user:>disablecomponent -dA EX9/DBUS0
```

**使用例 5** – システムボード 1 の CSB 0 とプロセッサ 2 をドメイン A ブラックリストに追加する (アップグレードが予定されているため)

```
sc0:sms-user:>disablecomponent -dA -i upgrade CS0 SB1/P2
```

**使用例 6** – システムボード 3 のプロセッサペア 1 をプラットフォームブラックリストに追加する (サービスが必要なため)

```
sc0:sms-user:>disablecomponent -i "Because it needs service" SB3/PP1
```

## 終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

## 属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

## disablecomponent(1M)

|      |                                                                                                                                                                                                                          |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ファイル | <p>このコマンドでは次のファイルが使用されます。</p> <p><code>/etc/opt/SUNWSMS/config/platform/blacklist</code></p> <p>除外されるプラットフォームコンポーネントの一覧。</p> <p><code>/etc/opt/SUNWSMS/config/domain_id/blacklist</code></p> <p>除外されるドメインコンポーネントの一覧。</p> |
| 関連項目 | <p><code>addboard(1M)</code>、<code>enablecomponent(1M)</code>、<code>esmd(1M)</code>、<code>showcomponent(1M)</code></p>                                                                                                   |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前     | dsmd - ドメインの状態監視デーモン                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 形式     | dsmd                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 機能説明   | <p>dsmd(1M) は、最大 18 個のドメインの状態およびオペレーティングシステム (OS) のハートビートを監視します。</p> <p>dsmd はドメインを自動的に回復し、ドメインに関するハードウェアエラーを処理します。ドメインが停止すると、dsmd はドメインに対して <code>reset(1M)</code> を実行し、CPU レジスタとハードウェアの設定ダンプを収集し、2 つのファイルに保存します。</p> <p>ドメインの状態変化はすべて監視されており、メッセージレベルが <code>INFO</code> のものはドメイン特有のログファイルに記録されています。その他のメッセージレベルのものは、状態変化について記録されません。</p> <p>このデーモンは、<code>ssd(1M)</code> デーモンによって自動的に開始されます。コマンド行から手動で開始しないでください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 拡張機能説明 | <p>dsmd は以下のイベントを記録し、そのイベントが発生した場所からの回復を試行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ドメインの起動に失敗</li> <li>■ エラーのリセット</li> <li>■ Solaris のハング</li> <li>■ ドメインパニック</li> <li>■ ドメインのリセットまたは再起動</li> <li>■ DStop</li> <li>■ 起動/パニック/<code>error_reset_sync</code> タイムアウト</li> </ul> <p>dsmd クライアントには、以下の内容が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <code>dxs(1M)</code> — ドメイン X サーバーデーモン</li> <li>■ <code>efe</code> — Sun Management Center デーモン</li> <li>■ <code>osd(1M)</code> — OpenBoot PROM デーモン</li> <li>■ <code>pcd(1M)</code> — プラットフォームの設定データベースデーモン</li> <li>■ <code>esmd(1M)</code> — 環境状態の監視デーモン</li> </ul> <p>dsmd は、以下のクライアントです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <code>hwad(1M)</code> — ハードウェアアクセスデーモン</li> </ul> |

| <p>ファイル</p>  | <p>■ setkeyswitch(1M) — 仮想キースイッチ制御コマンド</p> <p>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』を参照してください。</p> <p>次のファイルがサポートされています。</p> <p><code>/etc/opt/SUNWSMS/startup/ssd_start</code><br/>             ssd 用のデフォルトの起動</p> <p><code>/var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/</code><br/>             メッセージファイルと hpost ダンプファイルを格納する</p> <p><code>/var/opt/SUNWSMS/SMS/adm/domain_id/post/</code><br/>             dstop およびハードウェア設定ダンプファイルを格納する</p> <p><code>/export/home/sms-user/xir_dump/</code><br/>             すべてのドメインに関する xir ダンプファイルを格納する</p> |       |     |              |           |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|--------------|-----------|
| <p>属性</p>    | <p>次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left; padding: 5px;">属性タイプ</th> <th style="text-align: left; padding: 5px;">属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">Availability</td> <td style="padding: 5px;">SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table>                                                                                                                                                    | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ        | 属性値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |       |     |              |           |
| Availability | SUNWSMSop                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |       |     |              |           |
| <p>関連項目</p>  | <p>dxs(1M)、esmd(1M)、hwad(1M)、osd(1M)、pcd(1M)、reset(1M)、setkeyswitch(1M)、ssd(1M)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |       |     |              |           |

| 名前           | dxs - ドメイン X サーバー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |       |     |              |           |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|--------------|-----------|
| 形式           | dxs [-S] -d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |       |     |              |           |
| 機能説明         | <p>dxs(1M) は、ドメインに対するソフトウェアサポートを提供します。具体的には、仮想コンソール機能、動的再構成メールボックスサポート、および PCI メールボックスサポートが含まれています。メールボックスサポートでは、ドメインドライバの要求とイベントを処理します。仮想コンソール機能によって、コンソールプログラムを実行している 1 人、または複数のユーザーが、ドメインの仮想コンソールにアクセスできるようになります。</p> <p>ドメインと Solaris が稼働中の場合は、dxs は、ドメインのコンソールおよびドライバ (cvcd) と、稼働中のコンソールウィンドウの中継として機能します。ドメインで Solaris が稼働していない場合は、dxs は、OpenBoot PROM と、実行中のコンソールウィンドウの中継として機能します。</p> <p>ドメイン X サーバーは、ssd(1M) デーモンによって、それぞれのアクティブなドメインに対して自動的に開始されます。コマンド行から手動で開始しないでください。ドメインが停止すると、ドメインの dxs は終了します。</p> |       |     |              |           |
| オプション        | <p>-d <i>domain_id</i>   ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p>-d <i>domain_tag</i>   addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。</p> <p>-S                コンソールの出力ログを使用不可にします。デフォルトでは、ログは使用可能で、/var/opt/SUNWSMS/adm/<i>domain_id</i>/console ファイルに書き込まれます。</p>                                                                                                                                                                                                                                   |       |     |              |           |
| 終了ステータス      | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0                正常に終了しました。</p> <p>0 以外          エラーが発生しました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |       |     |              |           |
| 属性           | <p>次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table>                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ        | 属性値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |       |     |              |           |
| Availability | SUNWSMSop                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |       |     |              |           |
| 関連項目         | addtag(1M)、console(1M)、ssd(1M)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |       |     |              |           |

## enablecomponent(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | enablecomponent – 指定したブラックリストから特定のコンポーネントを削除                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 形式    | enablecomponent [-a -d <i>domain_tag</i>   <i>domain_id</i> ] <i>location</i> [ <i>location</i> ]...<br>enablecomponent -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 機能説明  | <p>enablecomponent(1M) は、プラットフォーム、ドメイン、または ASR のブラックリストからコンポーネントを削除し、起動できるようにします。</p> <p><i>blacklist</i> は、POST が起動時に使用できないコンポーネントを一覧表示した内部ファイルです。POST はシステムを起動用に準備する前にブラックリストファイルを読み取り、OpenBoot PROM とともに正常にテストが完了したコンポーネントのみのリストを渡します。ブラックリストにあるファイルは除外されます。SMS は、ドメインボード、プラットフォームボード、内部の ASR についての 3 つのブラックリストをサポートしています。</p> <p>ASR <i>blacklist</i> は、環境の条件によって esmd がコンポーネントの電源を切断したときに、esmd で作成される内部ファイルです。電源ライブラリおよび SMS コマンドが不正なコンポーネントをオンに設定しないようにする場合にも、ASR ブラックリストを使用します。</p> <p>オプションを指定しないで enablecomponent を使用すると、プラットフォームブラックリストを編集することができます。</p> <p>特定のコンポーネントがブラックリストに定義されているかどうかを表示するには、showcomponent(1M) を使用します。</p> <p>プラットフォームとドメインのブラックリストの使用と編集に関する詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』を参照してください。</p> |
| オプション | <p>-a ASR ブラックリストから削除するコンポーネントを指定します。</p> <p>-d <i>domain_id</i> ドメインの ID。有効な <i>domain_id</i> は A ~ R で、大文字と小文字は区別されません。ドメインブラックリストから削除するコンポーネントを指定します。</p> <p>-d <i>domain_tag</i> addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。ドメインブラックリストから削除するコンポーネントを指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |



## オペランド

次のオペランドがサポートされています。

*location* スラッシュで区切られた *board\_loc/proc/bank/dimm* または *board\_loc/hsPCI* または *board\_loc/bus* 位置で構成されるコンポーネント位置のリスト。

*location* 引数が複数の場合は、スペースで区切ります。

*location* 形式は、オプションであり、特定の位置にあるボード上の特定のコンポーネントを指定するために使用されます。

たとえば、*location SB5/P0/B1/D3* は、SB5 にあるプロセッサ 0 のバンク 1 上の Dimm 3 を示します。SB0/PP1 *location* は、SB0 にあるプロセッサペア 1 を示します。CS0/ABUS1 *location* は、CS0 にあるアドレスバス 1 を示します。

次の *board\_loc* 形式が使用できます。

SB(0...17)

IO(0...17)

CS(0|1)

EX(0...17)

プロセッサ位置は、単一のプロセッサまたはプロセッサペアを示します。

1 枚の CPU/メモリーボードでは、4 つのプロセッサが使用できます。ボード上のプロセッサペアは、procs 0 と 1、および procs 2 と 3 です。

MaxCPU には、procs 0 と 1、および 1 つのみの proc ペア (PP0) の 2 つのプロセッサがあります。このボードに PP1 を使用すると、disablecomponent が終了し、エラーメッセージが表示されます。

次の *proc* 形式が使用できます。

P(0...3)

PP(0|1)

## enablecomponent(1M)

次の *bank* 形式が使用できます。

B(0...3)

次の *dimmm* 形式が使用できます。

D(0...3)

hsPCI 構成部品には、ホットスワップ可能なカセットが含まれます。

次の *hsPCI* 形式が使用できます。

C(3|5)V(0|1)

バス位置には、アドレス、データおよび応答の 3 つがあります。

次の *bus* 形式が使用できます。

ABUS|DBUS|RBUS (0|1)

### 拡張機能説明

#### 必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権、ドメイン管理者特権またはドメイン構成者特権が必要です。プラットフォーム特権を持っている場合は、プラットフォームのコンポーネントに対してのみ、このコマンドを実行することができます。ドメイン特権を持っている場合は、特権を持っているドメインに対してのみこのコマンドを実行することができます。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

#### 使用例

使用例 1 – ASR ブラックリストから CSB0 を削除する

```
sc0:sms-user:> enablecomponent -a CS0
```

使用例 2 – プラットフォームブラックリストから入出力 7 のプロセッサペア 0 を削除する

```
sc0:sms-user:> enablecomponent IO7/PP0
```

**使用例 3** ドメイン A ブラックリストからシステムボード 3 のプロセッサ 1 を削除する

```
sc0:sms-user:> enablecomponent -dA SB3/P1
```

**使用例 4** ドメイン A ブラックリストから入出力ボード 6 の 3V スロット内の hsPCI カセットを削除する

```
sc0:sms-user:> enablecomponent -dA IO6/C3V0
```

**使用例 5** ドメイン A ブラックリストから EX7 のアドレスバス CS0 を削除する

```
sc0:sms-user:> enablecomponent -dA EX7/ABUS0
```

#### 終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

#### 属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

#### ファイル

このコマンドでは次のファイルが使用されます。

```
/etc/opt/SUNWSMS/config/asr/blacklist
```

esmd によって除外されるコンポーネントの一覧。

---

**注 -** このファイルは内部で作成されて使用されます。手動で編集しないでください。

---

```
/etc/opt/SUNWSMS/config/platform/blacklist
```

除外されるプラットフォームコンポーネントの一覧。

```
/etc/opt/SUNWSMS/config/domain_id/blacklist
```

除外されるドメインコンポーネントの一覧。

enablecomponent(1M)

関連項目

addboard(1M)、disablecomponent(1M)、esmd(1M)、  
showcomponent(1M)

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前     | esmd – 環境状態監視デーモン                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 形式     | esmd                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 機能説明   | <p>esmd(1M) は、システムキャビネットの環境条件 (電圧、温度、ファントレイ、電源装置など) を監視します。esmd は異常な条件を記録し、必要に応じて処置を行い、ハードウェアを保護します。</p> <p>このデーモンは、ssd(1M) デーモンによって自動的に開始されます。コマンド行から手動で開始しないでください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 拡張機能説明 | <p>esmd は、次のボードが条件の範囲外かどうかを監視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ CPU ボード</li> <li>■ MaxCPU ボード</li> <li>■ HPCI ボード</li> <li>■ エクспанダボード</li> <li>■ センタープレーンサポートボード</li> <li>■ SC 制御ボード</li> <li>■ SC I/O</li> <li>■ ファン制御ボード</li> <li>■ 電源装置 (バルク)</li> </ul> <p>esmd は次のイベントを認識し、適切なクライアントまたはデーモンを警告します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ コンポーネントの挿入— あるポーリングサイクルから次のポーリングサイクルへ、コンポーネントの存在を通知します。クライアント (hwad(1M)、pcd(1M)、dsmd(1M) など) が特定のコンポーネントタイプに対する通知を要求すると、esmd は通知を送信します。</li> <li>■ コンポーネントの削除— あるポーリングサイクルから次のポーリングサイクルへ、コンポーネントの欠如を通知します。クライアント (hwad、pcd、dsmd など) が特定のコンポーネントタイプに対する通知を要求すると、esmd は通知を送信します。</li> <li>■ PCI カード挿入— PCI カードが PCI ボードに挿入された場合に通知します。</li> <li>■ PCI カードの削除— PCI ボードから PCI カードが削除された場合に通知します。</li> <li>■ ボードの電源切断— ボードの電源が切断された場合、または (以前はオンになっていた電源が) オフになった場合に通知します。</li> </ul> |

- ボードの電源投入— ボードの電源が投入された、または (以前はオフになっていた電源が) オンになった場合に通知します。
- ボードの温度変化— ボードの温度センサーが 2 度の差を記録した場合、または温度のしきい値に達した場合に通知します。
- ボードの電圧変化— 電圧センサーの値が変化して、範囲外のしきい値に近づいた場合、または新しい値が範囲外の場合に通知します。この場合には、esmd は、ドメインからボードを削除し、電源を切ります。
- ボードの電流変化— 監視されているボードの電流値が変化した場合に通知します。
- CSB の状態変化— 監視されている CBS ボードのプロパティが変化した場合に通知します。
- EXB 状態変化— 監視されている EXB ボードのプロパティが変化した場合に通知します。
- CPU 状態変化— 監視されている CPU ボードのプロパティが変化した場合に通知します。
- 大量電源状態変化— 大量電源装置のプロパティが変化した場合に通知します。
- ファントレー状態変化— 監視されているファントレーのプロパティが変化した場合に通知します。
- PCI カード状態変化— 監視されている PCI カードのプロパティが変化した場合に通知します。

esmd クライアントには以下のものが含まれています。

- hwad — ハードウェアアクセスのデーモン
- pcd — プラットフォーム設定データベースのデーモン
- dsmd — ドメイン状態の監視デーモン

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』を参照してください。

#### 終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 0 以外 エラーが発生しました。

## ファイル

次のファイルがサポートされています。

/var/opt/SUNWSMS/adm/platform/messages

メッセージファイルの格納

## 属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

## 関連項目

dsmd(1M)、hwad(1M)、pcd(1M)、ssd(1M)

## flashupdate(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | flashupdate - CPU ボード、MaxCPU ボード、およびシステムコントローラ (SC) 上のフラッシュ PROM を更新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 形式    | flashupdate [-d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> ] -f <i>path</i> [-q] [-y -n]<br>flashupdate [-f <i>path</i> ] [-y -n] <i>location</i> [ <i>location...</i> ]<br>flashupdate -h                                                                                                                                                                                                      |
| 機能説明  | <p>flashupdate(1M) は、システムコントローラ (SC) のフラッシュ PROM を更新し、ドメインの CPU および MaxCPU ボード、特定のボード位置を更新します。</p> <p>システムコントローラのフラッシュ PROM を更新するには、更新する SC にログインし、フラッシュ PROM を更新するように指定します。それぞれのフラッシュ PROM には、関連付けられている固有のイメージファイルがありません。</p> <p>flashupdate は、更新の前に、現在のフラッシュ PROM およびフラッシュイメージファイルの情報を表示します。</p> <p>ドメインの CPU または MaxCPU ボードで、secure 位置に仮想キースイッチの設定が定義されている場合は、フラッシュ PROM は更新されません。</p> |
| オプション | <p>-d <i>domain_id</i>   ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p>-d <i>domain_tag</i>   addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。</p> <p>-f <i>path</i>         フラッシュイメージファイルの名前。</p> <p>                  <i>path</i> 引数は、イメージファイルの名前を指定します。これは、<i>location</i> 引数で指定されるフラッシュ PROM の更新で使用されます。</p> <p>-h               ヘルプ。使用方法を表示します。</p>                               |
| 注 -   | 単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されません。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |



- n すべてのプロンプトに自動的に「no」と応答します。プロンプトは、  
-q オプションとともに使用しない限り表示されます。
- q 非出力。プロンプトを含むすべての `stdout` へのメッセージを抑制します。  
  
単独で使用されると、-q はデフォルトですべてのプロンプトに対して  
-n オプションを指定します。  
  
-y オプションまたは -n オプションのどちらかとともに使用すると、  
-q ではすべてのユーザープロンプトを抑制し、選択したオプションに  
基づいて自動的に「y」または「n」のどちらかで応答します。
- y すべてのプロンプトに自動的に「yes」と応答します。プロンプトは、  
-q オプションとともに使用しない限り表示されます。

## オペランド

次のオペランドがサポートされています。

*location*           フラッシュ PROM の位置。

フラッシュ PROM の位置は、スラッシュで区切られた形式の  
*board\_loc/FlashPROM\_id* で構成されます。

*FlashPROM\_id* は、CPU ボードおよびシステムコントローラ  
(SC) 上の特定のフラッシュ PROM (FP0 または FP1) を更新する  
場合のみ指定します。

たとえば、SB4/FP0 という位置は、スロット 4 の CPU ボード  
上のフラッシュ PROM 0 を表します。

次の *board\_loc* 形式が使用できます。

SB(0..17)  
IO(0..17)  
SC(0-1)

*FlashPROM\_id* を以下のような形式で使用することができま  
す。

FP(0|1)

## flashupdate(1M)

### 拡張機能説明

#### 必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権またはドメイン管理者特権が必要です。プラットフォーム管理者特権を持っている場合は、すべてのボードを更新することができます。ドメイン管理者の特権を持っている場合は、管理者のドメインでアクティブまたは使用可能になっているボードのみ更新できます。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

#### 使用例

**使用例 1** – システムコントローラ 0 のフラッシュ PROM を更新する

```
sc0:sms-user:>flashupdate -f /opt/SUNWSMS/firmware/SCOBPimg.di SC0/FP0
```

**使用例 2** – システムコントローラ 0 のフラッシュ PROM 1 を更新する

```
sc0:sms-user:>flashupdate -f /opt/SUNWSMS/firmware/SSCPOST.di SC0/FP1
```

**使用例 3** – システムコントローラ 1 のフラッシュ PROM 0 を更新する

```
sc1:sms-user:>flashupdate -f /opt/SUNWSMS/firmware/SCOBPimg.di SC1/FP0
```

**使用例 4** – slot0 ボードのフラッシュ PROM 0 を更新する

```
sc0:sms-user:>flashupdate -f /opt/SUNWSMS/hostobjs/sgcpu.flash SB0/FP0
```

**使用例 5** – CPU ボード 17 の両方のフラッシュ PROM を更新する

```
sc0:sms-user:>flashupdate -f /opt/SUNWSMS/hostobjs/sgcpu.flash SB17
```

**使用例 6** – ドメイン A のフラッシュ PROM を更新する

```
sc0:sms-user:>flashupdate -d A -f /opt/SUNWSMS/hostobjs/sgcpu.flash
```

#### 終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

#### 属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

ファイル

このコマンドでは、以下のファイルを使用します。

/opt/SUNWSMS/firmware/SCOBPimg.di

SC 上のフラッシュ PROM 0 を更新する場合に使用します。

/opt/SUNWSMS/firmware/SSCPOST.di

SC 上のフラッシュ PROM 1 を更新する場合に使用します。

/opt/SUNWSMS/hostobjs/sgcpu.flash

CPU および MaxCPU ボード上のフラッシュ PROM を更新する場合に使用します。

関連項目

setkeyswitch(1M)

fomd(1M)

| 名前           | fomd – フェイルオーバー管理デーモン                                                                                                                                                                                                                                                                           |       |     |              |           |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|--------------|-----------|
| 形式           | fomd                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |     |              |           |
| 機能説明         | <p>fomd(1M) は、システムコントローラ (SC) のフェイルオーバーメカニズムの中枢です。fomd デーモンはローカルと遠隔の SC 上の障害を検出し、(フェイルオーバーまたはテイクオーバーに対する) 適切な処置を行います。</p> <p>fomd デーモンによって、2 つの SC 間で必要な同期データが現行のものであることが保証されます。fomd はマスター SC とスタンバイ SC の両方を実行します。</p> <p>このデーモンは <code>ssd(1M)</code> によって自動的に開始されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> |       |     |              |           |
| ファイル         | <p>以下の構成ファイルが必要です。</p> <p><code>/etc/opt/SUNWSMS/config/fomd.cf</code></p> <p>フェイルオーバーデーモンの構成ファイル</p> <hr/> <p>注 – これは SMS システムの内部ファイルで、サンの担当者のみ変更することができます。</p> <hr/>                                                                                                                          |       |     |              |           |
| 終了ステータス      | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0 正常に終了しました。</p> <p>0 以外 エラーが発生しました。</p>                                                                                                                                                                                                                                 |       |     |              |           |
| 属性           | <p>次の属性の説明については、<code>attributes(5)</code> を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table>                                                                              | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ        | 属性値                                                                                                                                                                                                                                                                                             |       |     |              |           |
| Availability | SUNWSMSop                                                                                                                                                                                                                                                                                       |       |     |              |           |
| 関連項目         | <code>setfailover(1M)</code> 、 <code>showfailover(1M)</code>                                                                                                                                                                                                                                    |       |     |              |           |

| 名前           | frad - FRU アクセスデーモン                                                                                                                                                                                                                                                             |       |     |              |           |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|--------------|-----------|
| 形式           | frad                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |     |              |           |
| 機能説明         | <p>frad(1M) はシステムコントローラ (SC) 上で稼働し、排他のメカニズムを提供します。デーモンなどの SMS プロセスは、このメカニズムによって、特定の Sun Fire 15K システムの FRU SEEPROM にアクセスします。また、frad は、FRU ID ソフトウェアツールに必要な、プラットフォーム固有のインタフェースを Sun Fire 15K SEEPROM に提供します。</p> <p>このデーモンは、ssd(1M) デーモンによって自動的に開始されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> |       |     |              |           |
| 終了ステータス      | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0        正常に終了しました。</p> <p>0 以外 エラーが発生しました。</p>                                                                                                                                                                                                          |       |     |              |           |
| 属性           | <p>次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。</p> <table border="1" data-bbox="496 1020 977 1129"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table>                                             | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ        | 属性値                                                                                                                                                                                                                                                                             |       |     |              |           |
| Availability | SUNWSMSop                                                                                                                                                                                                                                                                       |       |     |              |           |
| 関連項目         | ssd(1M)                                                                                                                                                                                                                                                                         |       |     |              |           |

## help(1M)

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前        | help – SMS コマンドのヘルプ情報を表示                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 形式        | help [ <i>command_name</i> ]<br><br>help -h                                                                                                                                                                                                                                                |
| 機能説明      | 引数を指定しないで help(1M) を使用すると、有効な SMS コマンドとその構文が表示されます。引数を指定すると、 <i>command_name</i> オペランドは、そのコマンドのマニュアルページを表示します。                                                                                                                                                                             |
| オプション     | -h     ヘルプ。使用方法を表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|           | <hr/> <b>注 -</b> 単一で使用します。-h と組み合わせて指定されたオプションは無視されます。 <hr/>                                                                                                                                                                                                                               |
|           | -v     すべての利用可能コマンド情報を表示します。                                                                                                                                                                                                                                                               |
| オペランド     | 次のオペランドがサポートされています。<br><br><i>command_name</i> help でマニュアルページを表示する対象となるコマンド。                                                                                                                                                                                                               |
| 拡張機能説明    |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 必要なグループ特権 | このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、ドメイン設定者、またはスーパーユーザーの特権が必要です。<br><br>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。                                                                                                                     |
| 使用例       | <b>使用例 1 – ヘルプを使用する</b><br><br>すべてのコマンドを表示します。<br><br><pre>sc0:sms-user:&gt;help addtag -d domain_id domain_tag -anew_tag [-q ] [-y   -n] addboard -d domain_id domain_tag [ -c function] [-r retry_count [-t timeout]] [-q ] [-y   -n]location [location] ...  ... tmd [ -t number]</pre> |

## 使用例 2 - コマンドのヘルプを使用する

man(1M) ページを表示します。

```
sc0:sms-user:>help addtag
```

```
Maintenance Commands addtag(1M)
```

### NAME

```
addtag - assign a domain name (tag) to a domain
```

### SYNOPSIS

```
addtag -d domain_id|domain_tag -anew_tag [-q] [-y | -n]
```

## 終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

## 属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

## 関連項目

man(1M)

## hpost(1M)

| 名前           | hpost – Sun Fire 15K の電源投入時自己診断 (POST) 制御系アプリケーション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |     |              |           |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|--------------|-----------|
| 形式           | hpost                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |       |     |              |           |
| 機能説明         | <p>hpost(1M) は、Sun Fire 15K ドメインのハードウェアをプローブ、テスト、設定し、OpenBoot PROM および Solaris の環境で使用するための準備を行います。代替モードでは、動的再構成 (DR) を使用して、シングルボードを実行中のドメインに接続する準備を行います。また、システムコントローラ (SC) 上にハードウェアの状態ダンプファイルを作成し、重大度の低いエラー状態を消去して、関連する Sun Fire 15K ハードウェアの操作を実行します。</p> <hr/> <p><b>注 –</b> このアプリケーションは、SMS の他のアプリケーションまたはデーモンでのみ実行することを前提としています。このアプリケーションをコマンド行から直接起動すると、実行中のドメインに障害が発生する可能性があります。このような障害はサポートの<b>対象外</b>となります。</p> <hr/> |       |     |              |           |
|              | <p>hpost のクライアントには、以下のものが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ dsmd(1M)</li><li>■ dxs(1M)</li><li>■ setkeyswitch(1M)</li></ul> <p>hpost は、以下のクライアントです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ hwad(1M)</li><li>■ pcd(1M)</li></ul> <p>hpost では、SUNWSMSlp パッケージで提供されているフラッシュ PROM イメージ、およびダウンロード可能なローカル POST 実行可能ファイルが必要です。</p>                                                                            |       |     |              |           |
| 属性           | <p>次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。</p> <table border="1"><thead><tr><th>属性タイプ</th><th>属性値</th></tr></thead><tbody><tr><td>Availability</td><td>SUNWSMSpo</td></tr></tbody></table>                                                                                                                                                                                                                                      | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSpo |
| 属性タイプ        | 属性値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |       |     |              |           |
| Availability | SUNWSMSpo                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |       |     |              |           |
| 関連項目         | dsmd(1m)、hwad(1m)、pcd(1m)、setkeyswitch(1m)、dxs(1m)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |     |              |           |



| 名前           | hwad - ハードウェアアクセスデーモン                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |       |     |              |           |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|--------------|-----------|
| 形式           | hwad                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |       |     |              |           |
| 機能説明         | <p>hwad(1M) は、排他のメカニズムを提供します。このメカニズムによって、デーモンなどの SMS のプロセスは、ハードウェアのアクセス、制御、監視、および設定を行います。</p> <p>hwad は、メインモードまたはスペアモードで稼働し、フェイルオーバーデーモン (fomd(1M)) に対して、デーモンが発生した際にシステムコントローラ (SC) が果たす役割を要求します。</p> <p>hwad は、起動時にすべてのドライバ (sbbc、echip、gchip、console bus) をオープンし、ioctl1 呼び出しを使用して、これらのドライバとインタフェースをとります。hwad は、デバイスプレゼンスレジスタの内容を読み込んでシステム内にボードが存在することを確認し、クライアントがボードにアクセスできるようにします。</p> <p>hwad には IOSRAM と Mbox のインタフェースも用意されています。これらのインタフェースは、SC とドメイン間の通信をサポートします。動的再構成 (DR) では、hwad は、新しい IOSRAM (トンネルスイッチ) と通信するよう指示します。darb 割り込みでは、hwad は dsmd(1M) に、dstop または rstop があるかどうかを通知します。また、発生した Mbox 割り込みのタイプによって、関連する SMS デーモンを通知します。</p> <p>hwad は、console バスおよび JTAG エラーを検出し、回復します。</p> <p>このデーモンは、ssd(1M) デーモンによって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> |       |     |              |           |
| 属性           | <p>次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ        | 属性値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |       |     |              |           |
| Availability | SUNWSMSop                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |       |     |              |           |
| 関連項目         | dsmd(1M)、ssd(1M)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |       |     |              |           |

## initcmdsyc(1M)

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前   | initcmdsyc、cmdsyc、cancelcmdsyc、savecmdsyc – コマンド同期コマンド                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 形式   | <pre>cancelcmdsyc cmdsyc_descriptor<br/>initcmdsyc script_name [parameters]<br/>savecmdsyc -M identifier cmdsyc_descriptor<br/>[cancel init save]cmdsyc -h</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 機能説明 | <p>これらのコマンド同期コマンドはともに機能し、システムコントローラ (SC) のフェイルオーバーによって中断されたユーザー定義のスキプトの回復を制御します。コマンドを同期化するには、ユーザー定義のスキプトに次のコマンドを挿入します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ <code>initcmdsyc</code> は、回復するスキプトを特定するための、コマンド同期記述子を作成します。<br/>この記述子は、コマンド同期リストの中に定義されます。このリストは、フェイルオーバーが発生した後で、新しいメインの SC で再起動するスキプトとコマンドを特定します。</li><li>■ <code>savecmdsyc</code> は、フェイルオーバーが発生した後で、スキプト内のどの場所から処理を再開するかを特定するためのマーカーを追加します。</li><li>■ <code>cancelcmdsyc</code> は、コマンド同期リストからコマンド同期記述子を削除します。これによって、スキプトは 1 度だけ実行され、それ以降のフェイルオーバーの後には実行されません。</li></ul> <p>コマンド同期リストから記述子を削除するために、スキプトのすべての出力先には、必ず 1 つの <code>cancelcmdsyc</code> シーケンスを定義します。記述子が削除されていない場合にフェイルオーバーが発生すると、スキプトは、新しいメイン SC 上で実行されます。</p> <hr/> <p><b>注 -</b> <code>initcmdsyc</code> と <code>cancelcmdsyc</code> のシーケンスは、コマンドが同期化されるように必ず 1 つのスキプトに定義します。<code>savecmdsyc</code> はオプションのコマンドで、スキプト内の場所をマークして処理を再開する場所を特定する場合のみ使用します。特別な再開ポイントが必要ない場合は、代わりに <code>runccmdsyc(1M)</code> を使用することもできます。</p> <hr/> |

## オプション

次のオプションがサポートされています。

- cmdsync\_descriptor*      コマンド同期記述子 (ユーザー定義スクリプトを指定する記述子) を表します。この記述子は、`initcmdsync` コマンドの標準の出力値として返されます。
- `-h`                              ヘルプ。使用方法を表示します。

---

**注 -**    単一で使用します。 `-h` に追加して指定されたオプションは無視されません。

---

- `-M identifier`                  フェイルオーバーの後に、スクリプトを再開する場所を指定します。この記述子は、正の整数とします。
- parameters*                      ユーザー定義スクリプトに関連するオプションまたはパラメータを表します。これらのパラメータは、スペア SC に格納されており、フェイルオーバーの後で指定されたスクリプトを再起動する際に使用します。
- script\_name*                      同期的に処理されるユーザー定義スクリプトの名前を表します。

## 拡張機能説明

コマンド同期コマンドは、ユーザー定義スクリプト内の特定の論理ポイントに挿入します。

たとえば、**Korn** シェルスクリプトは、以下のようになります。

```
MAIN CODE STARTS HERE
Be sure to use a cleanup procedure to handle any interrupts.
Use the cancelcmdsync to remove the script from the command
synchronization list. Otherwise, the command will get restarted
on the new main SC.
#
clean_up () {
 cancelcmdsync $desc
 exit
}

Declare the clean_up function to capture system signals
and cleanup.
trap "clean_up" INT HUP TERM QUIT PWR URG
goto_label=1
Process the arguments, capturing the -M marker point if provided
#
for arg in $*; do
 case $arg in
```

## initcmdsyc(1M)

```
 -M)
 goto_label=$arg;;
 .
 .
 .
 esac
done
Place this script and all its parameters in the command synchronization
list, which indicates the commands to be restarted after an SC failover.
#
NOTE:The script must be executable by the user defined in fcmd.cf
and reside in the same directory on both the main and the spare SC.
If the command is not part of the defined PATH for the user, the
absolute filename must be passed with the initcmdsyc command.
#
initcmdsyc script_name parameters
The marker point is stored in the goto_label variable.
Keep executing this script until all cases have been processed or an
error is detected.
#
while (($goto_label != 0)) ; do

 #
 # Each case should represent a synchronization point in the script.
 #
 case $goto_label in

 #
 # Step 1:Do something
 #
 1)
 do_something
 .
 .
 .

 # Execute the savecmdsyc command with the script's
 # descriptor and a unique marker to save the position.
 # If a failover occurs here, the commands
 # represented in the next goto_label (2) will be
 # resumed.
 #
 savecmdsyc -M $(($goto_label + 1)) $desc
 goto_label=$(($goto_label + 1))
 ;;

 #
 # Step 2:Do more things
 #
 2)
 do_more_things
 .
 .
 .
 savecmdsyc -M $(($goto_label + 1)) $desc
 goto_label=$(($goto_label + 1))
 ;;

 #
 # Step 3:Finish the last step and set the goto_label to 0
 esac
done
```

```

so that the script ends.
3)
 finish_last_step
 .
 .
 goto_label=0
 ;;
esac
done

END OF MAIN CODE
Remember to execute cancelcmdsyc to remove the script from the
command synchronization list. Otherwise, the command will be restarted
after the failover.
#
cancelcmdsyc $desc

```

**必要なグループ特権**

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第2章を参照してください。

**終了ステータス**

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 0 以外 エラーが発生しました。

---

**注 -** `initcmdsyc` の標準出力には、コマンド同期記述子が含まれていません。(フェイルオーバーが終了した場合や、単一の SC 環境などで) フェイルオーバーが使用できない場合は、同期コマンドが含まれているスクリプトでは、プラットフォームのログファイルに対してエラーメッセージを生成し、ゼロ以外の終了コードを返します。これらのメッセージは無視することもできます。

---

## initcmdsyc(1M)

### 属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Architecture | All       |
| Availability | SUNWSMSop |
| Stability    | Evolving  |
| MT-Level     | Safe      |

### 関連項目

runcmdsync(1M), showcmdsync(1M)

### 注意事項

(同期コマンドを使用した) ユーザー定義スクリプトの例は、/opt/SUNWSMS/examples/cmdsyncディレクトリに保存されています。

| 名前           | kmd – SMS キー管理デーモン                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |       |     |              |                        |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|--------------|------------------------|
| 形式           | kmd                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |       |     |              |                        |
| 機能説明         | <p>kmd(1M) は、システムコントローラ (SC) とドメイン上で稼働しているサーバーとの通信を保証するために必要な IPSec セキュリティー関連付け (SA) を管理します。kmd は、SC 上のクライアントが開始したドメイン上のサーバーへの接続について、ソケットごとのポリシーを管理します。kmd は、ドメイン上のクライアントが開始した SC 上のサーバーへの接続について、共有ポリシーを管理します。</p> <p>現在のデフォルト設定には、ドメイン上の dcs (1M) および cvcd(1M) サーバーに接続する、SC 上の dca(1M) および dxs(1M) クライアントについての認証ポリシーが含まれています。</p> <p>このデーモンは、ssd(1M) デーモンによって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> |       |     |              |                        |
| オプション        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |       |     |              |                        |
| 拡張機能説明       | kmd は必ず root プロセスとして実行し、IPSec に対する pf_key インタフェースを使用できるようにします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |       |     |              |                        |
| 終了ステータス      | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0 正常に終了しました。</p> <p>0 以外 エラーが発生しました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |       |     |              |                        |
| 属性           | <p>次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSr,<br/>SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table>                                                                                                                                                                                | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSr,<br>SUNWSMSop |
| 属性タイプ        | 属性値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |       |     |              |                        |
| Availability | SUNWSMSr,<br>SUNWSMSop                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |       |     |              |                        |
| ファイル         | <p>kmd の設定では以下のファイルを使用します。</p> <p>/etc/opt/SUNWSMS/config/kmd_policy.cf</p> <p>kmd_policy.cf は、kmd で管理される共有ポリシーとソケットごとのポリシーを設定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                             |       |     |              |                        |

ポリシーの変更は、SC の `kmd_policy.cf` ファイルを編集して行います。影響を受けるドメインで、対応する変更を反映させる必要があります。

`kmd_policy.cf` の形式は、パイプ ('|') 文字で区切られた 8 つのフィールドから構成されるテーブルです。フィールドは、以下のようになります。

```
dir|d_port|protocol|sa_type|auth_alg|encr_alg|domain|login
```

フィールドの定義は以下のとおりです。

*dir* — 接続の方向。有効値は `sctodom` と `domtosc` です。

*d\_port* — 宛先ポート。

*protocol* — ソケットのプロトコル。有効値は `tcp`、`udp` です。

*sa\_type* — セキュリティー関連付けのタイプ。有効値は `ah`、`esp` です。

*auth\_alg* — 認証のアルゴリズム。有効値は `none`、`md5`、`sha1` です。

*encr\_alg* — 暗号化のアルゴリズム。有効値は、`none`、`des`、`3des` です。

*domain* — ドメイン ID。有効値は、整数と空白文字です。ドメイン ID を空白にすると、すべてのドメインに適用されるポリシーを定義します。すべてのドメインに適用されるポリシーよりも、特定ドメインのポリシーが優先されます。

*login* — ログイン名。有効な任意のログイン名を使用できます。

`kmd_policy.cf` ファイルのデフォルトのポリシーは、以下のようになります。

```
sctodom|665|tcp|ah|md5|none| |sms-dca|
sctodom|442|tcp|ah|md5|none| |sms-dxs|
```

ドメインに関するポリシーの設定は、標準 IPsec の構成ファイル (`/etc/inet/ipsecconf.init`) に保存されています。



デフォルトのポリシーは、以下のようになります。

```
{ dport sun-dr } permit { auth_alg md5 }
{ sport sun-dr } apply {auth_alg md5 sa unique }
{ dport cvc_hostd } permit { auth_alg md5 }
{ sport cvc_hostd } apply {auth_alg md5 sa unique }
```

関連項目

ssd(1M)、sckmd(1M)、ipseconf(1M)、pf\_key(1M)、ipsec(1M)、  
dca(1M)、dxs(1M)、dcs(1M)、cvcd(1M)

## mand(1M)

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前     | mand – 管理ネットワークデーモン                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 形式     | mand                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 機能説明   | <p>mand(1M) は、必要なネットワーク構成を提供することによって、管理ネットワーク (MAN) ドライバおよびフェイルオーバー管理デーモン (fomd(1M)) をサポートします。この構成情報には、ホスト名、IP アドレス、およびネットワークマスクが含まれています。mand は、プラットフォーム構成データベース (pcd(1M)) デーモンの各フィールド、およびシステムコントローラ (SC) の MAN ドライバを初期化・更新することもできます。</p> <p>mand は、メイン SC とスペア SC の両方で実行される SMS デーモンです。mand の役割は fomd によって設定されます。</p> <p>このデーモンは、ssd(1M) デーモンによって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p>                                                                                                                                                                                                                              |
| 拡張機能説明 | <p>SC-to-Domain および Domain-to-SC Internal Network (I1) データには、以下のものが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ ネットワークマスク</li><li>■ SC ホスト名</li><li>■ SC IP アドレス</li><li>■ ドメイン [A-R] IP ホスト名</li><li>■ ドメイン [A-R] IP アドレス</li></ul> <p>SC-to-SC internal Network (I2) データには、以下のものが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ ネットワークマスク</li><li>■ SC 0 ホスト名</li><li>■ SC 0 IP アドレス</li><li>■ SC 1 ホスト名</li><li>■ SC 1 IP アドレス</li></ul> <p>SC External Community (C) データには、以下のものが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ コミュニティフェイルオーバー IP アドレス</li><li>■ コミュニティ物理インタフェース名</li></ul> |

| 終了ステータス      | 次の終了値が返されます。<br>0 正常に終了しました。<br>0 以外 エラーが発生しました。                                                                                                                                                                                                                                                                                     |       |     |              |           |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|--------------|-----------|
| シグナル         | SIGHUP MAN.cf ファイルを再読み取りし、外部コミュニティ、および pcd のネットワークフィールドを再構成します。                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |     |              |           |
| ファイル         | 以下の構成ファイルが必要です。<br><br>/etc/opt/SUNWSMS/config/MAN.cf<br><br>このファイルには、domain-to-SC、SC-to-domain、SC-to-SC の管理ネットワークデータ、および SC へ外部アクセスするためのコミュニティデータが含まれています。<br><br>MAN.cf ファイルは手動で変更しないでください。                                                                                                                                        |       |     |              |           |
| 属性           | 次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                |       |     |              |           |
|              | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left; padding: 2px;">属性タイプ</th> <th style="text-align: left; padding: 2px;">属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 2px;">Availability</td> <td style="padding: 2px;">SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table> | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ        | 属性値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |       |     |              |           |
| Availability | SUNWSMSop                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |     |              |           |
| 関連項目         | fomd(1M)、pcd(1M)、smsconfig(1M)、ssd(1M)                                                                                                                                                                                                                                                                                               |       |     |              |           |

## mld(1M)

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前   | mld - メッセージロギングデーモン                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 形式   | mld [-f <i>config_file</i> ] [-t]                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 機能説明 | <p>mld(1M) は、SMS のすべてのデーモンに対するロギングサービスを提供します。mld は、ssd(1M) によって開始される SMS の最初のデーモンで、SMS の他のすべてのデーモンの出力を取得し、それらの起動フェーズで処理を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ プラットフォームログメッセージは、以下の場所に格納されています。<br/><pre>/var/opt/SUNWSMS/adm/platform/messages</pre>形式は以下のとおりです。<br/><pre>time host program [pid]:[msg_id hrtime_t level file_line] message</pre><i>file line</i> はオプションで、冗長モードの場合のみ示されます。<br/>たとえば、以下のようになります。<br/><pre>Aug 26 09:16:10 2000 sun15 mld[904]:[209 2345678901<br/>INFO MLDLOGGER.cc 141] Platform messages file created.</pre></li><li>■ ドメインログメッセージは、以下の場所に格納されています。<br/><pre>/var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/messages</pre>形式は、プラットフォームメッセージと同様ですが、pid の後に <i>domain_id</i> \ <i>domain_tag</i> が付加されています。<br/><pre>time host program [pid]domain_id \ domain_tag:[msg_id hrtime_t level<br/>file_line] message</pre>たとえば、以下のようになります。<br/><pre>Aug 26 09:18:55 2000 sun15 mld[904]-B (eng2):<br/>[314 2345678902 ERR LogManager.cc 424]<br/>message queue limit exceeded, messages will be<br/>dropped.</pre></li><li>■ ドメインシスログメッセージは、以下の場所に格納されています。<br/><pre>/var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/syslog</pre></li></ul> |

形式は、受信した形式と同様です。

### オプション

- `-f config_file` 代替の遠隔メッセージ受信構成ファイルに対する絶対パスを表します。
- `-t` (ドメイン `syslog` メッセージなどの) 遠隔メッセージ受信を無効にします。

### 終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 0 以外 エラーが発生しました。

### 属性

次の属性の説明については、`attributes(5)` を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

### ファイル

このコマンドでは次のファイルが使用されます。

`/var/opt/SUNWSMS/adm/.logger`

メッセージロギングデーモンの構成ファイル。

このファイルは、次の 3 つの指示をサポートしています。

**FILE** — メッセージの出力先を表します。デフォルトは `msgdaemon` で、この値は変更できません。

**LEVEL** — メッセージを記録するために `mld` で必要な最低限のレベルを表します。サポートしているレベルは、`debug`、`info`、`notice`、`warning`、`err`、`crit`、`alert`、および `emerg` です。デフォルトは `notice` です。

**MODE** — メッセージの冗長性を表します。`verbose` モードと `terse` モードを使用することができます。デフォルトは `verbose` モードです。

---

**注 -** すべての引数では、大文字・小文字は区別されません。

---

m1d(1M)

関連項目

ssd(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | moveboard – ドメイン間でのボードの移動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 形式    | moveboard -d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> [-c <i>function</i> ] [-r <i>retry_count</i> ]<br>[-t <i>timeout</i> ]] [-q] [-y   -n] <i>location</i><br><br>moveboard -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 機能説明  | <p>moveboard(1M) は、ドメインから、現在割り当てられてアクティブになっている <i>location</i> を最初に unassign にします。次に、ドメイン <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> に対して <i>location</i> を assign、connect、configure します。</p> <p>-c <i>function</i> コマンドは、現在の設定状態から新しい設定状態へ、ボードの切り替えを指定する場合に使用します。設定状態は、assign、connect、または configure のいずれかとなります。-c オプションを指定しない場合は、デフォルトの設定状態は configure になります。</p> <hr/> <p><b>注 -</b> moveboard は、タスクを同期的に実行し、コマンドが完了するまで制御をユーザーに戻しません。ボードの電源が入っていないか、またはテストされていない状態で、-c connect   configure オプションを指定すると、このコマンドによってボードの電源が投入され、テストされます。</p> <p>指定されたボードが自動システム回復 (ASR) ブラックリストファイルに定義されている場合は、moveboard は、ボードの割り当て時にエラーメッセージを表示して、処理を続行します。connect または configure 機能を使用している場合は、moveboard はエラーメッセージを表示して終了します。</p> <hr/> |
| オプション | <p>-c <i>function</i></p> <p><i>function</i> の有効な値は、assign、connect、または configure です。この値は、設定状態の切り替えを制御する場合に使用します。有効な切り替え状態とその意味は以下のとおりです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

■ **assign**

ドメイン上で稼働している Solaris 環境からボードの構成を解除します。Solaris は、ボード上のすべてのハードウェア資源の使用を停止します。(deleteboard -c unconfigure を参照してください)。

ボードを切り離します。ボードを disconnected|unconfigured 状態に切り替えます。(deleteboard -c disconnect を参照してください)。

現在のドメインからボードの割り当てを解除します。(deleteboard -c unassign を参照してください)。

状態を**使用可能** (available) に変更して、論理ドメインからボードを移動します。

ボードを新しい論理ドメインに割り当てます。

■ **connect**

ドメイン上で稼働している Solaris 環境からボードの構成を解除します。Solaris は、ボード上のすべてのハードウェア資源の使用を停止します。(deleteboard -c unconfigure を参照してください)。

ボードを切り離します。ボードを disconnected|unconfigured 状態に切り替えます。(deleteboard -c disconnect を参照してください)。

現在のドメインからボードの割り当てを解除します。(deleteboard -c unassign を参照してください)。

状態を**使用可能** (available) に変更して、論理ドメインからボードを移動します。ボードを新しい論理ドメインに割り当てます。(上記の assign、および addboard(1M) -c assign を参照してください)。

ボードを connected|unconfigured 状態に切り替えます。これで、ボードは論理ドメインに**割り当て** (assigned) されており、**接続** (connected) されている (アクティブになっている) 状態になります。この状態では、標準システムでボード



上のハードウェア資源を使用することができます。ただし、ボードのハードウェア資源は標準の Solaris のデータ構造では表現されないため、Solaris の環境では使用できません。ボード上で使用できる操作は、設定管理に限定されます (addboard -c connect も参照してください)。

#### ■ configure

ドメイン上で稼働している Solaris 環境からボードの構成を解除します。Solaris は、ボード上のすべてのハードウェア資源の使用を停止します。(deleteboard -c unconfigure を参照してください)。

ボードを切り離します。ボードを disconnected|unconfigured 状態に切り替えます。(deleteboard -c disconnect を参照してください)。

現在のドメインからボードの割り当てを解除します。(deleteboard -c unassign を参照してください)。

状態を**使用可能** (available) に変更して、論理ドメインからボードを移動します。ボードを新しい論理ドメインに割り当てます。(上記の assign、および addboard -c assign も参照してください)。

ボードを connected|unconfigured 状態に切り替えます。これで、ボードは論理ドメインに**割り当て** (assigned) られており、**接続** (connected) されている (アクティブになっている) 状態になります。この状態では、標準システムでボード上のハードウェア資源を使用することができます。ただし、ボードのハードウェア資源は標準の Solaris のデータ構造では表現されないため、Solaris の環境では使用できません。ボード上で使用できる操作は、設定管理に限定されます(上記の connect、および addboard -c connect も参照してください)。

ボードを connected|configured 状態に切り替えます。この状態では、ボードはドメインに**割り当て** (assigned) および**接続** (connected) されているだけでなく、Solaris の環境

用に設定 (configured) されています。ボード上のハードウェア資源は、Solaris で使用することができます (addboard -c configure も参照してください)。

**-d domain\_id**

ドメインの ID です。有効な *domain\_id* は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。これは、ボードの移動先となるドメインです。

**-d domain\_tag**

addtag (1M) を使用してドメインに割り当てられる名前です。これは、ボードの移動先となるドメインです。

**-h**

ヘルプ。使用方法を表示します。

---

**注 -** 単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されません。

---

**-n**

すべてのプロンプトに自動的に「no」と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。

**-q**

非出力。プロンプトを含むすべての stdout へのメッセージを抑制します。

-q を単独で使用すると、すべてのプロンプトに対して -n オプションがデフォルトで定義されます。

-q オプションを -y または -n オプションとともに使用すると、ユーザープロンプトがすべて非表示になり、選択したオプションに基づいて「y」または「n」のいずれかで自動的に応答します。

`-r retry_count -t timeout`

これらのコマンド引数を使用すると、状態の切り替え中に障害が発生した場合に再試行する回数を指定することができます。 `-r retry_count` オプションは、ドメインによって設定状態の変更が再試行される回数を表示します。 `-t timeout` オプションは、次の再試行を行うまでにドメインが待機する時間 (秒) を表示します。このオプションは、必ず `retry_count` とともに使用します。デフォルト値は 0 で、これは要求がすぐに再試行されることを意味します。

`-y`

すべてのプロンプトに対して自動的に「yes」と応答します。プロンプトは、`-q` オプションとともに使用しない限り表示されます。

## オペランド

次のオペランドがサポートされています。

*location*          ボード位置で、スペースで区切ります。複数の *location* 引数は、許可されません。

次の *location* 形式が使用できます。

SB(0..17)

IO(0..17)

---

**注 -**    ボードタイプを使用する場合は、`showboards(1M)` を使用します。

---

## 拡張機能説明

### 必要なグループ特権

ボードが `assigned` の状態 (つまり実行中のドメインで `active` になっていない) 場合は、プラットフォーム管理者特権を持っているユーザーのみ `-c assign` オプションを実行することができます。

ドメイン管理者または設定者特権を持っているユーザーは、自身のドメインについてのみ、このコマンドを実行することができます。ユーザーは、影響を受ける 2 つのドメイングループに属していることが必要です。また、ボードをこれらの 2 つのドメインの使用可能構成要素リストにボードを定義しておく必要があります。

## 使用例

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

すべての例で、ボードが他のドメインでアクティブになっている場合は、そのドメインに対するドメイン管理者特権を持っていないなりません。また、現在のドメインからボードを割り当て解除 (unassigned) するには、プラットフォーム管理者特権を持っているか、またはボードをドメインの使用可能構成要素リストに定義しておく必要があります。

システムボードを新しいドメインに割り当てる (assign) には、プラットフォーム特権を持っているか、またはそのボードをドメインの使用可能構成要素リストに定義しておく必要があります。ドメイン内でボードを接続 (connect) または設定 (configure) するには、新しいドメインのドメイン特権を持っている必要があります。

#### 使用例 1 – SB4 の CPU ボードをドメイン A に割り当てる

```
sc0:sms-user:>moveboard -d A -c assign SB4
SB at SB4 assigned to domain: A
```

#### 使用例 2 – SB4 のブラックリストに定義されている CPU ボードをドメイン A に割り当てる

```
sc0:sms-user:>moveboard -d A -c assign SB4
SB at SB4 assigned to domain: A
Warning:CPU at SB4 is blacklisted.You will not be able to
connect or configure it.
sc0:sms-user:>
```

#### 使用例 3 – IO ボードをドメイン A に設定する

注意事項: デフォルトの機能は configure です。

```
sc0:sms-user:> moveboard -d A IO2
IO2 unassigned from domain:B
IO2 assigned to domain:A
assign IO2
assign IO2 done
poweron IO2
poweron IO2 done
test IO2
test IO2 done
connect IO2
```

```
connect IO2 done
configure IO2
configure IO2 done
notify online /devices/pci@5d,700000
notify online /devices/pci@5d,600000
notify online /devices/pci@5c,700000
notify online /devices/pci@5c,600000
notify add capacity IO2 done
```

#### 使用例 4 – IO17 の IO ボードをドメイン R に接続する

```
sc0:sms-user:> moveboard -d R -c connect IO17
```

#### 使用例 5 – ブラックリストに定義されているボードをドメイン C に接続する

プラットフォーム特権を持っているか、またはボードをドメインの使用可能構成要素リストに定義しておく必要があります。

```
sc0:sms-user:> moveboard -d C -c connect SB0
SB at SB0 is blacklisted. Exiting. sc0:sms-user:>
```

#### 終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 0 以外 エラーが発生しました。

#### 属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

#### ファイル

このコマンドでは次のファイルが使用されます。

```
/etc/opt/SUNWSMS/config/asr/blacklist
```

esmd によって除外されるコンポーネントの一覧。

---

**注 –** このファイルは内部で作成されて使用されます。手動で編集しないでください。

---

#### 関連項目

addtag(1M)、addboard(1M)、deleteboard(1M)、esmd(1M)

## osd(1M)

| 名前           | osd – OpenBoot PROM サーバーデーモン                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |       |     |              |           |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|--------------|-----------|
| 形式           | osd                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |       |     |              |           |
| 機能説明         | <p>osd(1M) は、OpenBoot PROM に対するソフトウェアサポートを提供します。osd は、setkeyswitch(1M) に SMS イベントベースのインタフェースを提供します。これは、ドメインが示される前に IDPROM、NVRAM および REBOOTARGS 情報を定義するためのものです。</p> <p>osd は、OpenBoot PROM からメールボックスコマンドも受け取ります。これらのメールボックスコマンドは処置され、結果は OpenBoot PROM に返されます。コマンドには、get-time-of-day、set-time-of-day、get-idprom、get-nvram-data、set-nvram-data、get-reboot-args、set-reboot-args、do-tunnel-switch があります。システムコントローラ (SC) 上には、すべてのドメインで共有している、osd の 1 つのインスタンスがあります。</p> <p>このデーモンは <code>ssd(1M)</code> によって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p> |       |     |              |           |
| 拡張機能説明       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |       |     |              |           |
| 必要なグループ特権    | osd は、sms-osd ユーザーとして実行されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |       |     |              |           |
| 終了ステータス      | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0 正常に終了しました。</p> <p>0 以外 エラーが発生しました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |       |     |              |           |
| 属性           | <p>次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。</p> <table border="1"><thead><tr><th>属性タイプ</th><th>属性値</th></tr></thead><tbody><tr><td>Availability</td><td>SUNWSMSop</td></tr></tbody></table>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ        | 属性値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |       |     |              |           |
| Availability | SUNWSMSop                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |       |     |              |           |
| 関連項目         | setkeyswitch(1M)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |     |              |           |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前     | pcd – プラットフォーム構成データベースデーモン                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 形式     | pcd                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 機能説明   | <p>pcd(1M) は、プラットフォーム、ドメイン、およびシステムボードの構成データを使用できるようにして、その仕組みを管理します。pcd は、システムコントローラ (SC) 上で実行される SMS デーモンで、SMS 構成の主要なコンポーネントです。システム管理アプリケーションは、すべて pcd デーモンを使用してデータベース情報を使用します。</p> <p>pcd はプラットフォーム構成データを管理するだけでなく、対象のデータベースで変更が発生したことを、登録されているシステム管理アプリケーションに通知します。これらの通知はイベントとして登録され、ユーザーに認識されません。</p> <p>このデーモンは、ssd(1M) デーモンによって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p>                                                                                        |
| 拡張機能説明 | <p>プラットフォームデータには、以下のものが含まれています。</p> <pre>Platform type Platform name, Rack ID Cacheable Memory Address Slice Map System clock frequency System clock type SC IP address SC0 to SC1 IP address SC1 to SC0 IP address SC to SC IP netmask</pre> <p>ドメインデータには、以下のものが含まれています。</p> <pre>Domain ID/Tag OS version (not used) OS type (not used) Available component list Assigned board list Active board list Golden IOSRAM I/O board Virtual keyswitch setting</pre> |

pcd(1M)

Active Ethernet I/O board  
Domain creation time  
Domain dump state  
Domain bring up priority  
IP host address  
Host name  
Host netmask  
Host broadcast address

システムボードデータには、以下のものもが含まれています。

Expander Position  
Slot position  
Board type  
Board state  
Domain assignment of the board  
Available component list state  
Board test status  
Board test level  
Memory cleared state

シグナル      SIGHUP      データベースファイルを読み取り、情報を再キャッシュしま  
す。

ファイル

---

注 - これらのファイルは手動で変更しないでください。

---

次のファイルがサポートされています。

/var/opt/SUNWSMS/.pcd/platform\_info

プラットフォームデータベース情報が含まれています。

/var/opt/SUNWSMS/.pcd/domain\_info

ドメインデータベース情報が含まれています。

/var/opt/SUNWSMS/.pcd/sysboard\_info

システムボードデータベース情報が含まれています。



属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

ssd(1M)

## poweroff(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | poweroff – 電源切断の制御                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 形式    | poweroff [-q] [-y -n] [ <i>location</i> ]<br>poweroff [-h]                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 機能説明  | <p>poweroff(1M) は、指定されたデュアル 48V 電源装置、ファントレイ、またはボードの電源を切断します。プラットフォーム管理者特権を持っている場合に、引数を指定しないでこのコマンドを使用すると、システム全体 (ただし大容量電源装置、ファントレイ、予備のシステムコントローラ (SC) は除く) の電源が切断されます。電源が切断されるコンポーネントを使用しているアクティブなドメインがある場合は、それらのドメインが表示され、デフォルトで「Are you sure?」というプロンプトが表示されます。</p> <p>プラットフォーム管理者特権を持っていない場合は、<i>[location]</i> コマンドのオペランドを <b>必ず</b> 指定し、自身がドメイン管理者または設定者の特権を持っているドメインに、ボードを割り当てておく必要があります。</p> <hr/> <p><b>注 -</b> このコマンドは、仮想キースイッチの位置には作用しません。</p> <hr/> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p><b>注 -</b> 単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されません。</p> <hr/> <p>-n すべてのプロンプトに自動的に「no」と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。</p> <p>-q 非出力。プロンプトを含むすべての stdout へのメッセージを抑制します。</p> <p>単独で使用されると、-q はデフォルトですべてのプロンプトに対して -n オプションを指定します。</p> <p>-q オプションを -y または -n オプションとともに使用すると、ユーザプロンプトがすべて非表示になり、選択したオプションに基づいて「y」または「n」のいずれかで自動的に応答します。</p>                                                   |

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| オペランド     | <p>-y 全てのプロンプトに対して自動的に「yes」と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。</p> <p>次のオペランドがサポートされています。</p> <p><i>location</i> コンポーネントの位置で、空白文字で区切ります。複数の <i>location</i> を指定することはできません。</p> <p>次の <i>location</i> 形式が使用できます。</p> <p>SB(0..17)<br/> IO(0..17)<br/> CS(0 1)<br/> FI(0..7)<br/> PS(0..5)<br/> EX(0..17)<br/> SC(0 1) [スベア SC のみ電源切断することができます。]</p> |
| 拡張機能説明    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 必要なグループ特権 | <p>このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、ドメイン管理者または設計者の特権が必要です。</p> <p>ドメイン特権を持っている場合は、[<i>location</i>] オペランドも指定する必要があります。また、[<i>location</i>] は、自分が特権を持っているドメインに割り当て (assigned) られているドメイン構成単位 (DCU) に定義しておく必要があります。</p> <p>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。</p>                                                            |
| 使用例       | <p><b>使用例 1</b> – 拡張ボタン位置 0 の CPU ボードの電源を切断する</p> <p>この例では、poweroff コマンドによって、ボードの電源が強制的に切断されます。stdout にメッセージは表示されず、すべてのプロンプトに対して自動的に「yes」で応答します。</p> <pre>sc0:sms-user:&gt; poweroff -qy SB0</pre>                                                                                                                                                      |

poweroff(1M)

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

poweron(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | poweron – 電源投入の制御                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 形式    | poweron [-q] [-y  -n] [ <i>location</i> ]<br>poweron -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 機能説明  | <p>poweron(1M) は、指定されたデュアル 48V 電源装置、ファントレイ、またはボードの電源を投入します。プラットフォーム管理者特権を持っている場合に、引数を指定しないでこのコマンドを使用すると、(新しい電源装置をサポートするために追加の 48V 電源装置モジュールの電源を投入する必要がなければ)、システム全体の電源が投入されます。</p> <p>プラットフォーム管理者特権を持っていない場合は、[<i>location</i>] コマンドのオペランドを<b>必ず</b>指定し、自身がドメイン管理者または設定者の特権を持っているドメインに、ボードを<b>割り当て (assigned) ておく</b>必要があります。対象のボードについて必要な電源・冷却が利用できない場合は、poweron の処理は失敗します。完全に設定されているシステムの電源を投入するには、48V の電源装置モジュール (4 KW モジュール) が 5 つ以上必要です。従って、N+1 の冗長性を考慮すると、6 つの電源装置モジュールが使用されます。あるコンポーネントの電源を投入する際に、他のコンポーネントの電源投入が必要な場合 (ボードで 48V の電源装置モジュールが必要な場合など) は、poweron は失敗します。</p> <p>指定されたコンポーネントが自動システム回復 (ASR) ブラックリストファイルに定義されている場合は、エラーメッセージが表示されます。プラットフォーム管理者特権を持っている場合は、処理を続行するメッセージが表示されます。この特権を持っていない場合は、poweron は終了します。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-h      ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p><b>注 -</b>    単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されません。</p> <hr/> <p>-n      すべてのプロンプトに自動的に「no」と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。</p> <p>-q      非出力。プロンプトを含むすべての stdout へのメッセージを抑制します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

単独で使用されると、`-q` はデフォルトですべてのプロンプトに対して `-n` オプションを指定します。

`-q` オプションを `-y` または `-n` オプションとともに使用すると、ユーザープロンプトがすべて非表示になり、選択したオプションに基づいて「`y`」または「`n`」のいずれかで自動的に応答します。

`-y` すべてのプロンプトに対して自動的に「`yes`」と応答します。プロンプトは、`-q` オプションとともに使用しない限り表示されます。

## オペランド

次のオペランドがサポートされています。

*location* コンポーネントの位置で、空白文字で区切ります。複数の *location* を指定することはできません。

次の *location* 形式が使用できます。

SB(0...17)  
IO(0...17)  
CS(0|1)  
FT(0...7)  
PS(0...5)  
EX(0...17)

## 拡張機能説明

### 必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、ドメイン管理者または設計者の特権が必要です。

ドメイン特権を持っている場合は、`[location]` オペランドも指定する必要があります。また、`[location]` は、自身が特権を持っているドメインに割り当て (`assigned`) られているドメイン構成単位 (DCU) に定義しておく必要があります。

ASR ブラックリストファイルに定義されているボードの電源を投入するには、プラットフォーム管理者特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

## 使用例

**使用例 1** – デュアル 48V 電源装置の電源を投入する

電源装置は、バンク位置 0 の正面にあります。

```
sc0:sms-user:> poweron PS0
```

**使用例 2** – ASR ブラックリストファイル内の CPU の電源を投入する

プラットフォーム管理者特権を持っている必要があります。この特権を持っていない場合に poweron コマンドを実行すると、エラーが発生して終了します。

```
sc0:sms-user:> poweron SB0
```

```
Component SB0 is in the ASR blacklist.
```

```
Are you sure you want to continue the power ON (yes/no)? Y
```

## 終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

## 属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

## ファイル

このコマンドでは次のファイルが使用されます。

```
/etc/opt/SUNWSMS/config/asr/blacklist
```

esmd によって除外されるコンポーネントの一覧。

---

**注** – このファイルは内部で作成されて使用されます。手動で編集しないでください。

---

## 関連項目

esmd(1M)、poweroff(1M)

## rcfgadm(1M)

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前   | rcfgadm – 遠隔構成管理                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 形式   | <pre>rcfgadm -d domain_id   domain_tag [-f] [-y   -n] [-v] [-o hardware_options] -c function [-r retry_count [-T timeout]] ap_id...  rcfgadm -d domain_id   domain_tag [-f] [-y   -n] [-v] [-o hardware_options] -x hardware_function ap_id...  rcfgadm -d domain_id   domain_tag [-v] [-a] [-s listing_options] [-o hardware_options] [-l [ap_id   ap_type] ...]  rcfgadm -d domain_id   domain_tag [-v] [-o hardware_options] -t ap_id...  rcfgadm -d domain_id   domain_tag [-v] [-o hardware_options] -h [ap_id   ap_type]</pre>                                                                                                                                                  |
| 機能説明 | <p>rcfgadm(1M) は、動的に再構成可能なハードウェア資源に関する遠隔構成管理を操作します。rcfgadm コマンドを使用して、指定したドメインの構成管理をシステムコントローラから操作することができます。これらの操作には、状態の表示 (-l)、テストの開始 (-t)、設定状態の変更の呼び出し (-c)、ハードウェア特有の機能の呼び出し (-x)、および構成管理のヘルプメッセージの取得 (-h) が含まれています。</p> <p>rcfgadm は、接続点の構成を管理します。この接続点は、Solaris を継続して使用する際に、システムのソフトウェアがハードウェア資源の動的再構成をサポートする場所です。</p> <p>構成管理によって、システムの物理的ハードウェア資源と Solaris 環境で構成された表示可能なハードウェア資源を区別します。構成管理の機能はハードウェア特有のもので、ハードウェア固有のライブラリを呼び出すことによって実行されます。</p> <p>構成管理は、接続点で行います。接続点にあるハードウェア資源は、システムを使用する際に物理的に交換できる場合も、できない場合もありますが、構成管理インタフェースによって、動的に再構成することができます。</p> <p>接続点では、2 つの固有の要素を定義しますが、これらの要素は、接続点の範囲外にあるハードウェア資源と区別されます。接続点の 2 つの要素は、受容体と占有装置です。ハードウェア資源の物理的な挿入と取り外しは接続点で行わ</p> |



れ、具体的には受容体と占有装置を接続したり、切り離したりします。構成管理では、物理的な挿入と取り外しの操作、および接続点におけるその他の構成管理機能をサポートします。

接続点には、関連する状態および条件の情報が定義されています。構成管理インタフェースには、接続点状態の切り替えに対する制御が用意されています。受容体の状態は、`empty`、`disconnected`、または `connected` のいずれかの状態となり、占有装置の状態は、`configured` または `unconfigured` のいずれかの状態となります。

接続点に占有装置がない場合は、受容体の通常の状態は `empty` になります。通常システムの使用で、占有装置から受容体を切り離すことができる `disconnected` 状態になります。通常は、占有装置の資源がシステムで完全に利用できるようになる前に、ハードウェア特有のさまざまなテストを行う場合、または占有装置の物理的な切り離したり、再構成の準備ステップとして、この状態が使用されます。`disconnected` 状態の受容体では、(ハードウェアで可能な場合に) システムから占有装置が切り離されていますが、テストと設定のために使用することは可能です。受容体は、`connected` 状態を提供する必要があります。この状態では、占有装置が含まれているハードウェア資源に対して、通常に使用することができます。受容体に占有装置が含まれており、構成管理の操作が行われている場合には、その受容体の通常の状態は `connected` になります。

`unconfigured` の状態の占有装置が含まれているハードウェア資源は、標準の Solaris のデータ構造では表現されないため、Solaris の環境では使用できません。`unconfigured` の状態の占有装置では、構成管理の操作のみ行うことができます。`configured` 状態のハードウェア資源は、標準の Solaris データ構造で表現されるため、これらのハードウェアの任意の部分を、Solaris 環境で使用することができます。すべての占有装置には、`configured` および `unconfigured` の状態があります。

接続点の条件は、`unknown`、`OK`、`failing`、`failed`、または `unusable` のいずれかとなります。接続点は、(揮発性レコードが存在しない場合に) 電源投入テストの結果に従って、システムをいずれかの条件に設定します。

`configured` 状態の占有装置を持つ接続点は、`unknown`、`OK`、`failing`、`failed` のいずれかの条件となります。`failing` または `failed` 以外の条件の場合には、接続点は、ハードウェア特有の回復可能なエラーしきい値を超え

たときに、操作の途中で `failing` に変更することができます。 `failed` 以外の条件の場合には、接続点は、回復不可能なエラーの結果として、操作中に `failed` に変更することができます。

`unconfigured` 状態の占有装置を持つ接続点は、定義されているいずれの条件に設定することもできます。 `unconfigured` されている占有装置を持つ接続点の条件は、システム特有の時間のしきい値を超えると、OKから `unknown` に変わります。テスト機能を開始すると、接続点の条件は、テストの結果に従って、OK、`failing`、または `failed` のいずれかに変わります。テスト機能が用意されていない接続点は、`unknown` の条件のままにしておくことが可能です。テストで割り込みが発生すると、接続点の条件は、前の条件 (`unknown` または `failed`) に設定することができます。 `unknown`、OK、`failing`、または `failed` の条件の接続点は、再テストすることができます。

接続点の条件が `unusable` になる場合には、受容体の電源・冷却が十分でない、占有装置の `unusable` やサポートができない、または完全に設定されていない、などの理由があります。 `unusable` の条件の接続点は、システムで使用できません。この条件は、物理的な原因が解消されるまで、そのままになります。

接続点では、(条件が変化している、または再評価中であることを表す) `busy` 情報も管理します。

接続点は、システムデバイス階層における接続点のタイプおよび位置に関連する、ハードウェア特有の識別子 (`ap_id`) を使用して参照されます。 `ap_id` は、必ず1つの接続点を特定できるようにします。 `ap_id` の仕様では、「物理」および「論理」の2つのタイプをサポートしています。物理的な `ap_id` には、完全指定されたパス名が含まれ、論理的な `ap_id` には、接続点をわかりやすく表すための簡単な説明が含まれています。

たとえば、システムボード6を表す接続点の物理的な `ap_id` は `/devices/pseudo/dr@0:SB6` となり、論理的な `ap_id` は `SB6` となります。

接続点は、動的に作成することもできます。動的な接続点は、システム内のベースの接続点に対して相対的に名前が定義されます。動的な接続点の `ap_ids` は、ベースのコンポーネントの後に2つのコロン (::) を記述し、その後動的

なコンポーネントを記述する、という形式で構成されます。ベースコンポーネントは、ベースの接続点 *ap\_id* です。動的なコンポーネントはハードウェア特有のもので、対応するハードウェア固有のライブラリから生成されます。

たとえば、システムボードを表すベースの接続点の物理的な *ap\_id* が `/devices/pseudo/dr@0:SB16` で、論理的な *ap\_id* が SB16 であるとしします。このシステムボードに割り当てられている CPU は、論理的な *ap\_id* が `SB16::cpu2` の動的な接続点として表すことができます。SB16 はベースのコンポーネントで、cpu2 はハードウェア特有の動的コンポーネントです。同様に、この動的な接続点の物理的な *ap\_id* は、以下のようになります。

```
/devices/pseudo/dr@0:SB16::cpu2
```

*ap\_type* は論理的な *ap\_id* の一部であり、特定の接続点を表すことはできません。*ap\_type* は論理的な *ap\_id* の部分文字列で、*ap\_id* と同じになる場合もありますが、コロン (:) の区切り文字は含まれません。たとえば、pci の *ap\_type* は、論理的な *ap\_ids* で先頭文字が pci の接続点をすべて表します。

*ap\_type* の使用は、推奨しません。-s オプションの新しい選択サブオプションを使用すると、より汎用的で柔軟性のある方法で接続点を選択することができます。「オプション」を参照してください。

rcfgadm は、ハードウェア固有のライブラリに含まれているハードウェア特有の機能と、最初に対話します。このため、rcfgadm の動作はハードウェアによって異なります。

それぞれの構成管理の操作では、サービスの割り込みが必要になる場合もあります。操作で、ユーザーと対話するための明確なサービスの割り込みが必要な場合は、操作が開始される前に確認が行われます。標準的な入力の確認するために、標準のエラー出力についてプロンプトが示されます。-y または -n オプションを使用して、常に yes、または no と応答するように、確認を変更することもできます。-o オプションを使用すると、*test level* などのハードウェア特有のオプションがサブオプションとして提供されます。

システム設定の状態を変更する操作は、システムログデーモン syslogd(1M) で検査されます。

## オプション

このコマンドの引数は、`getopt(3C)` と `getsubopt(3C)` の構文規則に準拠しています。

詳細については、『Sun Fire 15K Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』を参照してください。

次のオプションがサポートされています。

`-a`

`-l` オプションで動的接続点を表示する必要があることを指定します。

`-c function`

`ap_id` で指定された接続点で、状態の変更を行います。

`disconnect`、`connect`、`configure`、または `unconfigure` の機能のいずれかを指定します。これらの機能を指定すると、ハードウェア固有のライブリルーチン呼び出すことによって、接続点が、以下に定義されているいずれかの状態に切り替わります。

■ **disconnect**

受容体が `disconnected` 状態に変わります。

占有装置が `configured` 状態の場合は、`disconnect` の機能は、最初に占有装置を `unconfigure` しようとします。デフォルトでは、`disconnect` 機能はボードの電源を切断します。このようにすると、スロットの対象ポイントでボードを取り外せるようになります。`-o nopoweroff` オプションは、電源切断のステップを行わずに、ボードの電源をそのままの状態にしておくよう指定します。デフォルトでは、ボードはドメインに割り当てられたままになります。`-o unassign` オプションは、ボードがいったん `disconnected` になると、ドメインからボードの所有権を削除するように指示します。ボードが `unassigned` になると、他のドメインが自身に `assigned` になっているボードを持っている可能性があるため、`cfgadm` はボードにアクセスできなくなります。

**■ connect**

ハードウェア特有の操作を実行して、受容体を `connected` 状態にします。これで、受容体を介して占有装置を通常に操作することができます。

**■ configure**

ハードウェア特有の操作を実行して、占有装置のハードウェア資源を Solaris で使用できるようにします。設定済の占有装置はシステム構成の一部となり、Solaris ソフトウェアデバイスの操作保守コマンド (`psradm(1M)`、`mount(1M)`、`ifconfig(1M)` など) で操作できるようになります。

**■ unconfigure**

ハードウェア特有の操作 (占有装置のハードウェア資源をシステムから削除する操作) を実行します。占有装置は `connected` になっている状態で、占有装置のハードウェア資源は、Solaris の環境で使用されていないことを確認します。

状態の切り替え機能は、接続点の条件、またはその他のハードウェアに依存した事項によって、失敗する場合があります。資源を追加する指示 (`connect` および `configure`) において状態を切り替える機能はすべて、接続点が `OK` または `unknown` の条件の場合に、ハードウェア特有のライブラリへ渡されます。その他の条件の場合は、すべて強制 (`-f`) オプションを使用して、これらの機能をハードウェア固有のライブラリに渡す必要があります。どのような接続点の条件であっても、システムからハードウェア資源を削除 (`disconnect` および `unconfigure`) する際に、ハードウェア固有のライブラリが呼び出されます。接続点の条件が `unknown` の場合は、ハードウェア固有のライブラリで状態の変更機能を拒否する場合があります。

接続点の条件は、状態の変更機能によって変更される場合だけではなく、状態の変更操作で発生したエラーによって、変更される場合もあります。強制オプション (`-f`) を指定すると、条件の変更を試行して、(通常の実行では失敗する場合に) 条件を強制的に変更することができます。ハードウェア特有の安全性および完全性のチェックを行うと、強制オプションを実行しても何も処理されません。

**-d *domain\_id***

ドメインの ID。有効な *domain\_id* は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。

**-d *domain\_tag***

addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。

**-f**

指定された処理を強制的に実行します。通常は、この処理は安全性よりも優先されるハードウェア特有の機能です。強制的に状態を変更すると、条件が OK または unknown 以外の占有装置のハードウェア資源を、ハードウェア固有の安全性チェックに基づいて使用できるようになります。

**-h [*ap\_id* | *ap\_type*]**

ヘルプメッセージテキストを出力します。*ap\_id* または *ap\_type* が指定された場合は、引数によって示された接続点に対するハードウェア固有ライブラリのヘルプルーチンが呼び出されます。

**-l [*ap\_id* | *ap\_type*]**

指定された接続点の状態および条件を表示します。**-s** オプションおよび選択サブオプションを使用して、接続点をフィルタすることができます。処理オプションを指定しないで **rcfgadm** を呼び出すと、引数を指定しないで **-l** を呼び出した場合と同じになります。一覧表示の形式は、**-v** および **-s** オプションによって制御されます。**-a** オプションを指定すると、接続点が動的に拡張されます。

**■ -o parsable**

空白文字で区切られた "name=value" のセットとして、情報を返します。すべての文字列は二重引用符で囲まれます。文字列内の二重引用符と "\" は、\" でエスケープされます。**parsable** オプションは、**cfgadm** の **-s** オプションと合わせて使用することを前提としています。

-n

すべてのプロンプトに対して、自動的に「no」と応答します。

-o *hardware\_options*

メインのコマンドオプションに対してハードウェア特有のオプションを提供します。

*hardware\_options* の有効値は以下のとおりです。

■ **parsable**

-l オプションが使用される場合のみ適用されます。

**parsable** サブオプションは、"name=value" のセットとして情報が返されることを表します。

■ **unassign**

-c 切断オプションが使用される場合のみ適用されます。

**unassign** サブオプションは、ボードの所有権を削除するよう指定します。

■ **nopoweroff**

-c 切断オプションが使用される場合のみ適用されます。

**nopoweroff** サブオプションは、ボードが切り離された後に電源切断されないように指定します。

-r *retry\_count*

ドメインで、動的再構成 (DR) 要求が再試行される回数を指定します。デフォルトはゼロです。

-s *listing\_options*

一覧 (-l) コマンドに対する一覧表示オプションを提供します。

*listing\_options* は、`getsubopt(3C)` の構文規則に準拠しています。サブオプションを使用して、接続点の選択基準 (`select=select_string`)、対象の照合タイプ (`match=match_type`)、一覧表示の順序 (`sort=field_spec`)、表示

対象のデータ (`cols=field_spec` および `cols2=field_spec`)、列の区切り文字 (`delim=string`)、および列見出しの非表示 (`noheadings`) を指定します。

選択サブオプションを指定すると、指定された基準と一致する接続点のみが表示されます。選択サブオプションの構文は以下のとおりです。

```
rcfgadm -s select=attr1(value1):attr2(value2)...
```

`attr` は、`ap_id`、`class`、または `type` のいずれかとなります。`ap_id` は論理的な `ap_id` フィールドを表します。`class` は接続点のクラスを、`type` はタイプフィールドを表します。`value1`、`value2` などは照合する値に対応します。照合のタイプは、以下の照合サブオプションで指定することができます。

```
rcfgadm -s match=match_type,select=attr1(value1)...
```

`match_type` は `exact` または `partial` のいずれかとなります。デフォルトの値は `exact` です。

サブオプションには特殊文字を指定することもできますが、これは、`rcfgadm` サブオプションの一部としては解釈されません。たとえばコマンドには、サブオプションとして使用できる丸括弧を指定することができますが、これは、コマンド行に入力する際には特殊文字として解釈されます。選択サブオプションに対する引数は、UNIX C シェルで解釈されないように、引用符で囲むことができます。

`field_spec` は、`data-field:data-field:data-field` のようにコロン(:)を使用して連結された1つ、または複数のデータフィールドです。`data-field` は `ap_id`、`physid`、`r_state`、`o_state`、`condition`、`type`、`busy`、`status_time`、`status_time_p`、`info` のいずれかとなります。`ap_id` フィールドの出力は、接続点の論理名で、`physid` フィールドには物理名が含まれます。`r_state` フィールドは、`empty`、`disconnected`、または `connected` のいずれかとなります。`o_state` フィールドは `configured` または `unconfigured` となります。`busy` フィールドは、接続点がビジーの場合は `y`、それ以外の場合は `n` となります。`type` および `info` フィールドはハードウェアによって異なります。



す。 *status\_time\_p* フィールドは、 *status\_time* フィールドの解析可能なバージョンです。接続点がクラスに関連付けられている場合は、 *class* フィールドにクラス名が表示されます。

*field\_spec* のフィールドの順序は重要です。ソートサブオプションでは、最初のフィールドが第一ソートキーとなります。 *cols* および *cols2* サブオプションでは、要求された順序でフィールドが出力されます。ソートサブオプションでは、 *field\_spec* でデータフィールド名の前にマイナス (-) を指定すると、データフィールドのソート順が逆になります。ソートのデフォルト値は *ap\_id* です。 *cols* および *cols2* のデフォルト値は、 *-v* オプションが指定されたかどうかによって異なります。このオプションが指定されない場合は、 *cols* は *ap\_id:r\_state:o\_state:condition* で、 *cols2* は設定されません。 *-v* を指定すると、 *cols* は *ap\_id:r\_state:o\_state:condition:info* となり、 *cols2* は *status\_time:type:busy:physid* となります。 *delim* のデフォルト値は単一の空白文字です。 *delim* の値には、任意の長さの文字列を使用することができます。区切り文字には、コンマ (,) は使用できません (*getsubopt(3C)* を参照してください)。これらの一覧表示オプションは、解析可能な出力を作成する際に使用します。「注意事項」を参照してください。

#### *-T timeout*

再試行を行う際の時間間隔 (秒) を指定します。このオプションは、必ず *-r retry\_count* オプションとともに使用します。デフォルト値は 0 で、これは DR 要求がすぐに再試行されることを意味します。

#### *-t*

1 つまたは複数の接続点のテストを実行します。このテスト機能は、接続点の条件を再評価する際に使用します。

テストの結果を使用して、障害が検出されない場合は特定の占有装置の条件を OK に変更し、回復可能な障害が検出された場合は *failing* に変更し、回復不可能な障害が検出された場合は *failed* に変更します。

テストが割り込みされた場合は、接続点の条件を以前の値に戻すことができます。エラーが検出されなかった場合は `unknown` に設定され、回復可能なエラーのみが検出された場合は `failing` に設定され、回復不可能なエラーが検出された場合は `failed` に設定されます。エラーなしでテストが正常終了した場合は、接続点の条件は必ず `OK` に設定されます。

-v

冗長モードで実行します。-c、-t、および -x オプションでは、実行したそれぞれの操作の結果を表すメッセージが出力されます。-h オプションの場合は、詳細なヘルプ情報が出力されます。-l オプションの場合は、それぞれの接続点について詳細な情報が出力されます。

-x *hardware\_function*

ハードウェア特有の機能を実行します。

*hardware\_function* の有効値は以下のとおりです。

- `assign ap_id`  
ドメインにボードを割り当てます。
- `unassign ap_id`  
ドメインに対するボードの割り当てを解除します。
- `poweron ap_id`  
ボードの電源を投入します。
- `poweroff ap_id`  
ボードの電源を切断します。

`rcfgadm -h ap_id` を使用すると、ハードウェア特有の専用機能が表示されます。

-y

すべてのプロンプトに自動的に「yes」と応答します。プロンプトは表示されません。

**オペランド**

次のオペランドがサポートされています。

*ap\_id*

接続点は、システムデバイス階層における接続点のタイプおよび位置に関連する、ハードウェア特有の識別子 (*ap\_id*) を使用して参照されます。*ap\_id* は、必ず 1 つの接続点を特定できるようにします。*ap\_id* の仕様では、「物理」および「論理」の 2 つのタイプをサポートしています。物理的な *ap\_id* には、完全指定されたパス名が含まれ、論理的な *ap\_id* には、接続点をわかりやすく表すための簡単な説明が含まれています。

**使用例 1 — 物理的 *ap\_ids***

```
/devices/pseudo/dr@0:IO4
/devices/pseudo/dr@0:IO6
/devices/pseudo/dr@0:IO14
/devices/pseudo/dr@0:SB4
/devices/pseudo/dr@0:SB6
```

**使用例 2 — 論理的 *ap\_ids***

```
IO4
IO6
IO14
SB4
SB6
```

*ap\_type*

*ap\_type* は論理的 *ap\_id* の一部であり、特定の接続点を表すことはできません。*ap\_type* は論理的 *ap\_id* の部分文字列で、*ap\_id* と同じになる場合もありますが、コロン (;) の区切り文字は含まれません。たとえば、*pci* の *ap\_type* は、論理的 *ap\_id* で先頭文字が *pci* の接続点をすべて表します。

使用例 3 – *ap\_types*静的 *ap\_types*

```
HPCI
CPU
MCPU
pci-pci/hp
```

動的 *ap\_types*

```
cpu
mem
io
```

## 拡張機能説明

## 必要なグループ特権

このコマンドを使用するために必要な特権は、実行する操作によって異なります。rcfgadm は、ドメインに `connected` になっていないボードを `assign` または `unassign` にすることができます。ボードの `assign` または `unassign` を実行するには、プラットフォーム管理者特権、またはドメイン管理者・設定者の特権を持っており、ボードがドメインの使用可能構成要素リストに定義されている必要があります。詳細は、`setupplatform(1M)` および `showplatform(1M)` を参照してください。

`assign` および `unassign` の操作は、専用ハードウェア特有の操作です。`rcfgadm -x assign ap_id` を使用して、ボードを `assign` します。`rcfgadm -x unassign ap_id` を使用して、ボードの `unassign` にします。`assign` および `unassign` で使用する `ap_id` は、`SB0` や `IO2` のように論理的 `ap_id` として指定する必要があります。

テスト、状態変更、またはハードウェア特有の操作を行うには、ドメイン管理者またはドメイン設定者の特権が必要です。

対象のドメインについて、ドメイン管理者または設定者の特権を持っている必要があります。あるいは、プラットフォーム管理者特権を持っている必要があります。

操作を一覧表示するには、特権は必要ありません。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第2章を参照してください。

#### 使用例

#### 使用例 4 – ドメイン A のデバイスツリー内の接続点を一覧表示する

以下の例では、(動的接続点を除く)すべての接続点が一覧表示されています。

```
sc0:sms-user:> rcfgadm -d a
```

| Ap_Id | Type | Receptacle   | Occupant     | Condition |
|-------|------|--------------|--------------|-----------|
| IO4   | PCI  | connected    | configured   | ok        |
| IO6   | MCPU | disconnected | unconfigured | unknown   |
| IO14  | PCI  | connected    | configured   | ok        |
| SB4   | CPU  | disconnected | unconfigured | unknown   |
| SB6   | CPU  | connected    | configured   | ok        |
| SB16  | CPU  | connected    | configured   | ok        |

#### 使用例 5 – ドメイン A の構成可能なハードウェア情報をすべて一覧表示する

以下の例では、構成可能なハードウェア情報がすべて (動的接続点の情報も含めて) 一覧表示されています。

```
sc0:sms-user:> rcfgadm -d a -al
```

| Ap_Id       | Type   | Receptacle   | Occupant     | Condition |
|-------------|--------|--------------|--------------|-----------|
| IO4         | PCI    | connected    | configured   | ok        |
| IO4::pci0   | io     | connected    | configured   | ok        |
| IO4::pci1   | io     | connected    | configured   | ok        |
| IO4::pci2   | io     | connected    | configured   | ok        |
| IO4::pci3   | io     | connected    | configured   | ok        |
| IO6         | MCPU   | disconnected | unconfigured | unknown   |
| IO14        | PCI    | connected    | configured   | ok        |
| IO14::pci0  | io     | connected    | configured   | ok        |
| IO14::pci1  | io     | connected    | configured   | ok        |
| IO14::pci2  | io     | connected    | configured   | ok        |
| IO14::pci3  | io     | connected    | configured   | ok        |
| SB4         | CPU    | disconnected | unconfigured | unknown   |
| SB6         | CPU    | connected    | configured   | ok        |
| SB6::cpu0   | cpu    | connected    | configured   | ok        |
| SB6::cpu1   | cpu    | connected    | configured   | ok        |
| SB6::cpu2   | cpu    | connected    | configured   | ok        |
| SB6::cpu3   | cpu    | connected    | configured   | ok        |
| SB6::memory | memory | connected    | configured   | ok        |

|              |        |           |            |    |
|--------------|--------|-----------|------------|----|
| SB16         | CPU    | connected | configured | ok |
| SB16::cpu0   | cpu    | connected | configured | ok |
| SB16::cpu1   | cpu    | connected | configured | ok |
| SB16::cpu2   | cpu    | connected | configured | ok |
| SB16::cpu3   | cpu    | connected | configured | ok |
| SB16::memory | memory | connected | configured | ok |

#### 使用例 6 – ドメイン A の接続点属性に基づいて選択的に表示する

以下の例では、*location* が SB6 で、*type* が cpu の接続点がすべて一覧表示されています。-s オプションの引数は引用符で囲み、シェルで解釈されないようにします。

```
sc0:sms-user:> rcfgadm -d a -s match=partial,select="type(cpu)" -la SB6
```

| Ap_Id     | Type | Receptacle | Occupant   | Condition |
|-----------|------|------------|------------|-----------|
| SB6::cpu0 | cpu  | connected  | configured | ok        |
| SB6::cpu1 | cpu  | connected  | configured | ok        |
| SB6::cpu2 | cpu  | connected  | configured | ok        |
| SB6::cpu3 | cpu  | connected  | configured | ok        |

#### 使用例 7 – ドメイン A に対する現行の構成可能なハードウェア情報を冗長モードで一覧表示する

以下の例では、現行の構成可能なハードウェア情報が冗長モードで一覧表示されています。

```
sc0:sms-user:> rcfgadm -d a -v -l SB16
```

| Ap_Id | Receptacle | Occupant   | Condition | Information          |
|-------|------------|------------|-----------|----------------------|
| SB16  | connected  | configured | ok        | powered-on, assigned |

| When        | Type | Busy | Phys_Id                   |
|-------------|------|------|---------------------------|
| Mar 6 13:30 | CPU  | n    | /devices/pseudo/dr@0:SB16 |

#### 使用例 8 – ドメイン A の強制オプション

以下の例では、強制オプションを使用して、失敗状態の占有装置をシステムを設定します。

```
sc0:sms-user:> rcfgadm -d a -f -c configure SB6
```

**使用例 9** — ドメイン A でシステムから占有装置を構成解除する

以下の例では、システムから占有装置が構成解除されています。

```
sc0:sms-user:> rcfgadm -d a -c unconfigure IO14
```

**使用例 10** — 接続点で占有装置を構成する

以下に、占有装置を構成する例を示します。

```
sc0:sms-user:> rcfgadm -d a -c configure SB6
```

**環境変数**

command\_name の実行に影響を与える以下の環境変数 LC\_TIME、LC\_MESSAGES、TZ の説明は、environ(5) を参照してください。

|                    |                                                                                                      |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>LC_MESSAGES</b> | rcfgadm で列見出しとエラーメッセージをどのように表示するかを定義します。この変数を設定しても、出力データの表示は影響を受けません。                                |
| <b>LC_TIME</b>     | rcfgadm で、人間が読み取れる形式の「状態が変更された時刻」(status_time) をどのように表示するかを定義します。                                    |
| <b>TZ</b>          | 状態が変化した時刻を変換する際のタイムゾーンを指定します。このタイムゾーンは、人間が読み取れる形式(status_time) および解析可能な形式(status_time_p) の両方に適用されます。 |

**終了ステータス**

次の終了値が返されます。

|   |               |
|---|---------------|
| 0 | 正常に終了         |
| 1 | 応答なし          |
| 2 | サポートされていない    |
| 3 | 操作がサポートされていない |
| 4 | 不正な特権         |
| 5 | ビジー           |
| 6 | システムビジー       |
| 7 | データエラー        |

- 8 ライブラリエラー
- 9 ライブラリが存在しない
- 10 条件が不十分
- 11 不正
- 12 エラー
- 13 APID が存在しない
- 14 不正な属性
- 30 不正なボード ID タイプ
- 31 不正な特権
- 32 他のドメインに割り当てられている
- 33 特権を取得できない
- 34 ドメインボード情報を取得できない
- 35 アクティブなボード一覧を取得できない
- 36 割り当てられているボード一覧を取得できない
- 37 ブラックリストの取得に失敗
- 38 Solaris が稼働していない
- 56 DR のコマンド構文エラー
- 68 DR 操作の失敗

## 属性

次の属性の説明については、`attributes(5)` を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

## 関連項目

`addtag(1M)`、`cfgadm_sbd(1M)`、`setupplatform(1M)`、`showplatform(1M)`



## 診断

標準のエラー出力では、診断メッセージが表示されます。このユーティリティーでは、オプションおよび使用エラー以外に、以下の診断メッセージが作成されます。

rcfgadm: Configuration administration not supported on *ap\_id*

rcfgadm: No library found for *ap\_id*

rcfgadm: *ap\_id* is ambiguous

rcfgadm: Operation:Insufficient privileges

rcfgadm: Attachment point is busy, try again

rcfgadm: No attachment points with specified attributes found

rcfgadm: System is busy, try again

rcfgadm: Operation:Operation requires a service interruption

rcfgadm: Operation:Data error:error\_text

rcfgadm: Operation:Hardware specific failure:error\_text

rcfgadm: Attachment point not found

rcfgadm: Configuration operation succeeded

rcfgadm: Configuration operation cancelled

rcfgadm: Configuration operation invalid

rcfgadm: Configuration operation not supported

rcfgadm: Library error

rcfgadm: Insufficient condition

rcfgadm: SCDR/DCA door failure

rcfgadm: DCA/DCS communication error

rcfgadm: DCA internal failure

rcfgadm: PCD event failure

rcfgadm(1M)

rcfgadm: Callback function failure

rcfgadm: SCDR library internal error

rcfgadm: Board is already assigned to another domain

rcfgadm: Unable to get active or assigned domain info

rcfgadm: Unable to get privileges

rcfgadm: DRCMD library invalid parameter

エラーメッセージに関する詳細は、`config_admin(3CFGADM)` を参照してください。

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | reset – 指定されたドメインのすべての CPU ポートにリセットを送信                                                                                                                                                                                                                                       |
| 形式    | reset [-d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> ] [-d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> ] [-q] [-y   -n] [-x]<br><br>reset -h                                                                                                                                              |
| 機能説明  | reset(1M) は、1 つまたは複数のドメインをリセットします。具体的には、ハードウェアをリセットしてクリーンな状態にする方法と、外部で開始されたリセット (XIR) シグナルを送信する方法があります。デフォルトでは、ハードウェアをクリーンな状態にする方法が使用されます。仮想キースイッチが安全な位置にある場合は、エラーが示されます。オプションの確認プロンプトが、デフォルトで表示されます。詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 6 章を参照してください。 |
| オプション | -d <i>domain_id</i> ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。<br><br>-d <i>domain_tag</i> addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。<br><br>-h               ヘルプ。使用方法を表示します。                                                                                           |
| 注 -   | 単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されません。                                                                                                                                                                                                                                         |
| -n    | すべてのプロンプトに自動的に「no」と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されません。                                                                                                                                                                                                                  |
| -q    | 非出力。プロンプトを含むすべての stdout へのメッセージを抑制します。<br><br>単独で使用されると、-q はデフォルトですべてのプロンプトに対して -n オプションを指定します。<br><br>-q オプションを -y または -n オプションとともに使用すると、ユーザープロンプトがすべて非表示になり、選択したオプションに基づいて「y」または「n」のいずれかで自動的に応答します。                                                                        |

## reset(1M)

### 拡張機能説明 必要なグループ特権

### 使用例

### 終了ステータス

- x 指定されたドメインのプロセッサに、XIR シグナルを送信します。
- y すべてのプロンプトに対して自動的に「yes」と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。

このコマンドを実行するには、ドメイン管理者特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

#### 使用例 1 – ドメイン C のリセット

```
sc0:sms-user:>reset -d C
Do you want to send RESET to domain C?[y|n]:
RESET to port SB4/P0 initiated.
RESET to port SB4/P1 initiated.
RESET initiated to all ports for domain: C
```

#### 使用例 2 – ドメイン C のXIR リセット

```
sc0:sms-user:>reset -d C -x
Do you want to send XIR to domain C?[y|n]:
XIR to processor SB3/P0 initiated
XIR to processor SB3/P1 initiated
XIR to processor SB3/P2 initiated
XIR to processor SB3/P3 initiated
XIR initiated to all processors for domain: C
```

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 0 以外 エラーが発生しました。

reset(1M)

属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

addtag(1M)

## resetsc(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | resetsc – 他 <sup>の</sup> システムコントローラ (SC) のリセット                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 形式    | resetsc [-q] [-y -n]<br><br>resetsc -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 機能説明  | resetsc(1M) は、他 <sup>の</sup> SC をリセットします。この操作は通常、フェイルオーバーの後で行われます。このコマンドは、メイン SC から実行してスペア SC をリセットするか、またはスペア SC から実行してメイン SC をリセットします。SC は自身をリセットすることはできません。選択した SC の電源が投入されていない場合は、resetsc は、電源を投入するようユーザーにメッセージを表示します。選択した SC の電源が投入されていない場合は、resetsc はエラーで終了します。                                                                                                                                                                                                                                                   |
| オプション | 次のオプションがサポートされています。<br><br>-h     ヘルプ。使用方法を表示します。<br><hr/> <b>注 -</b> 単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されま<br>す。<br><hr/><br>-n     すべてのプロンプトに自動的に「no」と応答します。プロンプトは、<br>-q オプションとともに使用しない限り表示されます。<br><br>-q     非出力。プロンプトを含むすべての stdout へのメッセージを抑制し<br>ます。<br><br>単独で使用されると、-q はデフォルトですべてのプロンプトに対して<br>-n オプションを指定します。<br><br>-y オプションまたは -n オプションのどちらかとともに使用すると、<br>-q ではすべてのユーザープロンプトを抑制し、選択したオプションに<br>基づいて自動的に「y」または「n」のどちらかで応答します。<br><br>-y     すべてのプロンプトに対して自動的に「yes」と応答します。プロンプ<br>トは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。 |

拡張機能説明  
必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第2章を参照してください。

使用例

**使用例 1** – プロンプトを使用して他の SC をリセットする

```
sc0:sms-user:>resetsc
>About to reset other SC.Are you sure you want to continue? (y or [n])"
```

**使用例 2** – 他の SC が電源切断されている場合に、他の SC をリセットする

```
sc0:sms-user:>resetsc
"The other SC is not powered on.Do you want to try to power it on? (y or [n])"
```

**使用例 3** – すべてのプロンプトに「yes」と応答して他の SC をリセットする

```
sc0:sms-user:>resetsc -y
>About to reset other SC.Are you sure you want to continue? [y]"
```

**使用例 4** – すべてのプロンプトを非表示にして他の SC をリセットする

```
sc0:sms-user:>resetsc -q
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 1 ユーザーが有効なアクセス権を持っていません。
- 2 記憶域の割り当てに失敗
- 3 他の SC の存在を特定できない
- 4 他の SC が存在しない
- 5 他の SC の電源状態を特定できない
- 6 他の SC の電源を投入できない
- 7 他の SC をリセットできない
- 8 フラグの登録に失敗
- 9 不正なコマンド行引数

resetsc(1M)

属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |



|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前        | runcmdsync - フェイルオーバー後の回復のために、指定されたスクリプトを準備                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 形式        | <pre>runcmdsync script_name [parameters]</pre> <pre>runcmdsync -h</pre>                                                                                                                                                                                                                                         |
| 機能説明      | <p>runcmdsync(1M) コマンドは、フェイルオーバー後に自動的に同期をとる (回復を行う) ために、指定されたスクリプトを準備します。runcmdsync は、回復するスクリプトを特定するコマンド同期記述子を作成します。この記述子は、コマンド同期リストに追加されます。このリストは、フェイルオーバーの後で回復するスクリプトを特定するリストです。また、runcmdsync コマンドは、スクリプトが終了すると、コマンド同期リストからこの記述子を削除します。</p> <p>スクリプト内で再起動ポイントを指定するには、initcmdsync(1M)、および同期コマンド群を参照してください。</p> |
| オプション     | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-h      ヘルプ。使用方法を表示します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 注         | <hr/> <p>注 -    単一で使用します。-h と組み合わせて指定されたオプションは無視されます。</p> <hr/>                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 拡張機能説明    | <p><i>script_name</i>    コマンドを同期化するために準備するスクリプトを表します。</p> <p><i>parameters</i>    指定されたスクリプトに関するオプションまたはパラメタを指定します。これらのパラメタはスペアシステムコントローラ (SC) に格納されており、自動フェイルオーバーの後で指定されたコマンドまたはスクリプトを再起動する際に使用します。</p>                                                                                                        |
| 必要なグループ特権 | <p>このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。</p>                                                                                                                                                                                                                           |

runcmdsync(1M)

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Architecture | All       |
| Availability | SUNWSMSop |
| Stability    | Evolving  |
| MT-Level     | Safe      |

関連項目

cancelcmdsync(1M)、initcmdsync(1M)、 savecmdsync(1M)、および showcmdsync(1M)

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前   | initcmdsnc、cmdsnc、cancelcmdsnc、savecmdsnc – コマンド同期コマンド                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 形式   | cancelcmdsnc <i>cmdsnc_descriptor</i><br>initcmdsnc <i>script_name</i> [ <i>parameters</i> ]<br>savecmdsnc -M <i>identifier</i> <i>cmdsnc_descriptor</i><br>[ <i>cancel init save</i> ]cmdsnc -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 機能説明 | <p>これらのコマンド同期コマンドはともに機能し、システムコントローラ (SC) のフェイルオーバーによって中断されたユーザー定義のスキプトの回復を制御します。コマンドを同期化するには、ユーザー定義のスキプトに次のコマンドを挿入します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>initcmdsnc</b> は、回復するスキプトを特定するための、コマンド同期記述子を作成します。<br/>この記述子は、コマンド同期リストの中に定義されます。このリストは、フェイルオーバーが発生した後で、新しいメインの SC で再起動するスキプトとコマンドを特定します。</li> <li>■ <b>savecmdsnc</b> は、フェイルオーバーが発生した後で、スキプト内のどの場所から処理を再開するかを特定するためのマーカーを追加します。</li> <li>■ <b>cancelcmdsnc</b> は、コマンド同期リストからコマンド同期記述子を削除します。これによって、スキプトは 1 度だけ実行され、それ以降のフェイルオーバーの後には実行されません。</li> </ul> <p>コマンド同期リストから記述子を削除するために、スキプトのすべての出力先には、必ず 1 つの <b>cancelcmdsnc</b> シーケンスを定義します。記述子が削除されていない場合にフェイルオーバーが発生すると、スキプトは、新しいメイン SC 上で実行されます。</p> <hr/> <p><b>注 -</b> <b>initcmdsnc</b> と <b>cancelcmdsnc</b> のシーケンスは、コマンドが同期化されるように必ず 1 つのスキプトに定義します。<b>savecmdsnc</b> はオプションのコマンドで、スキプト内の場所をマークして処理を再開する場所を特定する場合のみ使用します。特別な再開ポイントが必要ない場合は、代わりに <b>runccmdsnc(1M)</b> を使用することもできます。</p> <hr/> |

## オプション

次のオプションがサポートされています。

- cmdsyc\_descriptor*      コマンド同期記述子 (ユーザー定義スクリプトを指定する記述子) を表します。この記述子は、`initcmdsyc` コマンドの標準の出力値として返されます。
- `-h`                      ヘルプ。使用方法を表示します。

---

**注 -**    単一で使います。 `-h` に追加して指定されたオプションは無視されません。

---

- `-M identifier`          フェイルオーバーの後に、スクリプトを再開する場所を指定します。この記述子は、正の整数とします。
- parameters*            ユーザー定義スクリプトに関連するオプションまたはパラメータを表します。これらのパラメータは、スペア SC に格納されており、フェイルオーバーの後で指定されたスクリプトを再起動する際に使います。
- script\_name*            同期的に処理されるユーザー定義スクリプトの名前を表します。

## 拡張機能説明

コマンド同期コマンドは、ユーザー定義スクリプト内の特定の論理ポイントに挿入します。

たとえば、**Korn** シェルスクリプトは、以下のようになります。

```
MAIN CODE STARTS HERE
Be sure to use a cleanup procedure to handle any interrupts.
Use the cancelcmdsyc to remove the script from the command
synchronization list. Otherwise, the command will get restarted
on the new main SC.
#
clean_up () {
 cancelcmdsyc $desc
 exit
}

Declare the clean_up function to capture system signals
and cleanup.
trap "clean_up" INT HUP TERM QUIT PWR URG
goto_label=1
Process the arguments, capturing the -M marker point if provided
#
for arg in $*; do
 case $arg in
```

```

 -M)
 goto_label=$arg;;
 .
 .
 esac
done
Place this script and all its parameters in the command synchronization
list, which indicates the commands to be restarted after an SC failover.
#
NOTE:The script must be executable by the user defined in fofd.cf
and reside in the same directory on both the main and the spare SC.
If the command is not part of the defined PATH for the user, the
absolute filename must be passed with the initcmdsnc command.
#
initcmdsnc script_name parameters
The marker point is stored in the goto_label variable.
Keep executing this script until all cases have been processed or an
error is detected.
#
while (($goto_label != 0)) ; do

 #
 # Each case should represent a synchronization point in the script.
 #
 case $goto_label in

 #
 # Step 1:Do something
 #
 1)
 do_something
 .
 .
 .

 # Execute the savecmdsnc command with the script's
 # descriptor and a unique marker to save the position.
 # If a failover occurs here, the commands
 # represented in the next goto_label (2) will be
 # resumed.
 #
 savecmdsnc -M $(($goto_label + 1)) $desc
 goto_label=$(($goto_label + 1))
 ;;

 #
 # Step 2:Do more things
 #
 2)
 do_more_things
 .
 .
 .
 savecmdsnc -M $(($goto_label + 1)) $desc
 goto_label=$(($goto_label + 1))
 ;;

 #
 # Step 3:Finish the last step and set the goto_label to 0
 esac
done

```

## savecmdsyc(1M)

```
 # so that the script ends.
 3)
 finish_last_step
 .
 .
 goto_label=0
 ;;
 esac
done

END OF MAIN CODE
Remember to execute cancelcmdsyc to remove the script from the
command synchronization list. Otherwise, the command will be restarted
after the failover.
#
cancelcmdsyc $desc
```

### 必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第2章を参照してください。

### 終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 0 以外 エラーが発生しました。

---

**注 -** `initcmdsyc` の標準出力には、コマンド同期記述子が含まれていません。(フェイルオーバーが終了した場合や、単一の SC 環境などでフェイルオーバーが使用できない場合は、同期コマンドが含まれているスクリプトでは、プラットフォームのログファイルに対してエラーメッセージを生成し、ゼロ以外の終了コードを返します。これらのメッセージは無視することもできます。)

---

## 属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Architecture | All       |
| Availability | SUNWSMSop |
| Stability    | Evolving  |
| MT-Level     | Safe      |

## 関連項目

runcmdsync(1M), showcmdsync(1M)

## 注意事項

(同期コマンドを使用した) ユーザー定義スクリプトの例は、/opt/SUNWSMS/examples/cmdsyncディレクトリに保存されています。

## setbus(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | setbus - ドメイン内のアクティブな拡張ボタンで動的バスの再構成を実行                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 形式    | setbus [-q] [-y -n] -c CS0 CS1 CS0,CS1 [-b buses] [location...]<br>setbus -h                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 機能説明  | <p>setbus(1M) は、ドメイン内で動的拡張ボタン上のバストラフィックを動的に再構成してセンタープレーンサポートボード (CSB) を使用します。両方の CSB を使用するのとは noemal モードです。1 つの CSB を使用するのとは degraded モードです。</p> <p>この機能を使用すると、システムの電源を切ることなく CSB を交換できます。</p>                                                                                                                                                                     |
| オプション | <hr/> <p>注 - -y および -n は、setbus(1M) コマンドに対するオプションの引数です。オプションの引数の 1 つが指定されていない場合は、setbus によって確認メッセージが表示されます。</p> <p>選択した拡張ボタンの構成を変更する場合は、追加の拡張ボタンの構成を変更する必要があります。setbus によって次のメッセージが表示されます。</p> <p>The expander board in position <i>location</i> communicates with expanders not already listed, and will be added to the list of boards to reconfigure.</p> <hr/> |
|       | <p>-b buses 構成するバスを指定します。構成するバスは 3 つあります。有効なバスは、次のとおりです。</p> <p>a — アドレスバスを構成する<br/>d — データバスを構成する<br/>r — 応答バスを構成する</p> <p>デフォルトでは 3 つすべてのバスを構成します。</p>                                                                                                                                                                                                           |
|       | <p>-c CS0 CS1 CS0,CS1 使用する CSB を指定します。</p> <p>CS0 — CS0 を使用するようハードウェアを構成する (degraded モード)</p> <p>CS1 — CS1 を使用するようハードウェアを構成する (degraded モード)</p>                                                                                                                                                                                                                   |



CS0, CS1— 両方の CSB を使用するようハードウェアを構成する (normal モード)

-h ヘルプ。使用方法を表示します。

---

注 - 単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されません。

---

-n すべてのプロンプトに自動的に「no」と応答します。プロンプトは -q オプションとともに使用しない限り表示されます。

-q 非出力。プロンプトを含むすべての stdout へのメッセージを抑制します。

単独で使用されると、-q はデフォルトですべてのプロンプトに対して -n オプションを指定します。

-y オプションまたは -n オプションのどちらかとともに使用すると、-q ではすべてのユーザープロンプトを抑制し、選択したオプションに基づいて自動的に「y」または「n」のどちらかで応答します。

-y すべてのプロンプトに自動的に「yes」と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されます。

## オペランド

次のオペランドがサポートされています。

*location* 構成する拡張ボタンスロットを指定します。デフォルトではすべてのスロットを構成します。*location* が複数の場合は、スペースで区切ります。

有効な *location* は、次のとおりです。

EX0-EX17

## 拡張機能説明

### 必要なグループ特権

システム内の通信拡張ボタン (SOCX) のセットを再構成するには、プラットフォーム管理者特権が必要です。

## setbus(1M)

| 使用例          | <p>ドメイン管理者または構成者が再構成できるのは、自身が特権を持っているドメインに割り当てられている SOCX のみです。</p> <p>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。</p> <p><b>使用例 1</b> – すべてのアクティブドメイン上のすべてのバスで CS0 を使用する</p> <pre>sc0:sms-user:&gt;setbus -c CS0</pre> <p><b>使用例 2</b> – すべてのアクティブドメイン上のすべてのバスで両方の CSB を使用する</p> <pre>sc0:sms-user:&gt;setbus -c CS0,CS1</pre> <p><b>使用例 3</b> – すべてのアクティブドメイン上のアドレスバスで CS0 を使用する</p> <pre>sc0:sms-user:&gt;setbus -c CS0 -b a</pre> <p><b>使用例 4</b> – アクティブな EX1 上のアドレスバスおよびデータベースで CS1 を使用する</p> <pre>sc0:sms-user:&gt;setbus -c CS1 -b ad EX1</pre> |       |     |              |           |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|--------------|-----------|
| 終了ステータス      | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0 正常に終了しました。</p> <p>0 以外 エラーが発生しました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |       |     |              |           |
| 属性           | <p>次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。</p> <table border="1"><thead><tr><th>属性タイプ</th><th>属性値</th></tr></thead><tbody><tr><td>Availability</td><td>SUNWSMSop</td></tr></tbody></table>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ        | 属性値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |       |     |              |           |
| Availability | SUNWSMSop                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |       |     |              |           |
| 関連項目         | <p>showbus(1M)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |       |     |              |           |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | setdatasync – データ同期で使用されるデータ伝達リストの変更                                                                                                                                                                                          |
| 形式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <pre>setdatasync [-i interval] -schedule filename setdatasync cancel filename setdatasync push filename setdatasync backup setdatasync -h</pre>                                                                               |
| 機能説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <p>setdatasync では、ユーザー作成ファイルのデータ伝達リストへの追加またはリストからの削除を指定できます。データ伝達リストは、メインシステムコントローラからスペアシステムコントローラ (SC) に自動フェイルオーバー用のデータ同期の一部としてコピーするファイルを識別します。指定されたユーザーファイルおよびファイルが存在するディレクトリは、両方の SC のユーザーに対する読み取り書き込み特権を持っている必要があります。</p> |
| <hr/> <p><b>注 -</b> データ同期では、/var/opt/SUNWSMS ディレクトリの下にある利用可能ディスク容量を使用してメイン SC からスペア SC にファイルをコピーします。コピーするファイルが /var/opt/SUNWSMS ディレクトリよりも大きい場合は、ファイルを伝達することはできません。たとえば、データ同期バックアップファイル (ds_backup.cpio) が /var/opt/SUNWSMS 内の利用可能容量よりも大きくなった場合は、データ伝達の前にバックアップファイルのサイズを削減する必要があります。sms_backup.cpio ファイルのサイズは、データ同期バックアップファイルのサイズを示します。次のファイルを削除して利用可能ディスク容量を増やすことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ /var/opt/SUNWSMS/adm/platform/messages.x</li> <li>■ /var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/messages.x</li> <li>■ /var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/post/files</li> </ul> <p>x は、ファイルのアーカイブ番号です。これらのファイルはフェイルオーバー後に新しいメイン SC からスペア SC に伝達されているので、メイン SC およびスペア SC の両方からファイルを削除してください。</p> <hr/> |                                                                                                                                                                                                                               |

## setdatasync(1M)

データ同期プロセスでは、メイン SC 上のユーザー作成ファイルが変更されているかどうかチェックされます。メイン SC 上のユーザー作成ファイルが最後の伝達以降に変更されている場合は、スペア SC にも再伝達されています。データ同期プロセスで、デフォルトでは、指定したファイルは 60 分ごとにチェックされます。ただし、setdatasync を使用してユーザーファイルの変更をチェックする頻度を指定することができます。

---

**注 -** ファイルがメイン SC からスペア SC に伝達された後、ファイルはメイン SC 上のファイルが更新されたときのみスペア SC に再伝達されます。伝達されたファイルをスペア SC から削除すると、そのファイルはメイン SC 上の対応するファイルが更新されるまで自動的に再伝達されません。

---

setdatasync を使用すると、次のことができます。

- 指定したファイルをデータ伝達リストに追加することなくスペア SC に伝達することができます。
- メイン SC およびスペア SC 上の SC 構成ファイルを再同期することができます。

### オプション

次のオプションがサポートされています。

|                        |                                                                                                                                                           |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| backup                 | smsbackup(1M) を使用してメイン SC をバックアップし、バックアップデータをメイン SC からスペア SC に移動してスペア SC 上でバックアップデータを復元します。詳細については、smsbackup(1M) を参照してください。                               |
| cancel <i>filename</i> | 指定したファイルをデータ伝達リストから削除(取り消し)します。指定したファイルはスペア SC には適用されなくなります。このオプションでは指定したファイルが実際にスペア SC から削除されることはありません。ファイル名には絶対パスを含める必要があり、別のファイルへのシンボリックリンクであってはなりません。 |
| -h                     | ヘルプ。使用方法を表示します。                                                                                                                                           |

---

注 - 単一で使⽤します。-h に追加して指定されたオプションは無視されま  
す。

---

|                          |                                                                                                               |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <i>-i interval</i>       | 指定したファイルが変更されたかどうかをチェックする頻度を示します。デフォルトの間隔は 60 分です。指定できる間隔は、1 から 1440 分 (24 時間) です。                            |
| <i>push filename</i>     | 指定したファイルをデータ伝達リストに追加することなくスペア SC に伝達 (プッシュ) します。ファイル名には絶対パスを含める必要があり、別のファイルへのシンボリックリンクであってはなりません。             |
| <i>schedule filename</i> | 指定したファイルをデータ伝達リストに追加します。ファイル名には絶対パスを含める必要があり、別のファイルへのシンボリックリンクであってはなりません。データ同期時には、ファイルはスペア SC の同じ絶対パスへ伝達されます。 |

#### 拡張機能説明

#### 必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

#### 使用例

**使用例 1** - ユーザーファイルをメインからスペアに 30 分ごとに適用する

ユーザー指定ファイルへのパスは絶対パスであることが必要であり、シンボリックリンクを含んでいてはなりません。

```
sc0:sms-user:>setdatasync -i 30 schedule /path/filename
```

**使用例 2** - データ適用リストからのファイル名の削除

ユーザー指定ファイルへのパスは絶対パスであることが必要であり、シンボリックリンクを含んでいてはなりません。

```
sc0:sms-user:>setdatasync cancel /path/filename
```

## setdatasync(1M)

### 終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

### 属性

次の属性の説明については、`attributes(5)` を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Architecture | All       |
| Availability | SUNWSMSop |
| Stability    | Evolving  |
| MT-Level     | Safe      |

### 関連項目

`showdatasync(1M)`, `smsbackup(1M)`

『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | setdate - システムコントローラ (SC) またはドメインの日付と時刻の設定                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 形式    | setdate [-d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> ] [-u] [-q]<br>[ <i>mmdd</i> ]HHMM   <i>mmdd</i> HHMM[ <i>cc</i> ] <i>yy</i> [. <i>SS</i> ]<br><br>setdate -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 機能説明  | setdate(1M) を使用すると、SC プラットフォーム管理者は SC またはオプションでドメインの日付と時刻値を設定できます。ドメイン管理者は、これらのドメインに対して日付と時刻を設定することができます。日付と時刻を設定すると、setdate(1M) は現在の日付と時刻を表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| オプション | <p>-d <i>domain_id</i>   ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p>ドメインのキースイッチが OFF または STANDBY の位置にあるときにドメインの時刻 (TOD) を設定します。このオプションは setdate の主な使用方法ではありません。通常、setdate はこのオプションなしで SC の TOD の設定に使用されます。</p> <p>-d <i>domain_tag</i>   addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。</p> <p>ドメインのキースイッチが OFF または STANDBY の位置にあるときにドメインの時刻 (TOD) を設定します。このオプションは setdate の主な使用方法ではありません。通常、setdate はこのオプションなしで SC の TOD の設定に使用されます。</p> <p>-h               ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p><b>注 -</b>   単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されません。</p> <hr/> <p>-q           新しい値を設定した後は現在の日付と時刻を表示しません。</p> <p>-u           グリニッジ平均時 (GMT) を使用して時刻を表示します。デフォルトでは該当地域のタイムゾーンが使用されます。</p> |

## setdate(1M)

### オペランド

次のオペランドがサポートされています。

*[mmd]HHMM[.SS]* 日付と時刻のフォーマット。mm は月 (1-12)、dd は日 (1-31)、HH は時 (0-23)、MM は分 (0-59)、SS は秒 (0-59) です。

*mmddHHMM[cc]yy[.SS]* 日付と時刻のフォーマット。mm は月 (1-12)、dd は日 (1-31)、HH は時 (0-23)、MM は分 (0-59)、cc は世紀から 1 を引いた値、yy は年を 2 桁で表したものの、SS は秒 (0-59) です。

### 拡張機能説明

#### 必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権またはドメイン管理者特権が必要です。プラットフォーム管理者特権を持っている場合は、自身のドメインに対してのみこのコマンドを実行することができます。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

### 使用例

#### 使用例 1 - 太平洋標準時での日付設定

```
sc0:sms-user:>setdate 020210302000.00
System Controller:Wed Feb 2 10:30:00 PST 2000
```

#### 使用例 2 - GMT を使用した日付設定

```
sc0:sms-user:>setdate -u 020218302000.00
System Controller:Wed Feb 2 18:30:00 GMT 2000
```

#### 使用例 3 - ドメイン A の太平洋標準時での日付設定

```
sc0:sms-user:>setdate -u 020218302000.00
Domain a:Wed Feb 2 10:30:00 PST 2000
```

#### 使用例 4 - ドメイン A の GMT を使用した日付設定

```
sc0:sms-user:>setdate -d a -u 020218302000.00
Domain a:Wed Feb 2 18:30:00 GMT 2000
```



## 終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

## 属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

## 関連項目

addtag(1M)、setkeyswitch(1M)、showdate(1M)

## setdefaults(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | setdefaults – 直前にアクティブであったドメインのすべてのインスタンスの削除                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 形式    | setdefaults -d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> [-p ] [-y ]<br><br>setdefaults -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 機能説明  | <p>setdefaults(1M) は、直前にアクティブであったドメインのすべてのインスタンスを削除します。ドメインインスタンスには、ネットワーク情報を除くすべての <i>pcd</i> エントリ、すべてのメッセージ、コンソール、シスログファイルと、オプションですべての <i>NVRAM</i> および起動パラメタが含まれます。<i>pcd</i> エントリと <i>NVRAM</i> および起動パラメタはシステムのデフォルト設定に戻ります。IDPROM データは影響を受けません。</p> <p>一度に処理できるのは 1 つのドメインのみです。ドメインはアクティブにしないで、仮想キースイッチは <i>off</i> に設定する必要があります。それ以外の場合には、<i>setdefaults</i> がエラーとともに終了します。</p>                                                                                                                                                                          |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-d <i>domain_id</i>   ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p>-d <i>domain_tag</i>   <i>addtag(1M)</i> を使用してドメインに割り当てられる名前。</p> <p>-h               ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p><b>注 -</b>   単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されません。</p> <hr/> <p>-n               すべてのプロンプトに自動的に「no」と応答します。</p> <p>-p               <i>NVRAM</i> および起動パラメタデータを保持します。デフォルトでは、<i>NVRAM</i> および起動パラメタデータを削除するかどうか尋ねられます。-p オプションが使用されている場合は、プロンプトは表示されずにデータが保持されます。</p> <p>-y               すべてのプロンプトに自動的に「yes」と応答します。</p> |

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 拡張機能説明    | このコマンドを実行するには、指定されたドメインに対するプラットフォーム管理者特権またはドメイン管理者特権が必要です。                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 必要なグループ特権 | 詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 使用例       | <p><b>使用例 1</b> — ドメイン A に対するドメイン、NVRAM および起動パラメタのプロンプト付きデフォルトの設定</p> <pre>sc0:sms-user:&gt;setdefaults -d a Are you sure you want to remove domain info? y Do you want to remove NVRAM and boot parameter data? y</pre>                                                                                                                         |
|           | <p><b>使用例 2</b> — ドメイン A に対するプロンプトなしで NVRAM および起動パラメタデータを保持するデフォルトの設定</p> <pre>sc0:sms-user:&gt;setdefaults -d a -p -y</pre>                                                                                                                                                                                                                     |
|           | <p><b>使用例 3</b> — ドメイン A に対するプロンプトなしで NVRAM および起動パラメタデータを保持しないデフォルトの設定</p> <pre>sc0:sms-user:&gt;setdefaults -d a -y</pre>                                                                                                                                                                                                                       |
| 終了ステータス   | <p>次の終了値が返されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>0 正常に終了しました。</li> <li>1 無効なドメインが指定されました。</li> <li>2 無効なオプションが入力されました。</li> <li>3 ドメインがないか、または複数のドメインが指定されました。</li> <li>4 ユーザーが有効なアクセス権を持っていません。</li> <li>5 キースイッチが無効な位置にあります。</li> <li>6 ドメインが現在アクティブです。</li> <li>7 pcd への接続中にエラーが発生しました。</li> <li>8 mld への接続中にエラーが発生しました。</li> </ul> |

## setdefaults(1M)

- 9      osd への接続中にエラーが発生しました。
- 10     内部エラーが発生しました。
- 11     ユーザーが操作を取り消しました。
- 属性   次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

## ファイル

このコマンドでは次のファイルが影響を受けます。

`/var/opt/SUNWSMS/.pcd/domain_info`

ドメイン pcd 情報ファイル。

`/var/opt/SUNWSMS/.pcd/sysboard_info`

プラットフォーム pcd 情報ファイル。

`/var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/console`

ドメインコンソールログファイル。最大 10 までのメッセージファイルを一度にシステム上に格納できます (console.0 から console.9)。

`/var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/messages`

ドメインログファイル。最大 10 までのメッセージファイルを一度にシステム上に格納できます (message.0 から message.9)。

`/var/opt/SUNWSMS/adm/domain_id/syslog`

ドメインシスログファイル。最大 10 までのメッセージファイルを一度にシステム上に格納できます (syslog.0 から syslog.9)。

`/var/opt/SUNWSMS/data/domain_id/bootparamdata`

ドメイン起動パラメタ情報ファイル。

setdefaults(1M)

/var/opt/SUNWSMS/data/*domain\_id*/nvramdata

ドメイン nvram 情報ファイル。

関連項目

addtag(1M)、mld(1M)、osd(1M)、pcd(1M)、setobpparams(1M)  
showobpparams(1M)

## setfailover(1M)

|           |                                                                                                                                                                                                    |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前        | setfailover - システムコントローラ (SC) フェイルオーバーメカニズムの状態の変更                                                                                                                                                  |
| 形式        | setfailover on off force<br>setfailover -h                                                                                                                                                         |
| 機能説明      | setfailover(1M) は、SC フェイルオーバーメカニズムの状態を変更する機能です。                                                                                                                                                    |
| オプション     | 次のオプションがサポートされています。<br><br>force            フェイルオーバーをスペア SC に強制します。スペア SC が利用可能であることが必要です。<br><br>-h                ヘルプ。使用方法を表示します。                                                                |
|           | <hr/> <b>注 -</b> 単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されません。 <hr/>                                                                                                                                        |
|           | off              フェイルオーバーメカニズムを使用不可にします。これにより、メカニズムが再び使用可能になるまでフェイルオーバーが行われません。                                                                                                                    |
|           | on                フェイルオーバーまたはオペレータの要求によって以前にフェイルオーバーを使用不可にしたシステムのフェイルオーバーを使用可能にします。on は、フェイルオーバーのみを再び使用可能にするようコマンドに指示します。フェイルオーバーを再び使用可能にできない場合は、後続の showfailover コマンドの使用により使用可能を妨げている現在のエラーを示します。 |
| 拡張機能説明    |                                                                                                                                                                                                    |
| 必要なグループ特権 | このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権が必要です。<br><br>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。                                                                                   |
| 使用例       | これらのコマンドは正常に完了した場合は何も出力しません。アクションを実行できなかった場合に、エラーメッセージが表示されます。                                                                                                                                     |

使用例 1 - フェイルオーバーをオンにする

```
sc0:sms-user:>setfailover on
```

使用例 2 - フェイルオーバーをオフにする

```
#sc0:sms-user:>setfailover off
```

使用例 3 - フェイルオーバーを強制する

```
sc0:sms-user:>setfailover force
```

#### 終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

#### 属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

#### 関連項目

showfailover(1M)

## setkeyswitch(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | setkeyswitch – 仮想キースイッチ位置の変更                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 形式    | setkeyswitch -d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> [-q] [-y   -n]<br>[on   standby   off   diag   secure]<br><br>setkeyswitch -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 機能説明  | <p>setkeyswitch(1M) は、仮想キースイッチの位置を指定した値に変更します。setkeyswitch は、ボードの電源の投入/停止とドメインの起動に使用します。詳細については、「オペランド」を参照してください。</p> <p>指定したドメインが自動システム回復 (ASR) ブラックリストファイルにボードを含んでいる場合は、エラーメッセージが表示されて setkeyswitch が続行されません。</p> <p>各仮想キースイッチの状態はシステムコントローラ (SC) の電源の再投入の間または pcd(1M) による電源供給の物理的電源再投入によって維持されます。showkeyswitch を使用して仮想キースイッチの現在の位置を表示します。</p>                                                                                                                                                                                     |
| オプション | <hr/> <p>注 - -y および -n は、setkeyswitch(1M) コマンドに対するオプションの引数です。オプションの引数の 1 つが指定されていない場合は、on、diag、または secure 位置から off または standby 位置に変更するときに setkeyswitch によって、確認プロンプトが表示されます。</p> <hr/> <p>-d <i>domain_id</i>   ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p>-d <i>domain_tag</i>   addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。</p> <p>-h               ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p>注 -   単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されます。</p> <hr/> <p>-n               すべてのプロンプトに自動的に「no」と応答します。プロンプトは、-q オプションとともに使用しない限り表示されません。</p> |



|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -q      | <p>非出力。プロンプトを含むすべての <code>stdout</code> へのメッセージを抑制します。</p> <p>単独で使用されると、<code>-q</code> はデフォルトですべてのプロンプトに対して <code>-n</code> オプションを指定します。</p> <p><code>-y</code> オプションまたは <code>-n</code> オプションのどちらかとともに使用すると、<code>-q</code> ではすべてのユーザープロンプトを抑制し、選択したオプションに基づいて自動的に「y」または「n」のどちらかで応答します。</p>                                                                              |
| -y      | <p>すべてのプロンプトに自動的に「yes」と応答します。プロンプトは、<code>-q</code> オプションとともに使用しない限り表示されません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| オペランド   | <p>次のオペランドがサポートされています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| on      | <p><code>off</code> または <code>standby</code> 位置からは、<code>on</code> はドメインに割り当てられているすべてのボードの電源をオンにします (電源がオンになっていない場合)。それによりドメインがアクティブになります。</p> <p><code>diag</code> 位置からは、<code>on</code> は位置が変更されるだけですが、次にドメインを再起動したときに <code>post</code> が冗長で起動されることなく <code>diag</code> レベルがデフォルト値に設定されます。</p> <p><code>secure</code> 位置からは、<code>on</code> はドメインへの書き込みアクセス権を復元します。</p> |
| standby | <p><code>off</code> 位置からは、<code>standby</code> はドメインに割り当てられているすべてのボードの電源をオンにします (電源がオンになっていない場合)。</p> <p><code>on</code>、<code>diag</code>、または <code>secure</code> 位置からは、<code>standby</code> はオプションで確認プロンプトを表示し、ドメインが正常にシャットダウンされます。ボードの電源は入ったままになります。</p>                                                                                                                |
| off     | <p><code>on</code>、<code>diag</code>、または <code>secure</code> 位置からは、<code>off</code> はオプションで確認プロンプトを表示し、すべてのボードが低電源モードになります。</p>                                                                                                                                                                                                                                            |

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           | <p>standby 位置からは、off はすべてのボードを低電源モードにします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| diag      | <p>off または standby 位置からは、diag はドメインに割り当てられているすべてのボードの電源をオンにします (電源がオンになっていない場合)。次にドメインが on 位置にあるときのようにアクティブになりますが、post が冗長で起動され、diag レベルがデフォルト値に設定されます。</p> <p>on 位置からは、diag は位置が変更されるだけです。次にドメインを再起動したときに post が冗長で起動され、diag レベルがデフォルト値に設定されます。</p> <p>secure 位置からは、diag はドメインへの書き込みアクセス権を復元して次にドメインを再起動したときに post が冗長で起動され、diag レベルがデフォルト値に設定されます。</p>     |
| secure    | <p>off または standby 位置からは、secure はドメインに割り当てられているすべてのボードの電源をオンにします (電源がオンになっていない場合)。次にドメインが on 位置にあるときのようにアクティブになりますが、secure 位置がドメインへの書き込みアクセス権を削除して、たとえば、flashupdate および reset が機能しなくなります。</p> <p>on 位置からは、secure は上記のようにドメインへの書き込みアクセス権を削除します。</p> <p>diag 位置からは、secure は上記のようにドメインへの書き込みアクセス権を削除して次にドメインを再起動したときに post が冗長で起動され、diag レベルがデフォルト値に設定されます。</p> |
| 拡張機能説明    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 必要なグループ特権 | <p>このコマンドを実行するには、指定したドメインに対するドメイン管理者特権が必要です。</p> <p>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。</p>                                                                                                                                                                                                                              |

| 使用例          | <p>使用例 1 – ドメイン A のキースイッチのオン設定</p> <pre>sc0:sms-user:&gt; setkeyswitch -d A on</pre> <p>使用例 2 – ASR ブラックリストファイルにボードを含むドメイン上のキースイッチの使用</p> <pre>sc0:sms-user:&gt;setkeyswitch -d A on SB0 is in the ASR Blacklist.</pre>                                                                                                  |       |     |              |           |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|--------------|-----------|
| 終了ステータス      | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0 正常に終了しました。</p> <p>0 以外 エラーが発生しました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                          |       |     |              |           |
| 属性           | <p>次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th style="padding: 2px;">属性タイプ</th> <th style="padding: 2px;">属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 2px;">Availability</td> <td style="padding: 2px;">SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table> | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ        | 属性値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |     |              |           |
| Availability | SUNWSMSop                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |       |     |              |           |
| ファイル         | <p>このコマンドでは次のファイルが使用されます。</p> <pre>/etc/opt/SUNWSMS/config/asr/blacklist</pre> <p>esmd によって除外されるコンポーネントの一覧。</p> <hr/> <p><b>注 –</b> このファイルは内部で作成されて使用されます。手動で編集しないでください。</p> <hr/>                                                                                                                                       |       |     |              |           |
| 関連項目         | <p>addtag(1M)、esmd(1M)、flashupdate(1M)、pcd(1M)、reset(1M)、showkeyswitch(1M)</p>                                                                                                                                                                                                                                           |       |     |              |           |

## setobpparams(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | setobpparams – ドメインの OpenBoot PROM 変数の設定                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 形式    | setobpparams -d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> <i>param=value</i> ...<br>setobpparams -h                                                                                                                                                                                                                         |
| 機能説明  | <p>setobpparams(1M) を使用すると、ドメイン管理者は、setkeyswitch(1M) によって OpenBoot PROM に渡される仮想 NVRAM および REBOOT 変数を設定できます。-d オプションと <i>domain_id</i> または <i>domain_tag</i> が必要です。変更内容を有効にするにはドメインを再起動する必要があります。</p> <p>このコマンドはエラー回復用であり、日常のシステム管理用ではありません。詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 4 章を参照してください。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-d <i>domain_id</i>   ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p>-d <i>domain_tag</i>   addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。</p> <p>-h               ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p>注 -   単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されます。</p> <hr/>                                  |
| オペランド | <p>次のオペランドがサポートされています。</p> <p><i>param=value</i>   NVRAM および REBOOT 変数値。有効な変数は、次のとおりです。</p> <p>                  diag-switch?<br/>                  auto-boot?<br/>                  fcode-debug?<br/>                  use-nvramrc?<br/>                  security-mode</p>                                           |

セキュリティーモードを除くすべてに対して有効な変数値は次のとおりです。

```
true
false
```

セキュリティーモードに対して有効な変数値は次のとおりです。

```
none
command
full
```

ここで、

```
none - パスワードは必要ありません (デフォルト)
command - boot(1M) と go 以外のすべてのコマンドでパスワードが必要
full - go 以外のすべてのコマンドでパスワードが必要
```

---

**注 -** セキュリティーパスワードを忘れないこと、セキュリティーモードを設定する前にセキュリティーパスワードを設定することが重要です。このパスワードを忘れた場合は、システムを使用することはできなくなります。システムを再び起動するにはベンダーのカスタマサポートサービスにお問い合わせください。security-mode およびその他の OpenBoot PROM 変数の詳細については、『OpenBoot 4.x Command Reference Manual』を参照してください。

---



---

**注 -** ほとんどのシェルでは、変数値を単一引用符で囲んで '?' が特殊文字として処理されるのを防ぎます。以下の例を参照してください。

---

## 拡張機能説明

### 必要なグループ特権

指定されたドメインについて、ドメイン管理者または設定者の特権を持っている必要があります。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

## setobpparams(1M)

**使用例** | 使用例 1 — ドメイン A に対する OpenBootPROM 変数 diag-switch のオン設定

```
sc0:sms-user:>setobpparams -d a 'diag-switch?=true'
```

使用例 2 — ドメイン A に対する OpenBootPROM 変数 security-mode の Full 設定

```
sc0:sms-user:>setobpparams -d a 'security-mode=full'
```

**終了ステータス** | 次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

**属性** | 次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

**関連項目** | addtag(1M)、setkeyswitch(1M)、showobpparams(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | setupplatform – ドメインの使用可能構成要素リストの設定                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 形式    | <pre>setupplatform [-d domain_id domain_tag [-a -r] location [location]...] setupplatform [-d domain_id domain_tag - ] setupplatform -h</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 機能説明  | <p>setupplatform(1M) は、ドメインの使用可能構成要素リストを設定します。 <i>domain_id domain_tag</i> が指定されている場合は、ボードのリストを指定する必要があります。空のボードは '-' と指定できます。 <i>domain_id domain_tag</i> が指定されていない場合は、コマンドプロンプトで現在の値が “[ ]” 内に表示されます。パラメタに対して値が指定されていない場合は、現在の値が保持されます。</p>                                                                                                                                                                                                       |
| オプション | <p>-a                   ドメインの使用可能構成要素リストにスロットを追加します。</p> <p>-d <i>domain_id</i>       ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p>-d <i>domain_tag</i>     adddtag (1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。</p> <p>-h                   ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p>注 –   単一で使います。-h に追加して指定されたオプションは無視されま<br/>す。</p> <hr/> <p>-r                   ドメインの使用可能構成要素リストからスロットを削除しま<br/>す。</p> <p>-                    使用可能構成要素リスト全体を消去します。</p> |
| オペランド | <p>次のオペランドがサポートされています。</p> <p><i>location</i>           ボード位置で、スペースで区切ります。複数の <i>location</i> 引数<br/>は、許可されません。</p> <p>                      次の <i>location</i> 形式が使用できます。</p> <p>                      SB(0..17)<br/>                      IO(0..17)</p>                                                                                                                                                                                           |

## setupplatform(1M)

### 拡張機能説明

#### 必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

#### 使用例

setupplatform を実行した後は、setupplatform(1M) を使用して使用可能構成要素リストを表示します。

#### 使用例 1 – すべてのドメイン用の使用可能構成要素リストの設定

```
sc0:SMS-user:> setupplatform
Available component list for domain domainA [SB3 SB2 SB1 IO5 IO4 IO3]? -r SB1
Are you sure[no]: (yes/no)? y
Available for domain DomainB [SB6 SB4 SB1, IO3 IO2]? -
Are you sure[no]: (yes/no)? y
Available for domain C [SB7 SB5, IO8 IO7]? -a SB17 SB16
Available for domain D [SB9 SB8 SB4 SB2, IO6 IO5 IO1]?
Available for domain E [SB0, IO0]?
Available for domain F []?
Available for domain G []?
Available for domain H []?
Available for domain I []?
Available for domain J []?
Available for domain K []?
Available for domain L []?
Available for domain M []?
Available for domain N []?
Available for domain O []?
Available for domain P []?
Available for domain Q []?
Available for domain R []?

sc0:SMS-user:> showplatform

Available for domain DomainA:
 SB3,SB2
 IO5,IO4,IO3

Available for domain DomainB:
 None
 None

Available for domain DomainC:
 SB17,SB16,SB7,SB5
 IO8,IO7

Available for domain D:
 SB9,SB8,SB4,SB2
 IO6,IO5,IO1

Available for domain E:
 SB0
```



I00

Available for domain DomainF:  
None  
None

Available for domain DomainG:  
None  
None

Available for domain DomainH:  
None  
None

Available for domain I:  
None  
None

Available for domain J:  
None  
None

Available for domain DomainK:  
None  
None

Available for domain L:  
None  
None

Available for domain M:  
None  
None

Available for domain N:  
None  
None

Available for domain O:  
None  
None

Available for domain P:  
None  
None

Available for domain Q:  
None  
None

Available for domain R:  
None  
None

## setupplatform(1M)

**使用例 2** — ドメイン `engB` 用の使用可能構成要素リストの `SB0`、`IO1`、`IO2` のボードへの設定

```
sc0:sms-user:>setupplatform -d engB SB0 IO1 IO2
```

**使用例 3** — `engB` 使用可能構成要素リスト内のすべてのボードの消去

```
%sc0:sms-user:>setupplatform -d engB -
```

**使用例 4** — `SB0` および `IO2` での `engB` 使用可能構成要素リストへのボードの追加

```
sc0:sms-user:>setupplatform -d engB -a SB0 IO2
```

**使用例 5** — `SB3` および `IO3` での `engB` 使用可能構成要素リストからのボードの削除

```
sc0:sms-user:>setupplatform -d engB -r SB3 IO3
```

### 終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

### 属性

次の属性の説明については、`attributes(5)` を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

### 関連項目

`addtag(1M)`、`showplatform(1M)`

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前        | showboards – ボードの割り当て情報と状態の表示                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 形式        | showboards [-d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> ] [-v ]<br>showboards [-h ]                                                                                                                                                                                                               |
| 機能説明      | showboards(1M) は、ボードの割り当てを表示します。 <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> が指定されている場合、このコマンドでは指定ドメインにどのボードが assigned または available かを表示します。 -v オプションが使用されている場合、showboards では cpu、dpu、iobd、csb、exb、などの <b>ドメイン構成ユニット (DCU)</b> を含むすべてのコンポーネントとシステムコントローラ (SC) を表示します。                               |
| オプション     | 次のオプションがサポートされています。<br>-d <i>domain_id</i> ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。<br>-d <i>domain_tag</i> addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。<br>-h               ヘルプ。使用方法を表示します。                                                                                             |
|           | <hr/> <b>注 -</b> 単一で使用します。 -h と組み合わせて指定されたオプションは無視されます。 <hr/>                                                                                                                                                                                                                                 |
|           | -v               DCU を含むすべてのコンポーネントを表示します。                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 拡張機能説明    |                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 必要なグループ特権 | このコマンドを実行するには、指定されたドメインに対するプラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。<br><br>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。<br><br>プラットフォーム管理者特権：<br><br>■ オプションが何も指定されていない場合、showboards では assigned または available な DCU を含むすべてのコンポーネントを表示します。 |

## showboards(1M)

- *domain\_id* | *domain\_tag* が指定されている場合、showboards では指定ドメインに assigned または available な DCU に関する情報を表示します。他のドメインに assigned されている DCU は、表示されません。
- -v オプションが指定されている場合、showboards では、すべての assigned または available な DCU に関する情報を表示します。また、showboards ではその他すべてのコンポーネントに関する情報も表示します。
- *domain\_id* | *domain\_tag* および -a オプションが指定されている場合、showboards では指定ドメインに assigned または available な DCU に関する情報を表示します。また、showboards ではその他すべてのコンポーネントに関する情報も表示します。他のドメインに assigned されている DCU は、表示されません。

ドメイン管理者または構成者特権：

- オプションが何も指定されていない場合、showboards では assigned または available な DCU を含む、ユーザーが特権を持つすべてのドメイン用のすべてのボードを表示します。
- *domain\_id* | *domain\_tag* が指定されている場合、showboards では指定ドメインに assigned および available な DCU に関する情報を表示します。他のドメインに assigned されている DCU は、表示されません。Available DCU は、ドメインの使用可能構成要素リスト内にあるボードです。setupplatform(1M) および showplatform(1M) を参照してください。指定したドメインに対するドメイン管理者特権またはドメイン構成者特権が必要です。
- このユーザーは -v オプションを利用できません。

Pwr フィールド内の状態

Pwr フィールドには、次の 3 つの値の中の 1 つが含まれます。

|     |                           |
|-----|---------------------------|
| On  | = フル電圧                    |
| Off | = 電圧なし                    |
| Min | = 電圧あり                    |
| Unk | = 不明。ボードの電源状態を判別できません。    |
| —   | = スロットが空で該当する電源の状態がありません。 |

**Min** は、ボードが使用されていることを示すのではなく、単にボード上で電圧が検出されたことを意味します。電源が入れられるまで使用しないでください。反対に、電源を切るまではシステムから取り外さないでください。

**Board Status** フィールドには、次の 4 つの中のいずれかの値が含まれます。

- Active** = ボードはドメインに割り当てられ、POST を通過していません。
- Assigned** = ボードはドメインに割り当てられています。
- Available** = ボードはドメインに割り当てることができます。
- = ドメイン割り当てまたはアクティビティがこのボードに適応していません。

**Test Status** フィールドには、次の 6 つの中のいずれかの値が含まれます。

- Passed** = ボードが POST を通過しました。
- Degraded** = ボードが **degraded** モードです。
- Failed** = ボードが POST に失敗しました。
- iPOST** = ボードが POST 中です。
- Unknown** = ボードはテストされていません。
- = このボードのテスト状態がありません。

**Domain** フィールドには、次の 4 つの中のいずれかの値が含まれます。

- domain\_id** = ドメインの ID。
- domain\_tag** = **addtag(1M)** を使用してドメインに割り当てられた名前。
- Isolated** = ボードはどのドメインにも割り当てられていません。
- = ドメイン割り当てはこのボードには適用されません。

## 使用例

## 使用例 1 - プラットフォーム管理者用の showboards

```
sc0:SMS-user:> showboards
```

| Location | Pwr | Type of Board | Board Status | Test Status | Domain   |
|----------|-----|---------------|--------------|-------------|----------|
| SB0      | On  | CPU           | Active       | Passed      | domainC  |
| SB1      | On  | CPU           | Active       | Passed      | A        |
| SB2      | On  | CPU           | Active       | Passed      | A        |
| SB3      | On  | CPU           | Active       | Passed      | engB     |
| SB4      | On  | CPU           | Active       | Passed      | engB     |
| SB5      | On  | CPU           | Active       | Passed      | engB     |
| SB6      | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| SB7      | On  | CPU           | Active       | Passed      | domainC  |
| SB8      | Off | CPU           | Available    | Unknown     | Isolated |
| SB9      | On  | CPU           | Active       | Passed      | dmnJ     |
| SB10     | Off | CPU           | Available    | Unknown     | Isolated |
| SB11     | Off | CPU           | Available    | Unknown     | Isolated |
| SB12     | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| SB13     | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| SB14     | Off | CPU           | Assigned     | Failed      | domainC  |
| SB15     | On  | CPU           | Active       | Passed      | P        |
| SB16     | On  | CPU           | Active       | Passed      | Q        |
| SB17     | -   | Empty Slot    | Assigned     | -           | dmnR     |
| IO0      | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| IO1      | On  | HPCI          | Active       | Passed      | A        |
| IO2      | On  | HPCI          | Active       | Passed      | engB     |
| IO3      | On  | HPCI          | Active       | Passed      | domainC  |
| IO4      | On  | HPCI          | Available    | Degraded    | domainC  |
| IO5      | Off | HPCI          | Available    | Unknown     | Isolated |
| IO6      | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| IO7      | On  | HPCI          | Active       | Passed      | dmnJ     |
| IO8      | Off | HPCI          | Assigned     | Unknown     | A        |
| IO9      | On  | HPCI          | Assigned     | iPOST       | dmnJ     |
| IO10     | Off | HPCI          | Assigned     | Unknown     | engB     |
| IO11     | Off | HPCI          | Assigned     | Failed      | engB     |
| IO12     | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| IO13     | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| IO14     | Off | HPCI          | Available    | Unknown     | Isolated |
| IO15     | On  | HPCI          | Active       | Passed      | P        |
| IO16     | On  | HPCI          | Active       | Passed      | Q        |
| IO17     | -   | Empty Slot    | Assigned     | -           | dmnR     |

## 使用例 2 - ドメイン B 用のプラットフォーム管理者用の showboards

次の例では、プラットフォーム管理者特権を持っていてドメインを指定した場合の showboards 出力を示します。出力には他のドメインに割り当てられているドメインは含まれません。

```
sc0:sms-user:> showboards -d b
```

| Location | Pwr | Type of Board | Board Status | Test Status | Domain   |
|----------|-----|---------------|--------------|-------------|----------|
| SB3      | On  | CPU           | Active       | Passed      | engB     |
| SB4      | On  | CPU           | Active       | Passed      | engB     |
| SB5      | On  | CPU           | Active       | Passed      | engB     |
| SB6      | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| SB8      | Off | CPU           | Available    | Unknown     | Isolated |
| SB10     | Off | CPU           | Available    | Unknown     | Isolated |
| SB11     | Off | CPU           | Available    | Unknown     | Isolated |
| SB12     | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| SB13     | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| IO0      | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| IO2      | On  | HPCI          | Active       | Passed      | engB     |
| IO5      | Off | HPCI          | Available    | Unknown     | Isolated |
| IO6      | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| IO10     | Off | HPCI          | Assigned     | Unknown     | engB     |
| IO11     | Off | HPCI          | Assigned     | Failed      | engB     |
| IO12     | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| IO13     | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| IO14     | Off | HPCI          | Available    | Unknown     | Isolated |

### 使用例 3 - -v オプションを使用したプラットフォーム管理者用の showboards

次の例では、プラットフォーム管理者特権を持っていて -v オプションを使用した場合の showboards 出力を示します。このコマンドはすべてのコンポーネントを示します。

```
sc0:sms-user:> showboards -v
```

| Location | Pwr | Type of Board | Board Status | Test Status | Domain |
|----------|-----|---------------|--------------|-------------|--------|
| SC0      | On  | SC            | Slave        | -           | -      |
| SC1      | On  | SC            | Master       | -           | -      |
| PS0      | On  | PS            | -            | -           | -      |
| PS1      | On  | PS            | -            | -           | -      |
| PS2      | On  | PS            | -            | -           | -      |
| PS3      | -   | Empty Slot    | -            | -           | -      |
| PS4      | Off | PS            | -            | -           | -      |
| PS5      | On  | PS            | -            | -           | -      |
| FT0      | On  | FT            | -            | -           | -      |
| FT1      | On  | FT            | -            | -           | -      |
| FT2      | On  | FT            | -            | -           | -      |
| FT3      | On  | FT            | -            | -           | -      |
| FT4      | On  | FT            | -            | -           | -      |
| FT5      | -   | Empty Slot    | -            | -           | -      |
| FT6      | Off | FT            | -            | -           | -      |
| FT7      | On  | FT            | -            | -           | -      |
| CS0      | On  | CSB           | -            | -           | -      |
| CS1      | On  | CSB           | -            | -           | -      |
| EX0      | On  | EXB           | -            | -           | -      |
| EX1      | On  | EXB           | -            | -           | -      |

showboards(1M)

|           |     |            |   |   |          |
|-----------|-----|------------|---|---|----------|
| EX2       | On  | EXB        | - | - | -        |
| EX3       | On  | EXB        | - | - | -        |
| EX4       | On  | EXB        | - | - | -        |
| EX5       | On  | EXB        | - | - | -        |
| EX6       | -   | Empty Slot | - | - | -        |
| EX7       | On  | EXB        | - | - | -        |
| EX8       | On  | EXB        | - | - | -        |
| EX9       | On  | EXB        | - | - | -        |
| EX10      | On  | EXB        | - | - | -        |
| EX11      | On  | EXB        | - | - | -        |
| EX12      | -   | Empty Slot | - | - | -        |
| EX13      | -   | Empty Slot | - | - | -        |
| EX14      | Off | EXB        | - | - | -        |
| EX15      | On  | EXB        | - | - | -        |
| EX16      | On  | EXB        | - | - | -        |
| EX17      | On  | EXB        | - | - | -        |
| IO1/C3V0  | On  | C3V        | - | - | A        |
| IO1/C5V0  | On  | C5V        | - | - | A        |
| IO1/C3V1  | On  | C3V        | - | - | A        |
| IO1/C5V1  | On  | C5V        | - | - | A        |
| IO2/C3V0  | On  | C3V        | - | - | engB     |
| IO2/C5V0  | On  | C5V        | - | - | engB     |
| IO2/C3V1  | On  | C3V        | - | - | engB     |
| IO2/C5V1  | On  | C5V        | - | - | engB     |
| IO3/C3V0  | On  | C3V        | - | - | domainC  |
| IO3/C5V0  | On  | C5V        | - | - | domainC  |
| IO3/C3V1  | -   | Empty Slot | - | - | domainC  |
| IO3/C5V1  | -   | Empty Slot | - | - | domainC  |
| IO4/C3V0  | On  | C3V        | - | - | domainC  |
| IO4/C5V0  | On  | C5V        | - | - | domainC  |
| IO4/C3V1  | On  | C3V        | - | - | domainC  |
| IO4/C5V1  | On  | C5V        | - | - | domainC  |
| IO5/C3V0  | On  | C3V        | - | - | Isolated |
| IO5/C5V0  | On  | C5V        | - | - | Isolated |
| IO5/C3V1  | On  | C3V        | - | - | Isolated |
| IO5/C5V1  | On  | C5V        | - | - | Isolated |
| IO7/C3V0  | On  | C3V        | - | - | dmnJ     |
| IO7/C5V0  | On  | C5V        | - | - | dmnJ     |
| IO7/C3V1  | On  | C3V        | - | - | dmnJ     |
| IO7/C5V1  | On  | C5V        | - | - | dmnJ     |
| IO8/C3V0  | On  | C3V        | - | - | A        |
| IO8/C5V0  | On  | C5V        | - | - | A        |
| IO8/C3V1  | On  | C3V        | - | - | A        |
| IO8/C5V1  | On  | C5V        | - | - | A        |
| IO9/C3V0  | On  | C3V        | - | - | dmnJ     |
| IO9/C5V0  | On  | C5V        | - | - | dmnJ     |
| IO9/C3V1  | On  | C3V        | - | - | dmnJ     |
| IO9/C5V1  | On  | C5V        | - | - | dmnJ     |
| IO10/C3V0 | On  | C3V        | - | - | engB     |
| IO10/C5V0 | On  | C5V        | - | - | engB     |
| IO10/C3V1 | On  | C3V        | - | - | engB     |
| IO10/C5V1 | On  | C5V        | - | - | engB     |
| IO11/C3V0 | On  | C3V        | - | - | engB     |
| IO11/C5V0 | On  | C5V        | - | - | engB     |
| IO11/C3V1 | On  | C3V        | - | - | engB     |
| IO11/C5V1 | On  | C5V        | - | - | engB     |
| IO14/C3V0 | On  | C3V        | - | - | Isolated |



## showboards(1M)

|           |     |            |           |          |          |
|-----------|-----|------------|-----------|----------|----------|
| IO14/C5V0 | On  | C5V        | -         | -        | Isolated |
| IO14/C3V1 | On  | C3V        | -         | -        | Isolated |
| IO14/C5V1 | On  | C5V        | -         | -        | Isolated |
| IO15/C3V0 | On  | C3V        | -         | -        | P        |
| IO15/C5V0 | On  | C5V        | -         | -        | P        |
| IO15/C3V1 | On  | C3V        | -         | -        | P        |
| IO15/C5V1 | On  | C5V        | -         | -        | P        |
| IO16/C3V0 | On  | C3V        | -         | -        | Q        |
| IO16/C5V0 | On  | C5V        | -         | -        | Q        |
| IO16/C3V1 | On  | C3V        | -         | -        | Q        |
| IO16/C5V1 | On  | C5V        | -         | -        | Q        |
| SB0       | On  | CPU        | Active    | Passed   | domainC  |
| SB1       | On  | CPU        | Active    | Passed   | A        |
| SB2       | On  | CPU        | Active    | Passed   | A        |
| SB3       | On  | CPU        | Active    | Passed   | engB     |
| SB4       | On  | CPU        | Active    | Passed   | engB     |
| SB5       | On  | CPU        | Active    | Passed   | engB     |
| SB6       | -   | Empty Slot | Available | -        | Isolated |
| SB7       | On  | CPU        | Active    | Passed   | domainC  |
| SB8       | Off | CPU        | Available | Unknown  | Isolated |
| SB9       | On  | CPU        | Active    | Passed   | dmnJ     |
| SB10      | Off | CPU        | Available | Unknown  | Isolated |
| SB11      | Off | CPU        | Available | Unknown  | Isolated |
| SB12      | -   | Empty Slot | Available | -        | Isolated |
| SB13      | -   | Empty Slot | Available | -        | Isolated |
| SB14      | Off | CPU        | Assigned  | Failed   | domainC  |
| SB15      | On  | CPU        | Active    | Passed   | P        |
| SB16      | On  | CPU        | Active    | Passed   | Q        |
| SB17      | -   | Empty Slot | Assigned  | -        | dmnR     |
| IO0       | -   | Empty Slot | Available | -        | Isolated |
| IO1       | On  | HPCI       | Active    | Passed   | A        |
| IO2       | On  | HPCI       | Active    | Passed   | engB     |
| IO3       | On  | HPCI       | Active    | Passed   | domainC  |
| IO4       | On  | HPCI       | Available | Degraded | domainC  |
| IO5       | Off | HPCI       | Available | Unknown  | Isolated |
| IO6       | -   | Empty Slot | Available | -        | Isolated |
| IO7       | On  | HPCI       | Active    | Passed   | dmnJ     |
| IO8       | Off | HPCI       | Assigned  | Unknown  | A        |
| IO9       | On  | HPCI       | Assigned  | iPOST    | dmnJ     |
| IO10      | Off | HPCI       | Assigned  | Unknown  | engB     |
| IO11      | Off | HPCI       | Assigned  | Failed   | engB     |
| IO12      | -   | Empty Slot | Available | -        | Isolated |
| IO13      | -   | Empty Slot | Available | -        | Isolated |
| IO14      | Off | HPCI       | Available | Unknown  | Isolated |
| IO15      | On  | HPCI       | Active    | Passed   | P        |
| IO16      | On  | HPCI       | Active    | Passed   | Q        |
| IO17      | -   | Empty Slot | Assigned  | -        | dmnR     |

#### 使用例 4 – ドメイン B、J、R に対する特権を持つドメイン管理者用の showboards

次の例では、ドメイン B、J、R に対するドメイン特権を持っている場合の showboards 出力を示します。showboards は、ドメイン B、J、R に assigned または available なボードの情報を表示します。他のドメインに assigned されているボードまたはドメイン B、J、R の使用可能構成要素リストに表示されないドメインは、表示されません。

```
sc0:SMS-USER:> showboards
```

| Location | Pwr | Type of Board | Board Status | Test Status | Domain   |
|----------|-----|---------------|--------------|-------------|----------|
| SB3      | On  | CPU           | Active       | Passed      | engB     |
| SB4      | On  | CPU           | Active       | Passed      | engB     |
| SB5      | On  | CPU           | Active       | Passed      | engB     |
| SB6      | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| SB8      | Off | CPU           | Available    | Unknown     | Isolated |
| SB9      | On  | CPU           | Active       | Passed      | dmnJ     |
| SB10     | Off | CPU           | Available    | Unknown     | Isolated |
| SB11     | Off | CPU           | Available    | Unknown     | Isolated |
| SB12     | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| SB13     | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| SB17     | -   | Empty Slot    | Assigned     | -           | dmnR     |
| IO0      | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| IO2      | On  | HPCI          | Active       | Passed      | engB     |
| IO5      | Off | HPCI          | Available    | Unknown     | Isolated |
| IO6      | -   | Empty Slot    | Available    | -           | Isolated |
| IO7      | On  | HPCI          | Active       | Passed      | dmnJ     |
| IO9      | On  | HPCI          | Assigned     | iPOST       | dmnJ     |
| IO10     | Off | HPCI          | Assigned     | Unknown     | engB     |
| IO11     | Off | HPCI          | Assigned     | Failed      | engB     |
| IO17     | -   | Empty Slot    | Assigned     | -           | dmnR     |

#### 使用例 5 – ドメイン B 用のドメイン管理者用の showboards

次の例では、showboards は、ドメイン B、J、R に対するドメイン特権を持っている場合の出力を示します。このコマンドは、指定したドメインに assigned または available な DCU のボードの情報を表示します。他のドメインに assigned されている DCU または指定したドメインの使用可能構成要素リストに表示されないドメインは、表示されません。

```
sc0:SMS-USER:> showboards -d b
```

| Location | Pwr | Type of Board | Board Status | Test Status | Domain |
|----------|-----|---------------|--------------|-------------|--------|
| SB3      | On  | CPU           | Active       | Passed      | engB   |
| SB4      | On  | CPU           | Active       | Passed      | engB   |

showboards(1M)

|      |     |            |           |         |          |
|------|-----|------------|-----------|---------|----------|
| SB5  | On  | CPU        | Active    | Passed  | engB     |
| SB6  | -   | Empty Slot | Available | -       | Isolated |
| SB8  | Off | CPU        | Available | Unknown | Isolated |
| SB10 | Off | CPU        | Available | Unknown | Isolated |
| SB11 | Off | CPU        | Available | Unknown | Isolated |
| SB12 | -   | Empty Slot | Available | -       | Isolated |
| SB13 | -   | Empty Slot | Available | -       | Isolated |
| IO0  | -   | Empty Slot | Available | -       | Isolated |
| IO2  | On  | HPCI       | Active    | Passed  | engB     |
| IO5  | Off | HPCI       | Available | Unknown | Isolated |
| IO6  | -   | Empty Slot | Available | -       | Isolated |
| IO10 | Off | HPCI       | Assigned  | Unknown | engB     |
| IO11 | Off | HPCI       | Assigned  | Failed  | engB     |

終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 1 無効なドメインが指定されました。
- 2 無効なコマンド行オプションが指定されました。
- 3 不正な数のドメインが指定されました。
- 4 ユーザーが有効な特権を持っていません。
- 5 内部エラーが発生しました。
- 6 ボード情報の取得中にエラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

addtag(1M)、setupplatform(1M)、showplatform(1M)

## showbus(1M)

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前        | showbus - アクティブドメイン内の拡張ボタンのバス構成を表示                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 形式        | showbus [-v ]<br><br>showbus -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 機能説明      | showbus(1M) は、アクティブドメイン内の拡張ボタンのバス構成を表示します。この情報は、スロット順序 EX0-EX17 で構成を表示するようデフォルト設定されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| オプション     | -h ヘルプ。使用方法を表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|           | <hr/> <b>注 -</b> 単一で使用します。-h と組み合わせて指定されたオプションは無視されます。 <hr/>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|           | -v 冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。拡張ボタン構成に加えて、ドメイン、ドメインキースイッチ位置、スロット 0 およびスロット 1 ボード割り当てが表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 拡張機能説明    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 必要なグループ特権 | システム内の通信拡張ボタン (SOCX) のすべてのセットを表示するには、プラットフォームの管理者特権、オペレータ特権または保守特権が必要です。<br><br>ドメイン管理者または構成者が表示できるのは、自身が特権を持っているドメインに割り当てられている SOCX のみです。<br><br>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。                                                                                                                                                                             |
| 使用例       | <b>使用例 1 - すべてのドメインに対する showbus 表示</b><br><br>この表示はプラットフォーム管理者のデフォルトです。ドメイン管理者または構成者は、これを表示するにはすべてのドメインに対する特権を持っている必要があります。それ以外の場合は、ユーザーが特権を持っているドメインのみが表示されます。<br><br><pre>sc0:sms-user:&gt; showbus Location  Data      Address   Response  SOCX ----- EX0       CS0       CS1       CS0       0x0001 EX1       UNCONF   UNCONF   UNCONF   UNCONF EX2       UNCONF   UNCONF   UNCONF   UNCONF</pre> |

|      |          |          |          |         |
|------|----------|----------|----------|---------|
| EX3  | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF  |
| EX4  | CS0, CS1 | CS0, CS1 | CS0, CS1 | 0x14010 |
| EX5  | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF  |
| EX6  | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF  |
| EX7  | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF  |
| EX8  | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF  |
| EX9  | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF  |
| EX10 | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF  |
| EX11 | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF  |
| EX12 | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF  |
| EX13 | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF  |
| EX14 | CS0, CS1 | CS0, CS1 | CS0, CS1 | 0x14010 |
| EX15 | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF  |
| EX16 | CS0, CS1 | CS0, CS1 | CS0, CS1 | 0x14010 |
| EX17 | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF   | UNCONF  |

### 使用例 2 - -v を使用したすべてのドメインに対する showbus 表示

```
sc0:sms-user:> showbus -v
```

```

SOCX: 0x14010

 Data: CS0, CS1
 Address: CS0, CS1
 Response: CS0, CS1

Domain: A keyswitch: ON
 Location: EX4 SB4: active O4 : active
 Location: EX14 IO14: active
 Location: EX16 IO16: active

SOCX: 0x00001

 Data: CS0
 Address: CS1
 Response: CS0

Domain: B keyswitch: ON
 Location: EX0 SB0: active IO0: active

UNCONFIGURED

Domain: A keyswitch: ON
 Location: EX6 SB6: unknown
```

showbus(1M)

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

setbus(1M)

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前        | showcmdsyc – 現在のコマンド同期リストの表示                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 形式        | showcmdsyc [-v]<br>showcmdsyc -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 機能説明      | <p>showcmdsyc は、SC のフェイルオーバー後に再起動する必要があるコマンドまたはスクリプトを判別するためにスペアシステムコントローラ (SC) で使用されるコマンド同期リストを表示します。</p> <p>コマンド同期リストは <i>Descriptor</i>、<i>Identifier</i>、<i>Cmd</i> フォーマットで表示されます。</p> <p><i>Descriptor</i>      特定のスクリプトを表すコマンド同期記述子です。</p> <p><i>Identifier</i>      自動フェイルオーバーが発生した後にスクリプトを新しいメイン SC 上に再開可能なスクリプト内のマーカーポイントを識別します。識別子 -1 は、スクリプトがマーカーポイントを持っていないことを示します。</p> <p><i>Cmd</i>              再開するスクリプトの名前です。</p> |
| オプション     | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-h      ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p><b>注 -</b>      単一で使用します。-h と組み合わせて指定されたオプションは無視されます。</p> <hr/> <p>-v      すべての利用可能コマンド情報を表示します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 拡張機能説明    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 必要なグループ特権 | <p>このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。</p> <p>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                              |

## showcmdsyc(1M)

### 使用例

使用例 1 - コマンド同期リストの例

```
%sc0:sms-user:> showcmdsyc
```

```
DESCRIPTOR IDENTIFIER CMD
 0 -1 c1 a1 a2
```

### 終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

### 属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

### 関連項目

cancelcmdsyc(1M)、initcmdsyc(1M)、runccmdsyc(1M)、  
savecmdsyc(1M)



|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | showcomponent - コンポーネントのブラックリスト状態の表示                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 形式    | showcomponent [-a -d <i>domain_tag</i>   <i>domain_id</i> ] [-v] [ <i>location</i> ...]<br>showcomponent -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 機能説明  | <p>showcomponent(1M) は、指定したコンポーネントがプラットフォーム、ドメイン、または ASR ブラックリストファイルにリストされているかどうかを表示します。</p> <p>-a または -d オプションのいずれも指定していない場合は、showcomponent はプラットフォームブラックリストを表示します。<i>location</i> が指定されていない場合は、showcomponent では指定したブラックリスト内のすべてのコンポーネントを表示します。</p> <p><i>blacklist</i> は、POST が起動時に使用できないコンポーネントを一覧表示した内部ファイルです。POST はシステムを起動用に準備する前にブラックリストファイルを読み取り、OpenBoot PROM とともに正常にテストが完了したコンポーネントのみのリストを渡します。ブラックリストにあるファイルは除外されます。</p> <p>SMS では、ドメインボード用、プラットフォームボード用、内部自動システム回復 (ASR) ブラックリストの 3 つのブラックリストをサポートします。</p> <p>プラットフォームおよびドメインブラックリストの使用および編集に関する詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 7 章を参照してください。</p> |
| オプション | <p>-a ASR ブラックリストを指定します。</p> <p>-d <i>domain_id</i> ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。このオプションはドメインブラックリストを指定します。</p> <p>-d <i>domain_tag</i> addtag (1M) を使用してドメインに割り当てられる名前です。このオプションはドメインブラックリストを指定します。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

## オペランド

---

注 - 単一で使⽤します。-h と組み合わせで指定されたオプションは無視されま⽤。

---

-v 全ての利⽤可能コマンド情報を表⽰します。

次のオペランドがサポートされています。

*location* スラッシュで区切られた *board\_loc/proc/bank/dimm* または *board\_loc/hsPCI* または *board\_loc/bus* 位置で構成されるコンポーネント位置のリスト。

*location* 引数が複数の場合は、スペースで区切ります。

*location* 形式は、オプションであり、特定の位置にあるボード上の特定のコンポーネントを指定するために使⽤されます。

たとえば、*location SB5/P0/B1/D3* は、SB5 にあるプロセッサ 0 のバンク 1 上の Dimm 3 を表⽰します。SB0/PP1 *location* は、SB0 にあるプロセッサペア 1 を表⽰します。CS0/ABUS1 *location* は、CS0 にあるアドレスバス 1 を表⽰します。

次の *board\_loc* 形式が使⽤できます。

SB(0...17)

IO(0...17)

CS(0|1)

EX(0...17)

プロセッサ位置は、単一のプロセッサまたはプロセッサペアを表⽰します。

1 枚の CPU/メモリーボードでは、4 つのプロセッサが使⽤できます。ボード上のプロセッサペアは、procs 0 と 1、および procs 2 と 3 です。

MaxCPU には、procs 0 と 1、および 1 つのみの proc ペア (PP0) の 2 つのプロセッサがあります。このボードに PP1 を使⽤すると、*disablecomponent* が終了し、エラーメッセージが表⽰されます。

次の *proc* 形式が使用できます。

P(0...3)

PP(0|1)

次の *bank* 形式が使用できます。

B(0...3)

次の *dimm* 形式が使用できます。

D(0...3)

hsPCI 構成部品には、ホットスワップ可能なカセットが含まれます。

次の *hsPCI* 形式が使用できます。

C(3|5)V(0|1)

バス位置には、アドレス、データおよび応答の 3 つがあります。

次の *bus* 形式が使用できます。

ABUS|DBUS|RBUS (0|1)

## 拡張機能説明

### 必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。ドメイン特権を持っている場合は、特権を持っているドメインに対してのみこのコマンドを実行することができます。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

### 使用例

**使用例 1** – SB0 が ASR ブラックリストにあるかどうかの表示

```
sc0:sms-user:> showcomponent -a SB0
Component SB0 is disabled: #High Voltage
```

## showcomponent(1M)

**使用例 2** – ドメイン B 内の 4 ボード/コンポーネントがブラックリストにあるかどうかの表示

```
sc0:sms-user:> showcomponent -dB IO4/PP0 SB5 IO6/C5V0 EX7/ABUS0
Component IO4/PP0 is disabled:#High temp
Component SB5 is disabled:<no reason given>
Component IO6/C5V0 is NOT disabled.
Component EX7/ABUS0 is NOT disabled.
```

**使用例 3** – すべてのプラットフォームブラックリスト掲載コンポーネントの表示

```
sc0:sms-user:> showcomponent
Component SB0 is disabled:#High temp
Component SB3 is disabled:
Component IO2 is disabled. <no reason given>
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

ファイル

このコマンドでは次のファイルが使用されます。

```
/etc/opt/SUNWSMS/config/asr/blacklist
```

esmd によって除外されたコンポーネントのリスト。

---

**注 –** このファイルは内部で作成されて使用されます。手動で編集しないでください。

---

```
/etc/opt/SUNWSMS/config/platform/blacklist
```

除外されるプラットフォームコンポーネントの一覧。

showcomponent(1M)

/etc/opt/SUNWSMS/config/*domain\_id*/blacklist

除外されるドメインコンポーネントの一覧。

関連項目

enablecomponent(1M)、disablecomponent(1M)、esmd(1M)

## showdatasync(1M)

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前     | showdatasync - フェイルオーバーに対するシステムコントローラ (SC) のデータ同期状態の表示                                                                                                                                                                                                                           |
| 形式     | showdatasync [-l -Q] [-v]<br>showdatasync [-h]                                                                                                                                                                                                                                   |
| 機能説明   | showdatasync は、メイン SC からスペア SC に適用 (コピー) されたファイルの現在の状態を提供します。データ適用は、スペア SC 上のデータをメイン SC 上のデータと同期して、SC フェイルオーバーが発生した場合にスペア SC がメイン SC とともに最新の状態になっているようにします。                                                                                                                      |
| オプション  | 次のオプションがサポートされています。<br><br>-h     ヘルプ。使用方法を表示します。                                                                                                                                                                                                                                |
|        | <hr/> <b>注 -</b> 単一で使用します。 -h に追加して指定されたオプションは無視されます。 <hr/>                                                                                                                                                                                                                      |
|        | -l     現在のデータ適用リスト内にファイルを一覧表示します。表示される情報の詳細については、「拡張機能説明」の節を参照してください。                                                                                                                                                                                                            |
|        | -Q     適用のため待ち行列に入れられているファイルを一覧表示します。各ファイル名には、ファイルへの絶対パスが含まれます。                                                                                                                                                                                                                  |
|        | -v     冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 拡張機能説明 | ここでは、showdatasync コマンドによって表示される情報について説明します。<br><br>オプションを showdatasync コマンドとともに指定していない場合は、次の情報が表示されます。<br><br>File Propagation Status:<br>Active File:<br>Queued files:<br><br>File Propagation Status   データ同期の現在の状態を表示します。<br>■ Active は、データ同期プロセスが使用可能になっていて、正常に機能していることを示します。 |

- Disabled は、SC フェイルオーバーが使用不可になっているためにデータ同期プロセスが使用不可になっていることを示します。
- Failed は、SC 障害が検出されていても、データ同期プロセスがファイルをスペア SC に適用できないことを示します。

**Active File** 現在適用されているファイルの絶対パスまたはリンクがアイドル状態であることを示す - (ダッシュ) のどちらかを表示します。

**Queued files** 適用するファイルで、まだ処理されていないファイルの数を指定します。

-l オプションを showdatasync コマンドとともに指定した場合、データ適用リスト内の各エントリは *Time Propagated, Interval, File* の形式で表示されます。

**Time Propagated** ファイルがメイン SC からスペア SC に適用された最後の時刻を示します。

**Interval** ファイルの変更をチェックする間隔を分単位で指定します。デフォルトの間隔は 60 分です。

**File** 適用されたファイルの絶対パスと名前を示します。

#### 必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

#### 使用例

##### 使用例 1 – データ同期の状態

```
sc0:sms-user:> showdatasync
File Propagation State: ACTIVE
Active File: -
Queued files: 0
```

## showdatasync(1M)

### 使用例 2 - データ同期リスト

```
sc0:sms-user:> showdatasync -l
TIME PROPAGATED INTERVAL FILE
Mar 23 16:00:00 60 /tmp/t1
```

### 使用例 3 - データ同期キュー

```
sc0:sms-user:> showdatasync -Q
FILE
/tmp/t1
```

#### 終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

#### 属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

#### 関連項目

setdatasync(1M)

『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』



|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前        | showdate - システムコントローラ (SC) またはドメインの日付と時刻の表示                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 形式        | showdate [-d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> ] [-u ] [-v ]<br><br>showdate -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 機能説明      | showdate (1M) は、SC の現在の日付と時刻を表示します。オプションで、showdate はドメインの時間を表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| オプション     | <p>-d <i>domain_id</i>   ドメインの ID です。有効な<i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p>-d <i>domain_tag</i>   adddtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。</p> <p>-h               ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p><b>注 -</b>   単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されません。</p> <hr/> <p>-u           グリニッジ標準時刻 (GMT) を使用して時刻を解釈して表示します。デフォルトでは該当地域のタイムゾーンが使用されます。</p> <p>-v           冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。</p> |
| 拡張機能説明    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 必要なグループ特権 | <p>SC の日付を表示するには、プラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守の特権が必要です。ドメインの日付を表示するには、指定したドメインに対するドメイン管理者特権またはドメイン構成者特権が必要です。</p> <p>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。</p>                                                                                                                                                                                          |
| 使用例       | <p><b>使用例 1 - 太平洋標準時 (PST) での現在のローカル日付表示</b></p> <pre>sc0:sms-user:&gt; showdate System Controller:Wed Feb 2 15:23:21 PST 2000</pre>                                                                                                                                                                                                                                                             |

showdate(1M)

使用例 2 – GMT を使用した現在の日付表示

```
sc0:sms-user:> showdate -u
System Controller:Wed Feb 2 23:23:21 GMT 2000
```

使用例 3 – 太平洋標準時でのドメイン A の現在のローカル日付表示

```
sc0:sms-user:> showdate -d a
Domain a:Wed Feb 2 15:33:20 PST 2000
```

使用例 4 – GMT を使用したドメイン A の現在の日付表示

```
sc0:sms-user:> showdate -d a -u
Domain a:Wed Feb 2 23:33:20 GMT 2000
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

addtag(1M)、setdate(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | showdevices – システムボードデバイスおよび資源使用状況情報の表示                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 形式    | showdevices [-v] [-p bydevice byboard query force] <i>location</i><br>[ <i>location...</i> ]<br><br>showdevices [-v] [-p bydevice byboard query force] -d<br><i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i><br><br>showdevices -h                                                                                                                     |
| 機能説明  | <p>showdevices(1M) は、システムボード上の構成された物理デバイスおよびこれらのデバイスで利用可能な資源を表示します。使用状況情報は、システム資源をアクティブに管理しているアプリケーションおよびサブシステムによって提供されます。管理対象資源のオフライン照会を実行することによってシステムボード DR 操作の予測される影響を表示します。非管理対象のデバイスはデフォルトでは表示されません。-v オプションを使用する必要があります。</p> <p>showdevices は、1 つ以上の Sun Fire 15K ドメインからデバイス情報を収集します。このコマンドでは、dca(1M) をプロキシとして使用してドメインから情報を収集します。</p> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-d <i>domain_id</i> ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。ドメイン内のすべての構成済みボードのデバイスおよび資源情報を表示します。</p> <p>-d <i>domain_tag</i> addtag (1M) を使用してドメインに割り当てられる名前です。ドメイン内のすべての構成済みボードのデバイスおよび資源情報を表示します。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p>                                                           |
|       | <hr/> <p><b>注 -</b> 単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されます。</p> <hr/>                                                                                                                                                                                                                                                                           |

## showdevices(1M)

- p** 特定のレポートを表示します。
- p** に対する有効な引数は次のとおりです。
- bydevice** — リスト出力はデバイスのタイプ (CPU、メモリー、IO) によってグループ化されます。これはデフォルト設定です。
- byboard** — リスト出力はシステムボードによってグループ化されます。デフォルトの出力はデバイスのタイプ (CPU、メモリー、IO) でグループ化された表形式です。
- query** — システムボードを取り外した結果の予測を照会します。
- force** — オフライン照会を強制します。資源消費プログラムは、システム資源の使用を破棄できるかどうかを予測するときに強制セマンティックを適用するよう要求されます。(cfgadm(1M) を参照してください)。
- v** すべての I/O デバイスを表示します。管理対象および非管理対象 I/O デバイスの両方が含まれます。管理対象デバイスはアクティブに管理されている資源をエクスポートします。非管理対象デバイスは物理的に構成されていますが、アクティブに管理されている資源をエクスポートしません。非管理対象デバイスの使用状況情報は利用できません。

### オペランド

次のオペランドがサポートされています。

**location** ボード位置のリストで、スペースで区切ります。複数の **location** 引数を使用できます。

次の **location** 形式が使用できます。

SB(0..17)

IO(0..17)

### 拡張機能説明

showdevice のフィールドは次のとおりです。

**domain** タグまたは識別子

**board** ボード識別子

## CPU:

id            プロセッサ ID  
state        プロセッサの状態  
speed        CPU の周波数 MHz 単位  
ecache      CPU キャッシュサイズ MB 単位

## メモリー:

board mem   ボードのメモリーサイズ MB 単位  
perm mem    ボード上の再配置不可能メモリー量 MB 単位  
base address ボード上のメモリーのベース物理アドレス  
domain mem   システムメモリーサイズ MB 単位  
board        ボード識別子

メモリーの消耗が進行している場合は、次の項目が利用できます。

target board ターゲットボード識別子  
deleted      すでに削除されているメモリー量 MB 単位  
remaining    削除可能な残りのメモリー量 MB 単位

## I/O デバイス:

device      I/O デバイスのインスタンス名  
resource    管理対象資源名  
usage        リソース使用状況インスタンスの説明  
query        リソースのオフライン照会の結果

## 必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、指定したすべてのボードに対するドメイン管理者特権または構成者特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

## 使用例

## 使用例 1 - システムボード IO1 に対する showdevices

```
sc0:sms-user:>showdevices IO1
IO Devices

domain location device resource usage
A IO1 sd3 /dev/dsk/c0t3d0s0 mounted filesystem "/"
A IO1 sd3 /dev/dsk/c0t3s0s1 dump device (swap)
A IO1 sd3 /dev/dsk/c0t3s0s1 swap area
A IO1 sd3 /dev/dsk/c0t3d0s3 mounted filesystem "/var"
A IO1 sd3 /var/run mounted filesystem "/var/run"
```

## 使用例 2 - ドメイン A に対する showdevices

```
sc0:sms-user:> showdevices -v -d A
CPU

domain location id state speed ecache usage
A C1 40 online 400 4
A C1 41 online 400 4
A C1 42 online 400 4
A C1 43 online 400 4
A C2 55 online 400 4
A C2 56 online 400 4
A C2 57 online 400 4
A C2 58 online 400 4

Memory drain in progress:

domain location board perm base domain target deleted remaining
 location mem MB mem MB address mem MB board mem MB mem MB
A C1 2048 723 0x600000 4096 C2 250 1500
A C2 2048 0 0x200000 4096

IO Devices

domain location device resource usage
A IO1 sd0
A IO1 sd1
A IO1 sd2
A IO1 sd3 /dev/dsk/c0t3d0s0 mounted filesystem "/"
A IO1 sd3 /dev/dsk/c0t3s0s1 dump device (swap)
A IO1 sd3 /dev/dsk/c0t3s0s1 swap area
A IO1 sd3 /dev/dsk/c0t3d0s3 mounted filesystem "/var"
A IO1 sd3 /var/run mounted filesystem "/var/run"
A IO1 sd4
A IO1 sd5
A IO1 sd6
```

### 使用例 3 - システムボード IO1 に対するオフライン照会の結果表示

```
sc0:SMS-user:> showdevices -p query IO1
Location IO1 - Domain A
=====
IO Devices

device resource query usage/reason
sd3 /dev/dsk/c0t3d0s0 fail mounted filesystem "/"
sd3 /dev/dsk/c0t3s0s1 fail dump device (swap)
sd3 /dev/dsk/c0t3s0s1 fail swap area
sd3 /dev/dsk/c0t3d0s3 fail mounted filesystem "/var"
sd3 /var/run - mounted filesystem "/var/run"
```

query フィールドは、資源を除去した結果の予測を表示します。マウントされたファイルシステム /var をオフラインにするのに失敗した場合は、照会がレイヤーマウントポイント /var/run に達することができなくなります。

#### 終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 1 無効なドメインが指定されました。
- 2 無効なオプションなどのコマンド行エラーが検出されました。
- 3 複数のドメインが指定されました。
- 4 pcd との通信中にエラーが発生しました。
- 5 ドメインとの通信中にエラーが発生しました。
- 6 デバイス情報の処理中にエラーが発生しました。
- 7 メモリー割り当ての失敗などの内部エラーが発生しました。

#### 属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

#### 関連項目

addtag(1M)、dca(1M)、pcd(1M)

## showenvironment(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | showenvironment - 環境データの表示                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 形式    | showenvironment [-d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> ] [-p<br>temps   volts   currents   fans   powers   faults...] [-v]<br><br>showenvironment -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 機能説明  | <p>showenvironment(1M) は、環境データ (温度、電圧など) を表示します。<i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> が指定されている場合、ユーザーがドメイン特権を持っている場合、そのドメインに関連している環境データが表示されます。ドメインが指定されていない場合は、そのユーザーに許可されるすべてのドメインデータが表示されます。</p> <hr/> <p><b>注 -</b> ドメイン構成ユニット (DCU) (たとえば、CPU、I/O) のみがドメインに属します。ファントレー、バルク電源またはその他のボード (<i>exb</i>、<i>csb</i>) などに関連する環境データを表示するには、プラットフォーム特権が必要です。また、温度、電圧、電流、バルク電源状態、障害、およびファントレー状態の個々のレポートを <i>-p</i> オプションを使用して指定することもできます。<i>-p</i> オプションがない場合は、すべてのレポートが表示されます。</p> <hr/> |
| オプション | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p><i>-h</i>                   ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p><b>注 -</b> 単一で使用します。<i>-h</i> に追加して指定されたオプションは無視されません。</p> <hr/> <p><i>-d domain_id</i>       ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p><i>-d domain_tag</i>      <i>addtag</i> (1M) を使用してドメインに割り当てられるドメイン名です。</p> <p><i>-p</i>                   特定のレポートを表示します。レポート引数が複数の場合は、コンマで区切ります。</p>                                                                         |



-p に対する有効な引数は次のとおりです。

temps — リスト出力は温度によってグループ化されます。

volts — リスト出力は電圧によってグループ化されます。

currents — リスト出力は電流によってグループ化され  
ます。

fans — リスト出力はファンによってグループ化されま  
す。

powers — リスト出力はバルク電源供給によってグルー  
プ化されます。

faults — リスト出力は最適なスレッシュホールド内に収ま  
らないすべてのコンポーネント読み取り値です。

---

注 - faults 引数はその他のレポート引数と一緒に使用されま  
せん。

---

-v 冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。

## 拡張機能説明

Display フィールド内の状態

Unit フィールドには、次の 3 つの値の中の 1 つが含まれます。

C = 摂氏

V = ボルト

A = アンペア

Status フィールドには、次の 16 の状態のいずれかの値が含まれます。

温度測定値：

OVER = 制限超過

HIGH\_CRIT = 危険・高

HIGH\_WARN = 警告・高

LOW\_CRIT = 危険・低

showenvironment(1M)

LOW\_WARN = 警告・低

OK = 最適

INVALID = 測定失敗

電圧測定値：

HIGH\_MAX = 最高

LOW\_MIN = 最低

OK = 許容範囲

INVALID = 測定失敗

電流測定値：

OK = 組み合わせコンポーネントの両方の測定値が互いの  
10% 以内である

BAD = 組み合わせコンポーネントの両方の測定値が互いの  
10% 以内でない

INVALID = 測定失敗

その他：

ON = 電源オン

OFF = 電源オフ

PRESENCE = スロット 1 にホットプラグカードがある

FAIL = 障害状態

HIGH = 高速に設定

NORMAL = 標準速度に設定

INVALID = 測定失敗

AGE = 測定時間

## 必要なグループ特権

ドメイン管理者特権または構成者特権を持つドメイン情報のみが表示されます。それ以外の場合は、プラットフォームの管理者、オペレータ、または保守特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第2章を参照してください。

## 使用例

## 使用例 1 – すべてのドメイン用の showenvironment 表示例

```
sc0:sms-user:> showenvironment
```

| LOCATION        | DEVICE  | SENSOR       | VALUE  | UNIT | AGE      | STATUS |
|-----------------|---------|--------------|--------|------|----------|--------|
| SC at SC0       | max1617 | RIO Temp     | 31.00  | C    | 23.4 sec | OK     |
| SC at SC0       | max1617 | PCIB Temp    | 26.00  | C    | 23.4 sec | OK     |
| SC at SC0       | pcf8591 | PS0 Temp     | 40.03  | C    | 23.4 sec | OK     |
| SC at SC0       | pcf8591 | PS1 Temp     | 31.97  | C    | 23.4 sec | OK     |
| SC at SC0       | sbbc    | SBBC Temp    | 40.50  | C    | 23.4 sec | OK     |
| SC at SC0       | cbh     | CBH Temp     | 45.16  | C    | 23.4 sec | OK     |
| SCPER at SCPER0 | max1617 | AMB 0 Temp   | 22.00  | C    | 24.1 sec | OK     |
| SCPER at SCPER0 | max1617 | AMB 1 Temp   | 22.00  | C    | 24.1 sec | OK     |
| SCPER at SCPER0 | max1617 | AMB 2 Temp   | 22.00  | C    | 24.1 sec | OK     |
| SC at SC0       | pcf8591 | 1.5 VDC      | 1.46   | V    | 24.7 sec | OK     |
| SC at SC0       | pcf8591 | 3.3 VDC      | 3.26   | V    | 24.7 sec | OK     |
| SC at SC0       | pcf8591 | 3.3 VDC HK   | 3.28   | V    | 24.7 sec | OK     |
| SC at SC0       | pcf8591 | 5.0 VDC      | 5.01   | V    | 24.7 sec | OK     |
| SC at SC0       | pcf8591 | +12.0 VDC    | 11.95  | V    | 24.7 sec | OK     |
| SC at SC0       | pcf8591 | -12.0 VDC    | -12.01 | V    | 24.7 sec | OK     |
| SC at SC0       | pcf8591 | 1.5 CVT0 VDC | 1.59   | V    | 24.7 sec | OK     |
| SC at SC0       | pcf8591 | 1.5 CVT1 VDC | 1.60   | V    | 24.7 sec | OK     |
| SCPER at SCPER0 | pcf8591 | 3.3 VDC HK   | 3.26   | V    | 25.0 sec | OK     |
| SCPER at SCPER0 | pcf8591 | 5.0 VDC      | 5.04   | V    | 25.0 sec | OK     |
| SCPER at SCPER0 | pcf8591 | +12.0 VDC    | 12.55  | V    | 25.0 sec | OK     |
| SC at SC1       | max1617 | RIO Temp     | 36.00  | C    | 21.8 sec | OK     |
| SC at SC1       | max1617 | PCSB Temp    | 28.00  | C    | 21.8 sec | OK     |
| SC at SC1       | pcf8591 | PS0 Temp     | 33.58  | C    | 21.8 sec | OK     |
| SC at SC1       | pcf8591 | PS1 Temp     | 31.97  | C    | 21.8 sec | OK     |
| SC at SC1       | sbbc    | SBBC Temp    | 41.83  | C    | 21.8 sec | OK     |
| SC at SC1       | cbh     | CBH Temp     | 46.50  | C    | 21.8 sec | OK     |
| SC at SC1       | pcf8591 | 1.5 VDC      | 1.48   | V    | 57.8 sec | OK     |
| SC at SC1       | pcf8591 | 3.3 VDC      | 3.28   | V    | 57.8 sec | OK     |
| SC at SC1       | pcf8591 | 3.3 VDC HK   | 3.26   | V    | 57.8 sec | OK     |
| SC at SC1       | pcf8591 | 5.0 VDC      | 5.01   | V    | 57.8 sec | OK     |
| SC at SC1       | pcf8591 | +12.0 VDC    | 11.88  | V    | 57.8 sec | OK     |
| SC at SC1       | pcf8591 | -12.0 VDC    | -11.82 | V    | 57.8 sec | OK     |
| SC at SC1       | pcf8591 | 1.5 CVT0 VDC | 1.72   | V    | 57.8 sec | BAD    |
| SC at SC1       | pcf8591 | 1.5 CVT1 VDC | 1.53   | V    | 57.8 sec | BAD    |
| SC at SC1       | pcf8591 | 3.3 V_PS0    | 7.76   | A    | 57.8 sec | BAD    |
| SC at SC1       | pcf8591 | 3.3 V_PS1    | 6.59   | A    | 57.8 sec | BAD    |
| SC at SC1       | pcf8591 | 5.0 V_PS0    | 5.12   | A    | 57.8 sec | BAD    |
| SC at SC1       | pcf8591 | 5.0 V_PS1    | 3.90   | A    | 57.8 sec | BAD    |
| CSB at CS0      | max1617 | AMB Top Temp | 23.00  | C    | 21.4 sec | OK     |

showenvironment(1M)

|            |         |              |       |   |      |     |    |
|------------|---------|--------------|-------|---|------|-----|----|
| CSB at CS0 | max1617 | AMB Bot Temp | 20.00 | C | 21.4 | sec | OK |
| CSB at CS0 | sbbc    | SBBC Temp    | 31.83 | C | 21.4 | sec | OK |
| CSB at CS0 | pcf8591 | 1.5 VDC      | 1.51  | V | 57.5 | sec | OK |
| CSB at CS0 | pcf8591 | 3.3 VDC      | 3.28  | V | 57.5 | sec | OK |
| CSB at CS0 | pcf8591 | 2.5 VDC      | 2.52  | V | 57.5 | sec | OK |
| CSB at CS0 | pcf8591 | 3.3 VDC HK   | 3.26  | V | 57.5 | sec | OK |
| CSB at CS1 | max1617 | AMB Top Temp | 25.00 | C | 21.0 | sec | OK |
| CSB at CS1 | max1617 | AMB Bot Temp | 23.00 | C | 21.0 | sec | OK |
| CSB at CS1 | sbbc    | SBBC Temp    | 33.83 | C | 21.0 | sec | OK |
| CSB at CS1 | pcf8591 | 1.5 VDC      | 1.50  | V | 57.3 | sec | OK |
| CSB at CS1 | pcf8591 | 3.3 VDC      | 3.28  | V | 57.3 | sec | OK |
| CSB at CS1 | pcf8591 | 2.5 VDC      | 2.50  | V | 57.3 | sec | OK |
| CSB at CS1 | pcf8591 | 3.3 VDC HK   | 3.26  | V | 57.3 | sec | OK |
| CP at CP0  | dmx0    | DMX0 Temp    | 19.62 | C | 21.7 | sec | OK |
| CP at CP0  | dmx1    | DMX1 Temp    | 20.54 | C | 21.7 | sec | OK |
| CP at CP0  | dmx3    | DMX3 Temp    | 16.44 | C | 21.7 | sec | OK |
| CP at CP0  | dmx5    | DMX5 Temp    | 22.39 | C | 21.7 | sec | OK |
| CP at CP0  | amx0    | AMX0 Temp    | 25.22 | C | 21.7 | sec | OK |
| CP at CP0  | amx1    | AMX1 Temp    | 27.14 | C | 21.7 | sec | OK |
| CP at CP0  | rmx     | RMX Temp     | 20.54 | C | 21.7 | sec | OK |
| CP at CP0  | darb    | DARB Temp    | 25.70 | C | 21.7 | sec | OK |
| CP at CP1  | dmx0    | DMX0 Temp    | 17.41 | C | 21.3 | sec | OK |
| CP at CP1  | dmx1    | DMX1 Temp    | 33.03 | C | 21.3 | sec | OK |
| CP at CP1  | dmx3    | DMX3 Temp    | 25.10 | C | 21.3 | sec | OK |
| CP at CP1  | dmx5    | DMX5 Temp    | 18.74 | C | 21.3 | sec | OK |
| CP at CP1  | amx0    | AMX0 Temp    | 25.98 | C | 21.3 | sec | OK |
| CP at CP1  | amx1    | AMX1 Temp    | 18.71 | C | 21.3 | sec | OK |
| CP at CP1  | rmx     | RMX Temp     | 21.00 | C | 21.3 | sec | OK |
| CP at CP1  | darb    | DARB Temp    | 31.18 | C | 21.3 | sec | OK |
| EXB at EX2 | max1617 | AMB Top Temp | 26.00 | C | 59.3 | sec | OK |
| EXB at EX2 | max1617 | AMB Bot Temp | 25.00 | C | 59.3 | sec | OK |
| EXB at EX2 | sbbc    | SBBC Temp    | 33.83 | C | 59.3 | sec | OK |
| EXB at EX2 | axq     | AXQ Temp     | 23.75 | C | 59.3 | sec | OK |
| EXB at EX2 | sdim    | SDIM Temp    | 20.46 | C | 59.3 | sec | OK |
| EXB at EX2 | sdise   | SDISE Temp   | 21.85 | C | 59.3 | sec | OK |
| EXB at EX2 | sdisc   | SDISC Temp   | 26.04 | C | 59.3 | sec | OK |
| EXB at EX2 | pcf8591 | 1.5 VDC      | 1.51  | V | 56.6 | sec | OK |
| EXB at EX2 | pcf8591 | 3.3 VDC      | 3.26  | V | 56.6 | sec | OK |
| EXB at EX2 | pcf8591 | 2.5 VDC      | 2.47  | V | 56.6 | sec | OK |
| EXB at EX2 | pcf8591 | 3.3 VDC HK   | 3.24  | V | 56.6 | sec | OK |
| CPU at SB2 | max1617 | PROC 0 Temp  | 42.00 | C | 9.6  | sec | OK |
| CPU at SB2 | max1617 | PROC 1 Temp  | 0.00  | C | 9.6  | sec | OK |
| CPU at SB2 | max1617 | PROC 2 Temp  | 0.00  | C | 9.6  | sec | OK |
| CPU at SB2 | max1617 | PROC 3 Temp  | 0.00  | C | 9.6  | sec | OK |
| CPU at SB2 | sdc     | SDC Temp     | 57.83 | C | 9.6  | sec | OK |
| CPU at SB2 | ar      | AR Temp      | 49.16 | C | 9.6  | sec | OK |
| CPU at SB2 | dx0     | DX0 Temp     | 50.49 | C | 9.6  | sec | OK |
| CPU at SB2 | dx1     | DX1 Temp     | 48.49 | C | 9.6  | sec | OK |
| CPU at SB2 | dx2     | DX2 Temp     | 46.50 | C | 9.6  | sec | OK |
| CPU at SB2 | dx3     | DX3 Temp     | 43.83 | C | 9.6  | sec | OK |
| CPU at SB2 | sbbc 0  | SBBC 0 Temp  | 45.16 | C | 9.6  | sec | OK |
| CPU at SB2 | sbbc 1  | SBBC 1 Temp  | 47.16 | C | 9.6  | sec | OK |
| CPU at SB2 | pcf8591 | 1.5 VDC      | 1.51  | V | 57.2 | sec | OK |
| CPU at SB2 | pcf8591 | 3.3 VDC      | 3.33  | V | 57.2 | sec | OK |

showenvironment(1M)

|             |          |                 |        |     |      |     |          |
|-------------|----------|-----------------|--------|-----|------|-----|----------|
| CPU at SB2  | pcf8591  | Core 0 Volt     | 1.73   | V   | 57.2 | sec | OK       |
| CPU at SB2  | pcf8591  | Core 1 Volt     | 1.14   | V   | 57.2 | sec | HIGH_MAX |
| CPU at SB2  | pcf8591  | Core 2 Volt     | 1.12   | V   | 57.2 | sec | HIGH_MAX |
| CPU at SB2  | pcf8591  | Core 3 Volt     | 1.13   | V   | 57.2 | sec | LOW_MIN  |
| HPCI at IO1 | pcf8591  | PS0 Temp        | 48.10  | C   | 48.7 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | pcf8591  | PS1 Temp        | 31.97  | C   | 48.7 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | sdc      | SDC0 Temp       | 67.82  | C   | 48.7 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | ar       | AR0 Temp        | 61.82  | C   | 48.7 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | dx0      | DX0 Temp        | 57.16  | C   | 48.7 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | dx1      | DX1 Temp        | 47.83  | C   | 48.7 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | sbbc     | SBBC Temp       | 37.16  | C   | 48.7 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | max1617a | IOA 0 Temp      | 52.00  | C   | 48.7 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | max1617a | IOA 1 Temp      | 43.00  | C   | 48.7 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | pcf8591  | 1.5 VDC         | 1.52   | V   | 23.3 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | pcf8591  | 3.3 VDC         | 3.28   | V   | 23.3 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | pcf8591  | 5.0 VDC         | 5.01   | V   | 23.3 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | pcf8591  | +12.0 VDC       | 12.03  | V   | 23.3 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | pcf8591  | -12.0 VDC       | -12.01 | V   | 23.3 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | pcf8591  | 3.3 VDC HK      | 3.28   | V   | 23.3 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | pcf8591  | 1.5 CVT0 VDC    | 1.88   | V   | 23.3 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | pcf8591  | 1.5 CVT1 VDC    | 1.74   | V   | 23.3 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | pcf8591  | 3.3 V_PS0       | 10.25  | A   | 23.3 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | pcf8591  | 3.3 V_PS1       | 10.40  | A   | 23.3 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | pcf8591  | 5.0 V_PS0       | 4.02   | A   | 23.3 | sec | OK       |
| HPCI at IO1 | pcf8591  | 5.0 V_PS1       | 4.15   | A   | 23.3 | sec | OK       |
| Schizo0.0   | max1617a | Schizo 0 Slot 0 | N/A    | N/A | N/A  |     | PRESENCE |
| Schizo0.1   | max1617a | Schizo 0 Slot 1 | N/A    | N/A | N/A  |     | PRESENCE |
| EXB at EX4  | max1617  | AMB Top Temp    | 28.00  | C   | 28.8 | sec | OK       |
| EXB at EX4  | max1617  | AMB Bot Temp    | 25.00  | C   | 28.8 | sec | OK       |
| EXB at EX4  | sbbc     | SBBC Temp       | 37.16  | C   | 28.8 | sec | OK       |
| EXB at EX4  | axq      | AXQ Temp        | 27.16  | C   | 28.8 | sec | OK       |
| EXB at EX4  | sdim     | SDIM Temp       | 21.37  | C   | 28.8 | sec | OK       |
| EXB at EX4  | sdise    | SDISE Temp      | 19.54  | C   | 28.8 | sec | OK       |
| EXB at EX4  | sdisc    | SDISC Temp      | 27.08  | C   | 28.8 | sec | OK       |
| EXB at EX4  | pcf8591  | 1.5 VDC         | 1.51   | V   | 56.0 | sec | OK       |
| EXB at EX4  | pcf8591  | 3.3 VDC         | 3.26   | V   | 56.0 | sec | OK       |
| EXB at EX4  | pcf8591  | 2.5 VDC         | 2.47   | V   | 56.0 | sec | OK       |
| EXB at EX4  | pcf8591  | 3.3 VDC HK      | 3.28   | V   | 56.0 | sec | OK       |
| CPU at SB4  | max1617  | PROC 0 Temp     | 0.00   | C   | 9.5  | sec | OK       |
| CPU at SB4  | max1617  | PROC 1 Temp     | 0.00   | C   | 9.5  | sec | OK       |
| CPU at SB4  | max1617  | PROC 2 Temp     | 0.00   | C   | 9.5  | sec | OK       |
| CPU at SB4  | max1617  | PROC 3 Temp     | 0.00   | C   | 9.5  | sec | OK       |
| CPU at SB4  | sdc      | SDC Temp        | 56.49  | C   | 9.5  | sec | OK       |
| CPU at SB4  | ar       | AR Temp         | 49.16  | C   | 9.5  | sec | OK       |
| CPU at SB4  | dx0      | DX0 Temp        | 51.83  | C   | 9.5  | sec | OK       |
| CPU at SB4  | dx1      | DX1 Temp        | 51.83  | C   | 9.5  | sec | OK       |
| CPU at SB4  | dx2      | DX2 Temp        | 48.49  | C   | 9.5  | sec | OK       |
| CPU at SB4  | dx3      | DX3 Temp        | 43.83  | C   | 9.5  | sec | OK       |
| CPU at SB4  | sbbc 0   | SBBC 0 Temp     | 45.16  | C   | 9.5  | sec | OK       |
| CPU at SB4  | sbbc 1   | SBBC 1 Temp     | 44.50  | C   | 9.5  | sec | OK       |
| CPU at SB4  | pcf8591  | 1.5 VDC         | 1.52   | V   | 56.6 | sec | OK       |
| CPU at SB4  | pcf8591  | 3.3 VDC         | 3.26   | V   | 56.6 | sec | OK       |
| CPU at SB4  | pcf8591  | Core 0 Volt     | -1.00  | V   | 56.6 | sec | HIGH_MAX |
| CPU at SB4  | pcf8591  | Core 1 Volt     | 1.12   | V   | 56.6 | sec | HIGH_MAX |

showenvironment(1M)

|             |          |                 |       |     |      |     |          |
|-------------|----------|-----------------|-------|-----|------|-----|----------|
| CPU at SB4  | pcf8591  | Core 2 Volt     | 1.70  | V   | 56.6 | sec | OK       |
| CPU at SB4  | pcf8591  | Core 3 Volt     | 1.13  | V   | 56.6 | sec | HIGH_MAX |
| Schizo0.1   | max1617a | Schizo 0 Slot 1 | N/A   | N/A | N/A  |     | PRESENCE |
| Schizo1.0   | max1617a | Schizo 1 Slot 0 | N/A   | N/A | N/A  |     | PRESENCE |
| EXB at EX6  | max1617  | AMB Top Temp    | 28.00 | C   | 54.7 | sec | OK       |
| EXB at EX6  | max1617  | AMB Bot Temp    | 28.00 | C   | 54.7 | sec | OK       |
| EXB at EX6  | sbbc     | SBBC Temp       | 35.16 | C   | 54.7 | sec | OK       |
| EXB at EX6  | axq      | AXQ Temp        | 22.36 | C   | 54.7 | sec | OK       |
| EXB at EX6  | sdim     | SDIM Temp       | 17.23 | C   | 54.7 | sec | OK       |
| EXB at EX6  | sdise    | SDISE Temp      | 28.03 | C   | 54.7 | sec | OK       |
| EXB at EX6  | sdisc    | SDISC Temp      | -1.00 | C   | N/A  |     | INVALID  |
| EXB at EX6  | pcf8591  | 1.5 VDC         | 1.50  | V   | 55.4 | sec | OK       |
| EXB at EX6  | pcf8591  | 3.3 VDC         | 3.26  | V   | 55.4 | sec | OK       |
| EXB at EX6  | pcf8591  | 2.5 VDC         | 2.47  | V   | 55.4 | sec | OK       |
| EXB at EX6  | pcf8591  | 3.3 VDC HK      | 3.28  | V   | 55.4 | sec | OK       |
| CPU at SB6  | max1617  | PROC 0 Temp     | 43.00 | C   | 5.1  | sec | OK       |
| CPU at SB6  | max1617  | PROC 1 Temp     | 0.00  | C   | 5.1  | sec | OK       |
| CPU at SB6  | max1617  | PROC 2 Temp     | 0.00  | C   | 5.1  | sec | OK       |
| CPU at SB6  | max1617  | PROC 3 Temp     | 0.00  | C   | 5.1  | sec | OK       |
| CPU at SB6  | sdc      | SDC Temp        | 62.49 | C   | 5.1  | sec | OK       |
| CPU at SB6  | ar       | AR Temp         | 55.16 | C   | 5.1  | sec | OK       |
| CPU at SB6  | dx0      | DX0 Temp        | 57.16 | C   | 5.1  | sec | OK       |
| CPU at SB6  | dx1      | DX1 Temp        | 55.16 | C   | 5.1  | sec | OK       |
| CPU at SB6  | dx2      | DX2 Temp        | 55.83 | C   | 5.1  | sec | OK       |
| CPU at SB6  | dx3      | DX3 Temp        | 53.83 | C   | 5.1  | sec | OK       |
| CPU at SB6  | sbbc 0   | SBBC 0 Temp     | 51.83 | C   | 5.1  | sec | OK       |
| CPU at SB6  | sbbc 1   | SBBC 1 Temp     | 49.16 | C   | 5.1  | sec | OK       |
| CPU at SB6  | pcf8591  | 1.5 VDC         | 1.51  | V   | 56.0 | sec | OK       |
| CPU at SB6  | pcf8591  | 3.3 VDC         | 3.30  | V   | 56.0 | sec | OK       |
| CPU at SB6  | pcf8591  | Core 0 Volt     | 1.72  | V   | 56.0 | sec | OK       |
| CPU at SB6  | pcf8591  | Core 1 Volt     | 1.13  | V   | 56.0 | sec | HIGH_MAX |
| CPU at SB6  | pcf8591  | Core 2 Volt     | 1.14  | V   | 56.0 | sec | HIGH_MAX |
| CPU at SB6  | pcf8591  | Core 3 Volt     | 1.13  | V   | 56.0 | sec | LOW_MIN  |
| Schizo1.1   | max1617a | Schizo 1 Slot 1 | N/A   | N/A | N/A  |     | PRESENCE |
| EXB at EX12 | max1617  | AMB Top Temp    | 24.00 | C   | 27.1 | sec | OK       |
| EXB at EX12 | max1617  | AMB Bot Temp    | 24.00 | C   | 27.1 | sec | OK       |
| EXB at EX12 | sbbc     | SBBC Temp       | 35.16 | C   | 27.1 | sec | OK       |
| EXB at EX12 | axq      | AXQ Temp        | 27.01 | C   | 27.1 | sec | OK       |
| EXB at EX12 | sdim     | SDIM Temp       | 24.62 | C   | 27.1 | sec | OK       |
| EXB at EX12 | sdise    | SDISE Temp      | 24.59 | C   | 27.1 | sec | OK       |
| EXB at EX12 | sdisc    | SDISC Temp      | 27.48 | C   | 27.1 | sec | OK       |
| EXB at EX12 | pcf8591  | 1.5 VDC         | 1.51  | V   | 55.3 | sec | OK       |
| EXB at EX12 | pcf8591  | 3.3 VDC         | 3.28  | V   | 55.3 | sec | OK       |
| EXB at EX12 | pcf8591  | 2.5 VDC         | 2.47  | V   | 55.3 | sec | OK       |
| EXB at EX12 | pcf8591  | 3.3 VDC HK      | 3.26  | V   | 55.3 | sec | OK       |

| FANTRAY | POWER | SPEED | FAN0 | FAN1 | FAN2 | FAN3 | FAN4 | FAN5 | FAN6 |
|---------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| FT0     | ON    | HIGH  | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   |
| FT1     | ON    | HIGH  | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   |
| FT2     | ON    | HIGH  | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   |
| FT3     | ON    | HIGH  | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   |
| FT4     | ON    | HIGH  | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   |
| FT6     | ON    | HIGH  | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   | OK   |

showenvironment(1M)

```

FT7 ON HIGH OK OK OK OK OK OK OK
POWER UNIT AC0 AC1 DC0 DC1 FAN0 FAN1 -----
PS0 FAIL FAIL FAIL ON ON OK OK
PS1 FAIL OK OK ON ON OK OK
PS2 OK OK OK ON ON OK OK
PS4 OK OK OK ON ON OK OK
PS5 OK OK OK ON ON OK OK

```

```

POWER VALUE UNIT STATUS

PS0
Current0 0.39 A N/A
Current1 0.39 A N/A
48VDC 0.39 V N/A
3.3VDC_HK 3.35 V OK
PS1
Current0 8.36 A N/A
Current1 5.97 A N/A
48VDC 48.60 V N/A
3.3VDC_HK 3.33 V OK
PS2
Current0 8.36 A N/A
Current1 6.77 A N/A
48VDC 48.80 V N/A
3.3VDC_HK 3.33 V OK
PS4
Current0 7.57 A N/A
Current1 7.17 A N/A
48VDC 50.00 V N/A
3.3VDC_HK 3.43 V OK
PS5
Current0 6.77 A N/A
Current1 7.17 A N/A
48VDC 49.40 V N/A
3.3VDC_HK 3.35 V OK

```

#

使用例 2 ードメイン A の温度レポート

この例では、ドメイン A の IO6 および IO2 に MCPU が含まれていると想定しています。

```
sc0:sms-user:> showenvironment -p temps -d a
```

```

LOCATION DEVICE SENSOR VALUE UNIT AGE STATUS

MCPU at IO6 max1617 PROC 1 Temp 35.00 C 8.0 sec OK
...

```

## showenvironment(1M)

```
MCPU at IO2 dx0 DX0 Temp 36.50 C 8.0 sec OK
... ...
```

### 終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 1 無効なドメインが使用されました。
- 2 無効なコマンド行オプションが使用されました。
- 3 アクセス権が無効です。
- 4 内部エラーが発生しました。

### 属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

### 関連項目

addtag(1M)



|        |                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前     | showfailover – システムコントローラ (SC) のフェイルオーバー状態の管理または表示                                                                                                                                                                                                            |
| 形式     | showfailover [-r] [-v]<br>showfailover [-h]                                                                                                                                                                                                                   |
| 機能説明   | <p>showfailover(1M) は、SC フェイルオーバーメカニズムの状態を監視する機能を提供します。このコマンドでは、フェイルオーバーメカニズムの現在の状態を表示します。-r オプションを指定していない場合は、次の情報が表示されます。</p> <p>SC Failover: &lt;state&gt;</p> <p>フェイルオーバーメカニズムは、次の 3 つの状態 (ACTIVE、DISABLED、FAILED) のいずれかになります。後述の「拡張機能説明」を参照してください。</p>    |
| オプション  | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-h      ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p><b>注 -</b>    単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されません。</p> <hr/> <p>-r      SC の役割を MAIN、SPARE または UNKNOWN のいずれかで表示します。</p> <p>-v      冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。</p>                            |
| 拡張機能説明 | <p>フェイルオーバーメカニズム状態は次のとおりです。</p> <p>ACTIVE      フェイルオーバーメカニズムが使用可能で正常に機能していることを識別します。</p> <p>DISABLED    フェイルオーバーメカニズムがフェイルオーバーの発生またはオペレータの要求によって (たとえば、setfailover off) 使用不可になっていることを識別します。</p> <p>FAILED      フェイルオーバーメカニズムがフェイルオーバーを妨げる障害を検出したことを識別します。</p> |

また、`showfailover` ではフェイルオーバープロセスで監視されたネットワークインタフェースリンクのそれぞれの状態を表示します。表示形式は次のとおりです。

*network if device name: [GOOD|FAILED]*

障害の状態を記述した障害文字列が返されます。各障害文字列には、それぞれに関連付けられているコードがあります。次のコードと関連障害文字列が定義されています。

| 文字列                       | 説明                                            |
|---------------------------|-----------------------------------------------|
| None                      | 障害はありません。                                     |
| M-SC/S-SC EXT NET         | メインおよびスペア SC の外部ネットワークインタフェースに障害が発生しました。      |
| S-SC CONSOLE BUS          | スペア SC のコンソールバスパスに障害が検出されました。                 |
| S-SC LOC CLK              | スペア SC のローカルクロックに障害が発生しました。                   |
| S-SC CLK NOT PHASE LOCKED | スペア SC のクロックがメイン SC とフェーズロックされていません。          |
| S-SC DISK FULL            | スペア SC のシステムがいっぱいです。                          |
| S-SC IS DOWN              | スペア SC が停止していて応答しません。                         |
| S-SC MEM EXHAUSTED        | スペア SC のメモリー/スワップスペースが使い果たされました。              |
| S-SC SMS DAEMON           | スペア SC 上で少なくとも 1 つの SMS デーモンが開始または再開できませんでした。 |
| No CSBS Powered on        | 少なくとも 1 つの CSB の電源がオンになっている必要があります。           |

## 必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権、プラットフォームオペレータ特権またはプラットフォーム保守特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第2章を参照してください。

## 使用例

**使用例 1** – フェイルオーバー状態がすべてOKの場合の表示

```
sc0:sms-user:> showfailover
SC Failover:ACTIVE
hme0: GOOD
hme1: GOOD
hme2: GOOD
```

**使用例 2** – スペア SC システムがフル

```
sc0:sms-user:> showfailover
SC Failover:FAILED
S-SC DISK FULL
hme0:GOOD
hme1: GOOD
hme2: GOOD
```

**使用例 3** – SC 役割の表示

```
sc0:sms-user:> showfailover -r
SC: SPARE
```

## 終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

## 属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

## 関連項目

setfailover(1M)

## showkeyswitch(1M)

|           |                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前        | showkeyswitch - 仮想キースイッチ位置の表示                                                                                                                                                                                                                               |
| 形式        | showkeyswitch -d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> [-v ]<br><br>showkeyswitch -h                                                                                                                                                                         |
| 機能説明      | showkeyswitch(1M) は、指定したドメインの仮想キースイッチの位置を表示します。各仮想キースイッチの状態はシステムコントローラ (SC) の電源の再投入の間または pcd(1M) による電源供給の物理的電源再投入によって維持されます。                                                                                                                                |
| オプション     | <p>-d <i>domain_id</i>   ドメインの ID です。有効な<i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p>-d <i>domain_tag</i>   addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。</p> <p>-h               ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p>注 -   単一で使用します。-h と組み合わせて指定されたオプションは無視されます。</p> <hr/> |
| 拡張機能説明    |                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 必要なグループ特権 | このコマンドを実行するには、指定されたドメインに対するプラットフォーム管理者、プラットフォームオペレータ、プラットフォーム保守、ドメイン管理者、またはドメイン設定者の特権が必要です。                                                                                                                                                                 |
|           | 詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。                                                                                                                                                                                     |
| 使用例       | <p>使用例 1 - ドメイン A のキースイッチ状態</p> <pre>sc0:sms-user:&gt; showkeyswitch -d A Virtual keyswitch position:ON</pre>                                                                                                                                               |

## 終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

## 属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

## 関連項目

addtag(1M)、setkeyswitch(1M)、pcd(1M)

## showlogs(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | showlogs - メッセージログファイルの表示                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 形式    | showlogs [-F] [-f <i>filename</i> ] [-d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> ] [-p m c s] [-v ]<br>showlogs -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 機能説明  | showlogs(1M) は、プラットフォームまたはドメインログファイルを表示します。デフォルトではプラットフォームメッセージログを表示します。デフォルトを実行するにはプラットフォームグループ特権を持っている必要があります。それ以外の場合はエラーメッセージが表示されます。持っている特権によって、プラットフォームまたは指定したドメインのメッセージログ、console ログ、または syslog を表示することができます。                                                                                                                                                                                                                                              |
| オプション | <p>-F showlogs コマンドが実行された後にログファイルに追加された行のみを出力します。「tail -f」コマンドに似ています。出力は Control -C で介入されるまで続きます。</p> <p>-d <i>domain_id</i> <i>domain_tag</i> プラットフォームログの代わりに指定したドメインのメッセージログファイルを出力します。このオプションを使用するには、ドメイン特権が必要です。</p> <p>-f <i>filename</i> showlogs コマンドの出力を指定したファイルに配置します。</p> <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されません。</p> <hr/> <p>-p m c s プラットフォームメッセージ (m) ログまたはドメインコンソール (c) ログまたはドメイン syslog (s) のいずれかを指定します。</p> |

**m** — プラットフォームメッセージログを表示するにはプラットフォームグループ特権が必要です。これは showlogs のデフォルトです。

**c** — ドメインコンソールログを表示するには **-d** オプションおよびドメインに対するドメイン特権が必要です。

**s** — ドメインシスログを表示するにはドメインに対するドメイン特権が必要です。システムコントローラ (SC) からドメイン以外のシステムに転送された syslog は、`/var/opt/SUNWSMS/adm/anonymous` に格納されます。

**-v** 冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。

## 拡張機能説明

### 必要なグループ特権

プラットフォームの管理者特権、オペレータ特権または保守特権を持っている場合は、プラットフォームメッセージログファイルを表示することができます。

ドメイン管理者/構成者特権を持っている場合は、特権を持っているドメインのログファイルのみを表示することができます。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

### 使用例

#### 使用例 1 — プラットフォームメッセージログの標準出力への出力

```
sc0:sms-user:> showlogs

Aug 24 14:30:53 2000 xc8-sc0 hwad[104609]:[0 5751139758216 ERR SCCSR.cc 1347] g
etCrt - Client:104621.14 has locked - 167
Aug 24 14:30:53 2000 xc8-sc0 hwad[104609]:[0 5751170721148 ERR SCCSR.cc 1362] g
etCrt - Client:104621.14 about to unlock - 167.....
```

#### 使用例 2 — ドメイン A メッセージログの標準出力への出力

```
sc0:sms-user:> showlogs -d A

Aug 15 14:28:05 2000 xc8-sc0 dsmd[106850]-A():[0 8500962546702 INFO Observers.cc 125]
```

## showlogs(1M)

```
DOMAIN_UP A event has been sent to SYMON, rc = 0.
Aug 15 14:28:05 2000 xc8-sc0 dsmd[106850]-A():[0 8500963756755 INFO DomainMon.cc 183]
Start monitoring domain A every 5 second....
```

### 使用例 3 - ドメイン A メッセージログに新しく追加された行の標準出力への出力

```
sc0:sms-user:> showlogs -d A -F
```

```
Aug 25 14:28:05 2000 xc8-sc0 dsmd[106850]-A():[0 8500960648900 INFO Observers.c
c 193] DOMAIN_UP A event has been sent to DXS, rc = 0.....
```

### 使用例 4 - ドメイン A コンソールログの標準出力への出力

```
sc0:sms-user:> showlogs -d A -p c
```

```
** Domain Server Shutting Down - disconnecting
```

```
** Domain Server Shutting Down - disconnecting
```

```
Sun Fire 15K system, using IOSRAM based Console
OpenBoot 4.0, 2048 MB memory installed, Serial #10000000.
Ethernet address 8:0:20:b8:2d:b1, Host ID:80a3e446.
```

### 使用例 5 - ドメイン sms2 syslog の標準出力への出力

```
sc0:sms-user:> showlogs -d sms2 -p s
```

```
Sep 7 13:51:49 sms2 agent[6629]:[ID 240586 daemon.alert] syslog
 Sep 7 13:51:49 agent {received software termination signal}
Sep 7 13:51:49 sms2 agent[6629]:[ID 985882 daemon.alert] syslog
 Sep 7 13:51:49 agent *** terminating execution ***
Sep 7 13:51:50 sms2 platform[22481]:[ID 345917 daemon.alert] syslog
 Sep 7 13:51:50 platform *** terminating execution ***
Sep 7 14:49:07 sms2 platform[4309]:[ID 745356 daemon.alert] syslog
 Sep 7 14:49:07 platform general parsing error
Sep 7 14:49:07 sms2 platform[4309]:[ID 334248 daemon.alert] syslog
 Sep 7 14:49:07 platform file://localhost/scmonitor-d.x;flags=ro
Sep 7 14:49:07 sms2 platform[4309]:[ID 449452 daemon.alert] syslog
 Sep 7 14:49:07 platform couldn't load file
...
```

#### 終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

#### ファイル

次のファイルがサポート使用されます。

/var/opt/SUNWSMS/adm/platform/messages

プラットフォームメッセージファイル



/var/opt/SUNWSMS/adm/*domain\_id*/messages

ドメインメッセージファイル

/var/opt/SUNWSMS/adm/*domain\_id*/console

ドメインコンソールファイル

/var/opt/SUNWSMS/adm/*domain\_id*/syslog

ドメイン syslog ファイル

属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

tail(1)

## showobpparams(1M)

|           |                                                                                                                                                                                                               |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前        | showobpparams - ドメインの OpenBoot PROM 起動パラメタの表示                                                                                                                                                                 |
| 形式        | showobpparams -d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> [-v ]<br><br>showobpparams -h                                                                                                                           |
| 機能説明      | showobpparams(1M) を使用すると、ドメイン管理者は、setkeyswitch(1M) によって OpenBoot PROM に渡される仮想 NVRAM および REBOOT パラメタを表示することができます。-d オプションと <i>domain_id</i> または <i>domain_tag</i> が必要です。                                       |
| オプション     | 次のオプションがサポートされています。<br><br>-d <i>domain_id</i> ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。<br><br>-d <i>domain_tag</i> addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。<br><br>-h               ヘルプ。使用方法を表示します。 |
|           | <hr/> <b>注 -</b> 単一で使用します。-h と組み合わせて指定されたオプションは無視されます。 <hr/>                                                                                                                                                  |
|           | -v               すべての利用可能コマンド情報を表示します。                                                                                                                                                                        |
| 拡張機能説明    |                                                                                                                                                                                                               |
| 必要なグループ特権 | このコマンドを実行するには、指定したドメインに対するドメイン管理者または設計者の特権が必要です。<br><br>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。                                                                               |
| 使用例       | <b>使用例 1</b> - ドメイン A の OpenBoot PROM パラメタの表示<br><br>sc0:sms-user:>showobpparams -d a<br>auto-boot?=false<br>diag-switch?=true<br>fcode-debug?=false<br>use-nvramrc?=false<br>security-mode=none              |

## 終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

## 属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

## 関連項目

addtag(1M)、setkeyswitch(1M)、setobpparams(1M)

## showplatform(1M)

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前     | showplatform – 各ドメインのボード使用可能構成要素リストおよびドメイン状態の表示                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 形式     | showplatform [-d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> ] [-p <i>domains</i>   <i>available</i> ]<br>[-v ]<br><br>showplatform -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 機能説明   | ドメインのボード使用可能構成要素リストおよびドメイン状態を表示します。<br><i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> が指定されている場合は、そのドメインに対する情報のみが表示されます。ドメインおよび -p が指定されていない場合は、特権をもつすべてのドメインの使用可能構成要素リストおよびドメイン状態が表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| オプション  | <p>-d <i>domain_id</i>   ドメインの ID です。有効な <i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p>-d <i>domain_tag</i>   addtag (1M) を使用してドメインに割り当てられるドメイン名です。</p> <p>-h               ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p>注 -   単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されます。</p> <hr/> <p>-p               特定のレポートを表示します。<br/>                  -p に対する有効な引数は次のとおりです。<br/><br/>                  <b>domains</b> — リスト出力はドメインの状態によってグループ化されます。<br/><br/>                  <b>available</b> — リスト出力はドメインの使用可能構成要素リストによってグループ化されます。</p> <p>-v               冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。</p> |
| 拡張機能説明 | ドメインの状態は次のいずれかになります。<br><br>■ Unknown — ドメイン状態が判別できません。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

- Powered Off — ドメインの電源がオフになっています。
- Keyswitch Standby — ドメインのキースイッチが STANDBY 位置になっています。
- Running Domain POST — ドメイン電源投入時自己診断が実行中です。
- Loading OBP — ドメインの OpenBoot PROM がロードされています。
- Booting OBP — ドメインの OpenBoot PROM が起動中です。
- Running OBP — ドメインの OpenBoot PROM が実行中です。
- In OBP Callback — ドメインが停止され OpenBoot PROM に戻されています。
- Loading Solaris — OpenBoot PROM が Solaris ソフトウェアをロードしています。
- Booting Solaris — ドメインが Solaris ソフトウェアを起動しています。
- Domain Exited OBP — ドメイン OpenBoot PROM が終了しました。
- OBP Failed — ドメイン OpenBoot PROM が失敗しました。
- OBP in sync Callback to OS — OpenBoot PROM が Solaris ソフトウェアに同期コールバックをしています。
- Exited OBP — OpenBoot PROM が終了しました。
- In OBP Error Reset — ドメインがエラー reset 状態のために OpenBoot PROM になっています。
- Solaris Halted, in OBP — Solaris ソフトウェアが停止し、ドメインが OpenBoot PROM になっています。
- OBP Debugging — OpenBoot PROM がデバッガとして使用されています。
- Running Solaris — Solaris ソフトウェアがドメイン上で実行中です。
- Solaris Quiesce In-progress — Solaris ソフトウェアが休止されています。
- Solaris Quiesced — Solaris ソフトウェアが休止しました。
- Solaris Resume In-progress — Solaris ソフトウェアを再開しています。
- Solaris Panic — Solaris ソフトウェアがパニックになっています。パニックフローが開始されました。
- Solaris Panic Debug — Solaris ソフトウェアがパニックになり、デバッガモードに入っています。
- Solaris Panic Continue — デバッガモードを終了しパニックフローが継続しています。
- Solaris Panic Dump — パニックダンプが開始されました。
- Solaris Halt — Solaris ソフトウェアが停止しています。
- Solaris Panic Exit — Solaris ソフトウェアがパニックにより終了しました。
- Environmental Emergency — 環境的な緊急事態が検出されました。

showplatform(1M)

必要なグループ特権

- Debugging Solaris — Solaris ソフトウェアをデバッグしています。ハング状態ではありません。
- Solaris Exited — Solaris ソフトウェアが終了しました。

プラットフォームの管理者特権、オペレータ特権または保守特権を持っている場合は、`showplatform` ではすべてのドメインの使用可能構成要素リストおよびボード状態情報を表示します。それ以外の場合は、ドメイン管理者特権またはドメイン構成者特権を持つドメインの情報のみが表示されます。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

使用例

**使用例 1** — すべてのドメインの使用可能構成要素リストおよびドメイン状態情報の表示

```
sc0:sms-user:> showplatform

Available Component List for Domains:
=====
Available for domain newA:
 SB0 SB1 SB2 SB7
 IO1 IO3 IO6

Available for domain engB:
 No System boards
 No IO boards

Available for domain domainC:
 No System boards
 IO0 IO1 IO2 IO3 IO4

Available for domain eng1:
 No System boards
 No IO boards

Available for domain E:
 No System boards
 No IO boards

Available for domain domainF:
 No System boards
 No IO boards

Available for domain dmnG:
 No System boards
 No IO boards
```

Available for domain H:  
No System boards  
No IO boards

Available for domain I:  
No System boards  
No IO boards

Available for domain dmnJ:  
No System boards  
No IO boards

Available for domain K:  
No System boards  
No IO boards

Available for domain L:  
No System boards  
No IO boards

Available for domain M:  
No System boards  
No IO boards

Available for domain N:  
No System boards  
No IO boards

Available for domain O:  
No System boards  
No IO boards

Available for domain P:  
No System boards  
No IO boards

Available for domain Q:  
No System boards  
No IO boards

Available for domain dmnR:  
No System boards  
No IO boards

Domain Configurations:

=====

| DomainID | Domain Tag | Solaris Nodename | Domain Status |
|----------|------------|------------------|---------------|
|----------|------------|------------------|---------------|

showplatform(1M)

|   |         |         |                   |
|---|---------|---------|-------------------|
| A | newA    | -       | Powered Off       |
| B | engB    | sun15-b | Keyswitch Standby |
| C | domainC | sun15-c | Running OBP       |
| D | -       | sun15-d | Running Solaris   |
| E | eng1    | sun15-e | Running Solaris   |
| F | domainF | sun15-f | Running Solaris   |
| G | dmnG    | sun15-g | Running Solaris   |
| H | -       | sun15-g | Solaris Quiesced  |
| I | -       | -       | Powered Off       |
| J | dmnJ    | -       | Powered Off       |
| K | -       | sun15-k | Booting Solaris   |
| L | -       | -       | Powered Off       |
| M | -       | -       | Powered Off       |
| N | -       | sun15-n | Keyswitch Standby |
| O | -       | -       | Powered Off       |
| P | -       | sun15-p | Running Solaris   |
| Q | -       | sun15-q | Running Solaris   |
| R | dmnR    | sun15-r | Running Solaris   |

**使用例 2** — ドメイン **engB** の使用可能構成要素リストおよびドメイン状態の表示

```
sc0:sms-user:> showplatform -d engB
```

```
Available Component List for Domains:
```

```
=====
```

```
Available for domain engB:
```

```
SB4 SB5 SB6
```

```
IO4 IO5
```

```
Domain Configurations:
```

```
=====
```

| DomainID | Domain Tag | Solaris Nodename | Domain Status     |
|----------|------------|------------------|-------------------|
| B        | engB       | sun15-b          | Keyswitch Standby |

**使用例 3** — ドメイン管理者用の showplatform

次の例ではドメイン管理者特権または構成者特権を持つすべてのドメイン、この場合はドメイン **engB**、**C**、**E**、**dmnJ** の使用可能構成要素リストおよび状態情報を表示します。

```
sc0:sms-user:> showplatform
```

```
Available Component List for Domains:
```

```
=====
```



```
Available for domain engB:
 SB1 SB2 SB3 SB4 SB5 SB6
 IO1 IO2 IO3 IO4 IO5 IO6 IO7
```

```
Available for domain C:
 SB1 SB2 SB3 SB4 SB5 SB6
 IO1 IO2 IO3 IO4 IO5 IO6 IO7
```

```
Available for domain E:
 SB1,SB2,SB3,SB4,SB5,SB6
 IO1,IO2,IO3,IO4,IO5,IO6,IO7
```

```
Available for domain dmnJ:
 SB1,SB2,SB3,SB4,SB5,SB6
 IO1,IO2,IO3,IO4,IO5,IO6,IO7
```

Domain Configurations:

=====

| DomainID | Domain Tag | Solaris Nodename | Domain Status     |
|----------|------------|------------------|-------------------|
| B        | engB       | sun15-b          | Keyswitch Standby |
| C        | domainC    | sun15-c          | Running OBP       |
| E        | eng1       | sun15-e          | Running Solaris   |
| J        | dmnJ       | -                | Powered Off       |

#### 使用例 4 – ドメイン engB の使用可能構成要素リストの表示

```
sc0:sms-user:> showplatform -d engB -p available
```

Available Component List for Domains:

=====

```
Available for domain engB:
 SB4 SB5 SB6
 IO4 IO5
```

#### 使用例 5 – ドメイン engB のドメイン状態の表示

```
sc0:sms-user:> showplatform -d engB -p domains
```

Domain Configurations:

=====

| DomainID | Domain Tag | Solaris Nodename | Domain Status     |
|----------|------------|------------------|-------------------|
| B        | engB       | sun15-b          | Keyswitch Standby |

## showplatform(1M)

### 終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常に終了しました。
- 1 無効なドメインが指定されました。
- 2 無効なコマンド行オプションが指定されました。
- 3 不正な数のドメインが指定されました。
- 4 ユーザーが有効な特権を持っていません。
- 5 プラットフォーム構成デーモン (pcd(1M)) との通信中にエラーが発生しました。
- 6 ハードウェアアクセスデーモン (hwad(1M)) との通信中にエラーが発生しました。
- 7 タスク管理デーモン (tmd(1M)) との通信中にエラーが発生しました。
- 8 内部エラーが発生しました。

### 属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

### 関連項目

addtag(1M)、hwad(1M)、pcd(1M)、setupplatform(1M)、tmd(1M)

|                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>名前</p> <p>形式</p>            | <p>showxirstate - プロセッサにリセットパルスを送信後、CPU ダンプ情報を表示</p> <p>showxirstate -d <i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i>   -f <i>filename</i> [-v ]</p> <p>showxirstate [-h ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>機能説明</p>                    | <p>showxirstate(1M) は、リセットパルスを送信後にCPU ダンプ情報を表示します。この保存状態ダンプは、異常なドメイン動作の原因を分析するために使用できます。showxirstate は、ドメイン内のすべてのアクティブプロセッサのリストを作成し、各プロセッサの保存状態情報を取得します。</p> <p><i>domain_id</i>   <i>domain_tag</i> または <i>filename</i> が指定されていない場合、showxirstate はエラーを返します。</p>                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>オプション</p>                   | <p>次のオプションがサポートされています。</p> <p>-d <i>domain_id</i>   ドメインの ID です。有効な<i>domain_id</i> は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。</p> <p>-d <i>domain_tag</i>   addtag(1M) を使用してドメインに割り当てられる名前。</p> <p>-f <i>filename</i>    以前に生成された <i>xir_dump</i> を含むファイルの名前。ファイルの絶対パスを指定する必要があります。デフォルトは <code>/var/opt/SUNWSMS/adm/<i>domain_id</i>/dump</code> で、変更することはできません。</p> <p>-h               ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p>注 -   単一で使用します。-h と組み合わせて指定されたオプションは無視されます。</p> <hr/> <p>-v               冗長。すべての利用可能コマンド情報を表示します。</p> |
| <p>拡張機能説明</p> <p>必要なグループ特権</p> | <p>このコマンドを実行するには、指定したドメインに対するドメイン管理者特権が必要です。<i>xir_dump</i> ファイルの読み取りには特別な特権は必要ありません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

showxirstate(1M)

使用例

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第2章を参照してください。

使用例 1 – 1つのCPUを持つドメインAのダンプ情報の表示

```
sc0:SMS-user:> showxirstate -dA
```

```
Location:SB4/P0
```

```
XIR Magic XIR Version 00415645 Buglevel 00000000
XIR Save Total Size 0x58495253 bytes
```

```
ver : 00000000.00000000
tba : 00000000.00000000
pil : 0x0
y : 00000000.00000000
afsr : 00000000.00000000 afar : 00000000.00000000
pcontext: 00000000.00000000 scontext: 00000000.00000000
dcu : 00000000.00000000
dcr : 00000000.00000000
pcr : 00000000.00000000
gsr : 00000000.00000000
softint : 0x0000
```

```
pa_watch: 00000000.00000000
va_watch: 00000000.00000000
instbp : 00000000.00000000
```

```
tick: 00000000.00000000 tick_cmpr: 00000000.00000000
stick: 00000000.00000000 stick_cmpr: 00000000.00000000
```

```
tl: 0
```

| tt   | tstate       | tpc               | tnpc              |
|------|--------------|-------------------|-------------------|
| 0x00 | 0x0000000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 0x00 | 0x0000000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 0x00 | 0x0000000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 0x00 | 0x0000000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 0x00 | 0x0000000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |

```
Globals: R
```

| Normal              | Alternate         | Interrupt         | MMU               |
|---------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 0 00000000.00000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 1 00000000.00000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 2 00000000.00000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 3 00000000.00000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |

showxirstate(1M)

```
000
4 00000000.00000000 00000000.00000000 00000000.00000000 00000000.00000
000
5 00000000.00000000 00000000.00000000 00000000.00000000 00000000.00000
000
6 00000000.00000000 00000000.00000000 00000000.00000000 00000000.00000
000
7 00000000.00000000 00000000.00000000 00000000.00000000 00000000.00000
000
```

```
wstate: 0x00
cansave: 0 cleanwin: 0
canrestore: 0 otherwin: 0
```

Register Windows:

Window 0

| R Locals            | Ins               |
|---------------------|-------------------|
| 0 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 1 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 2 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 3 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 4 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 5 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 6 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 7 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |

Window 1

| R Locals            | Ins               |
|---------------------|-------------------|
| 0 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 1 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 2 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 3 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 4 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 5 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 6 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 7 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |

Window 2

| R Locals            | Ins               |
|---------------------|-------------------|
| 0 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 1 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 2 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 3 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 4 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 5 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 6 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 7 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |

Window 3

| R Locals            | Ins               |
|---------------------|-------------------|
| 0 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 1 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |
| 2 00000000.00000000 | 00000000.00000000 |

showxirstate(1M)

```
3 00000000.00000000 00000000.00000000
4 00000000.00000000 00000000.00000000
5 00000000.00000000 00000000.00000000
6 00000000.00000000 00000000.00000000
7 00000000.00000000 00000000.00000000
```

Window 4

```
R Locals Ins
0 00000000.00000000 00000000.00000000
1 00000000.00000000 00000000.00000000
2 00000000.00000000 00000000.00000000
3 00000000.00000000 00000000.00000000
4 00000000.00000000 00000000.00000000
5 00000000.00000000 00000000.00000000
6 00000000.00000000 00000000.00000000
7 00000000.00000000 00000000.00000000
```

Window 5

```
R Locals Ins
0 00000000.00000000 00000000.00000000
1 00000000.00000000 00000000.00000000
2 00000000.00000000 00000000.00000000
3 00000000.00000000 00000000.00000000
4 00000000.00000000 00000000.00000000
5 00000000.00000000 00000000.00000000
6 00000000.00000000 00000000.00000000
7 00000000.00000000 00000000.00000000
```

Window 6

```
R Locals Ins
0 00000000.00000000 00000000.00000000
1 00000000.00000000 00000000.00000000
2 00000000.00000000 00000000.00000000
3 00000000.00000000 00000000.00000000
4 00000000.00000000 00000000.00000000
5 00000000.00000000 00000000.00000000
6 00000000.00000000 00000000.00000000
7 00000000.00000000 00000000.00000000
```

Window 7

```
R Locals Ins
0 00000000.00000000 00000000.00000000
1 00000000.00000000 00000000.00000000
2 00000000.00000000 00000000.00000000
3 00000000.00000000 00000000.00000000
4 00000000.00000000 00000000.00000000
5 00000000.00000000 00000000.00000000
6 00000000.00000000 00000000.00000000
7 00000000.00000000 00000000.00000000
```

nest\_save\_ptr: 00000000

showxirstate(1M)

```
XIR Nest Version 00000000 Buglevel 00000000
XIR Nest nest_count 0 save_block 88

tick: 00000000.00000000
stick: 00000000.00000000

tl:73
tt tstate tpc tnpc
0x00 0x0000000000 00000000.00000000 00000000.00000000
0x00 0x0000000000 00000000.00000000 00000000.00000000
0x00 0x0000000000 00000000.00000000 00000000.00000000
0x00 0x0000000000 00000000.00000000 00000000.00000000
0x00 0x0000000000 00000000.00000000 00000000.00000000
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

reset(1M)

## smsbackup(1M)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | smsbackup – SMS 環境のバックアップ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 形式    | smsbackup <i>directory_name</i><br><br>smsbackup -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 機能説明  | <p>smsbackup(1M) は、SMS の運用環境を維持するファイルの cpio(1) アーカイブを作成します。</p> <p>メイン SMS 環境が、たとえば、ドメインのシャットダウンなどで変更されたときには、smsbackup をもう一度実行してシステムコントローラ用の現在のバックアップファイルを維持する必要があります。</p> <p>バックアップファイルの名前は sms_backup.X.X.cpio です。X.X はバックアップが行われたアクティブなバージョンを示します。</p> <p>SMS バックアップファイルを smsrestore(1M) コマンドを使用して復元します。</p> <p>エラーが発生した場合、smsbackup は /var/sadm/system/logs が存在する場合には /var/sadm/system/logs/smsbackup に、存在しない場合には /var/tmp にエラーメッセージを書き込みます。</p> |
| オプション | <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p>注 - 単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されません。</p> <hr/>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| オペランド | <p>次のオペランドがサポートされています。</p> <p><i>directory_name</i> バックアップファイルが作成されるディレクトリの名前。このファイルは、ユーザーが読み取り、書き込み特権を持っているシステム、接続されているネットワークまたはテープデバイスのどのディレクトリにでも配置できます。</p> <p><i>directory_name</i> が指定されていない場合は、バックアップファイルは /var/tmp 内に作成されます。<i>directory_name</i> は、ファイルの絶対パス名を必要としません。</p>                                                                                                                                                                  |



指定された *directory\_name* は UFS ファイルシステムとしてマウントされる必要があります。TMPFS ファイルシステムを /tmp のように指定すると、`smsbackup` が失敗します。*directory\_name* が UFS ファイルシステムとしてマウントされているかどうか分からない場合は、`/usr/bin/df -F ufs directory_name` と入力します。UFS ファイルシステムからディレクトリ情報が返されます。その他のタイプのファイルシステムでは、警告が返されます。

### 拡張機能説明

#### 必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、スーパーユーザー特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

#### 使用例

使用例 1 — /var/opt/SUNWSMS/bkup への SMS のバックアップ

```
sc0:sms-user:> smsbackup /var/opt/SUNWSMS/bkup
```

使用例 2 — テープデバイス 0 への SMS のバックアップ

```
sc0:sms-user:> smsbackup /dev/rmt/0
```

使用例 3 — TMPFS システムへの SMS のバックアップ

```
sc0:sms-user:> smsbackup /tmp
ERROR:smsbackup fails to backup to /tmp, a TMPFS
file system.Please specify a directory that is
mounted on a UFS filesystem.
ABORT:
```

#### 終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

#### 属性

次の属性の説明については、`attributes(5)` を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

## smsbackup(1M)

### ファイル

このコマンドでは次のファイルが使用されます。

/var/sadm/system/logs/smsbackup smsbackup ログファイル

### 関連項目

smsrestore(1M)

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前   | smsconfig – SMS 環境の構成                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 形式   | <pre>smsconfig -m smsconfig -m I1 [ domain_id   sc ] smsconfig -m I2 [ sc0   sc1 ] smsconfig -m L [ sc ] smsconfig -g smsconfig -a -u username -G admn oper svc platform smsconfig -r -u username -G admn rcfg domain_id smsconfig -l domain_id   platform smsconfig -h</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 機能説明 | <p>smsconfig(1M) は、MAN デーモン、mand(1M) で使用されるホスト名および IP アドレス設定を構成および変更します。各ネットワークに対して、smsconfig はネットワーク内で 1 つ以上の <i>interface</i> 指定を単独で設定できません。デフォルトで、smsconfig は 3 つすべての内部エンタープライズネットワークの構成を行います。</p> <p>個々のネットワークを構成するには、コマンド行に <i>net_id</i> を付加します。管理ネットワーク <i>net_id</i> は、I1、I2、および L が指定されます。エンタープライズネットワーク内の単一の <i>interface</i> を目的の <i>interface</i> と <i>net_id</i> の両方を指定することによって構成します。</p> <p>smsconfig は、SMS によって使用される UNIX グループを構成してユーザー特権を記述します。SMS では、各 SC にローカルにインストールされたデフォルトの UNIX グループセットを使用します。smsconfig を使用すると、-g オプションを使用してこれらのグループをカスタマイズできます。詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 インストールマニュアル およびご使用の手引き』を参照してください。</p> <p>smsconfig は、ユーザーを SMS グループに追加してドメインおよびプラットフォーム管理特権を構成します。smsconfig は、アクセス制御リスト (ACL) 属性を SMS ディレクトリに設定します。</p> |

オプション

---

注 - /etc/group SMS ファイルエントリを手動で編集してユーザーを追加または削除しないでください。ユーザーアクセスに障害が発生します。

---

- a ユーザーを SMS グループに追加して、ドメインまたはプラットフォームディレクトリへの読み取り、書き込みおよび実行アクセス権を指定します。有効な *username*、SMS グループおよび該当する場合は *domain\_id* を指定する必要があります。
- G admn|rcfg SMS ドメイン管理者または再構成者を示します。すべてのグループは大文字と小文字を区別しません。
- G admn|oper|svc SMS プラットフォームの管理者、オペレータまたは保守担当者を示します。すべてのグループは大文字と小文字を区別しません。
- g SMS によって使用される UNIX グループを構成してユーザー特権を記述します。
- h ヘルプ。使用方法を表示します。

---

注 - 単一で使用します。 -h に追加して指定されたオプションは無視されます。

---

- l 指定した SMS ドメインまたは platform へのアクセス権を持つすべてのユーザーをリストします。
- m すべてのエンタープライズネットワークおよび外部コミュニティ用のすべてのインタフェースを構成します。
- m I1 エンタープライズネットワーク I1 用のすべてのインタフェースを構成します。 ネットワーク指定は大文字と小文字を区別しません。

- m I2** エンタープライズネットワーク I2 用のすべてのインタフェースを構成します。ネットワーク指定は大文字と小文字を区別しません。
- m L** 外部コミュニティネットワーク用のすべてのインタフェースを構成します。ネットワーク指定は大文字と小文字を区別しません。
- r** ユーザーを SMS グループから削除して、ドメインまたはプラットフォームディレクトリへの読み取り、書き込みおよび実行アクセス権を取り消します。有効な *username*、SMS グループおよび該当する場合は *domain\_id* を指定する必要があります。
- u *username*** ユーザーのログイン名を示します。

**オペランド**

次のオペランドがサポートされています。

- domain\_id*** ドメインの ID です。有効な *domain\_id* は、A ~ R で、大文字と小文字を区別しません。
- platform** Sun Fire 15K プラットフォームおよびプラットフォーム専用ディレクトリを指定します。
- SC, SC0, SC1** Sun Fire 15K SC 用のインタフェース指定。インタフェース指定は大文字と小文字を区別しません。

**拡張機能説明****必要なグループ特権**

このコマンドを実行するには、スーパーユーザー特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

**使用例****使用例 1 – 初期設定**

MAN ネットワーク内のすべてのインタフェースを構成する必要があります。この例では、IPv4 を使用した 3 つすべてのエンタープライズネットワークを設定するために必要なすべてのプロンプトを示します。IPv6 ネットワークの例は若干異なり、*netmasks* と */etc/ipnodes* のプロンプトが表示されず、*/etc/hosts* の部分も変更されています。

デフォルトでは、I1 ネットワーク設定はそのネットワーク用に入力されたベースネットワークアドレスから派生されます。詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 インストールマニュアルおよびご使用の手引き』を参照してください。

MAN ネットワークがすでに設定されている場合は、必ず SC を再起動してください。

```
sc0:# smsconfig -m

The platform name identifies the entire host machine to the SMS
software.The platform name occupies a different name space than
domain names (hostnames of bootable systems).

What is the name of the platform this SMS will service? sun15
Which System Controller are you configuring? [Choose 0 or 1]: 0

Configuring the External Network for Community C1

Do you want to define this Community? [y,n] y
Enter NICs associated with community C1 [hme0 eril]:[Return]

Enter Logical/Floating IP hostname for community C1 [sun15-sc-C1]:[Return]
Enter IPMP IP address for sun15-sc-C1: 10.1.1.50
Enter Netmask for community C1: 255.255.255.0

Enter IPMP hostname for community C1 failover address [sun15-sc0-C1-failover]:[Return]
Enter IPMP IP address for sun15-sc0-C1-failover: 10.1.1.51

Enter IPMP hostname for hme0 [sun15-sc0-hme0]:[Return]
Enter IPMP IP address for sun15-sc0-hme0: 10.1.1.52

Enter IPMP hostname for eril [sun15-sc0-eril]:[Return]
Enter IPMP IP address for sun15-sc0-eril: 10.1.1.53

Hostname IP Address (platform=sun15)
----- -
sun15-sc-C1 10.1.1.50
sun15-sc0-C1-failover 10.1.1.51
sun15-sc0-hme0 10.1.1.52
sun15-sc0-eril 10.1.1.53

Do you want to accept these network settings?[y,n] y

Configuring the External Network for Community C2

Do you want to define this Community?[y,n] n

Configuring I1 Management Network - 'I1' is the Domain to SC MAN.
MAN I1 Network Identification
Enter the IP network number (base address) for the I1 network: 10.1.1.0
Enter the netmask for the I1 MAN network [255.255.255.224]:[Return]
```

```

Hostname IP Address (platform=sun15)

netmask-i1 255,255,255,224
sun15-sc-i1 10.1.1.1
sun15-a 10.1.1.2
sun15-b 10.1.1.3
sun15-c 10.1.1.4
sun15-d 10.1.1.5
sun15-e 10.1.1.6
sun15-f 10.1.1.7
sun15-g 10.1.1.8
sun15-h 10.1.1.9
sun15-i 10.1.1.10
sun15-j 10.1.1.11
sun15-k 10.1.1.12
sun15-l 10.1.1.13
sun15-m 10.1.1.14
sun15-n 10.1.1.15
sun15-o 10.1.1.16
sun15-p 10.1.1.17
sun15-q 10.1.1.18
sun15-r 10.1.1.19

Do you want to accept these network settings?[y,n] y

Configuring I2 Management Network - 'I2' is for SC to SC MAN.
MAN I2 Network Identification
Enter the IP network number (base address) for the I2 network: 10.2.1.0
Enter the netmask for the I2 MAN network [255.255.255.224]:[Return]

Hostname IP Address (platform=sun15)

netmask-i2 255,255,255,224
sun15-sc0-i2 10.20.10.1
sun15-scl-i2 10.2.1.2

Do you want to accept these settings? [y,n] y
Creating /.rhosts to facillitate file propagation ... done.

MAN Network configuration modified!
Changes will take effect on next reboot.

The following changes are about to be applied to the "/etc/hosts" hosts file.

ADD:10.1.1.2 sun15-a
ADD:10.1.1.3 sun15-b
ADD:10.1.1.4 sun15-c
ADD:10.1.1.5 sun15-d
ADD:10.1.1.6 sun15-e
ADD:10.1.1.7 sun15-f
ADD:10.1.1.8 sun15-g
ADD:10.1.1.9 sun15-h
ADD:10.1.1.10 sun15-i

```

## smsconfig(1M)

```
ADD:10.1.1.11 sun15-j
ADD:10.1.1.12 sun15-k
ADD:10.1.1.13 sun15-l
ADD:10.1.1.14 sun15-m
ADD:10.1.1.15 sun15-n
ADD:10.1.1.16 sun15-o
ADD:10.1.1.17 sun15-p
ADD:10.1.1.18 sun15-q
ADD:10.1.1.19 sun15-r
ADD:10.1.1.1 sun15-sc-i1
ADD: 10.1.1.50 sun15-sc-C1
ADD: 10.1.1.51 sun15-sc0-C1-failover
ADD: 10.1.1.52 sun15-sc0-hme0
ADD: 10.1.1.53 sun15-sc0-er11
ADD: 10.20.1.1 sun15-sc0-i2
ADD: 10.20.1.2 sun15-sc1-i2

Update the hosts file, "/etc/hosts", with these changes?[y,n] y
Hosts file "/etc/hosts" has been updated.

The following information is about to be applied to the "/etc/netmasks" file.

ADD network:10.1.1.50, mask: 255.255.255.0
ADD network: 10.1.10.0, mask:255,255,255,224
ADD network: 10.2.10.0, mask:255,255,255,224

Update the netmasks file, "/etc/netmasks", with these changes?[y,n] y
Netmasks file "/etc/netmasks" has been updated.

sc#
```

### 使用例 2 - I2 ネットワークの構成

```
sc0:# smsconfig -m I2

Configuring I2 Management Network - 'I2' is for SC to SC MAN
Which System Controller are you configuring [choose 0 or 1]: 0.

Hostname IP Address (platform=sun15)

netmask-i2 255,255,255,224
sun15-sc0-i2 10.20.10.1
sun15-sc1-i2 10.2.1.2

Do you want to accept these network settings?[y,n] n

MAN I2 Network Identification

Enter the IP network number (base address) for the I2 network: 35.6.88.1

Enter the netmask for the I2 MAN network [255.255.255.252]:[Return]

Hostname IP Address (platform=sun15)

netmask-i2 255.255.255.252
sun15-sc0-i2 35.60.880.88
sun15-sc1-i2 35.6.1.2
```



```

Do you want to accept these network settings?[y,n] y

Creating /.rhosts to facillitate file propagation ... done.

MAN Network configuration modified!
Changes will take effect on the next reboot.

The following changes are about to be applied to the "/etc/hosts" hosts file.

ADD:35.60.88.1 sun15-sc0-i2 ADD:35.60.88.2 sun15-sc1-i2

Update the hosts file, "/etc/hosts", with these changes?[y,n] y
Hosts file "/etc/hosts" has been updated.

The following information is about to be applied to the "/etc/netmasks" file.

ADD network:35.60.880.1, mask:255.255.255.252

Update the netmasks file, "/etc/netmasks", with these changes?[y,n] y
Netmasks file "/etc/netmasks" has been updated.

sc#

```

### 使用例 3 - SC から I1 ネットワーク上のドメイン B での内部ホスト名および IP アドレスの構成

```

sc0:# smsconfig -m I1 B

Enter the MAN hostname for DB-I1 [sun15-b]:domainB-i1
I could not automatically determine the IP address of domainB-i1.

Please enter the IP address of domainB-i1: 10.1.1.20

You should make sure that this host/IP address is set up properly in
the /etc/inet/hosts file or in your local name service system.

Network:I1 (DB-I1) Hostname:domainB-i1 IP Address: 10.1.1.20

Do you want to accept these settings?[y,n] y

Creating /.rhosts to facillitate file propagation ... done.

MAN Network configuration modified!
Changes will take effect on the next reboot.

The following changes are about to be applied to the "/etc/hosts" hosts file.

ADD:10.1.1.20 domainB-i1

Update the hosts file, "/etc/hosts", with these changes?[y,n] y
Hosts file "/etc/hosts" has been updated.

sc#

```

### 使用例 4 - デフォルト以外のグループの構成

この例では、すべてのドメイン管理者とドメイン再構成者グループがデフォルトのグループのままになります。

## smsconfig(1M)

```
sc0:# smsconfig -g
1) Edit current configuration
2) Restore default groups
3) Quit
Select one of the above options: 1

NOTE:In order to configure a new group the group must already exist.

The Platform Administrator group has configuration control, a means to
get environmental status, the ability to assign boards to domains,
power control and other generic service processor functions.

Enter the name of the Platform Administrator group [platadmn]? zeus

The Platform Operator group has a subset of the platform privileges,
limited generally to platform power control and platform status

Enter the name of the Platform Operator group [platoper]? poseidon

The Platform Service group posses platform service command privileges
in addition to limited platform control and platform configuration
status privileges

Enter the name of the Platform Service group [platsvc]? kronos

The Domain Administrator group posses domain control and status, and
console access privileges (for the respective domain), but does not
posses platform wide control or platform resource allocation privileges.

Enter the name of the Domain A Administrator group [dmnaadmn]? [Return]
Enter the name of the Domain B Administrator group [dmnbadmn]? [Return]
Enter the name of the Domain C Administrator group [dmncadmn]? [Return]
Enter the name of the Domain D Administrator group [dmndadmn]? [Return]
Enter the name of the Domain E Administrator group [dmneadmn]? [Return]
Enter the name of the Domain F Administrator group [dmnfadmn]? [Return]
Enter the name of the Domain G Administrator group [dmngadmn]? [Return]
Enter the name of the Domain H Administrator group [dmnhadmn]? [Return]
Enter the name of the Domain I Administrator group [dmniadmn]? [Return]
Enter the name of the Domain J Administrator group [dmnjadmn]? [Return]
Enter the name of the Domain K Administrator group [dmnkadmn]? [Return]
Enter the name of the Domain L Administrator group [dmnladmn]? [Return]
Enter the name of the Domain M Administrator group [dmnmadmn]? [Return]
Enter the name of the Domain N Administrator group [dmnradmn]? [Return]
Enter the name of the Domain O Administrator group [dmnoadmn]? [Return]
Enter the name of the Domain P Administrator group [dmnpadmn]? [Return]
Enter the name of the Domain Q Administrator group [dmnqadmn]? [Return]
Enter the name of the Domain R Administrator group [dmnradmn]? [Return]

The Domain Reconfiguration group posses a subset of the Domain
Administration group privileges.This group has no domain control other
than board power and reconfiguration (for the respective domain).

Enter the name of the Domain A Reconfiguration group [dmnarcfg]? [Return]
Enter the name of the Domain B Reconfiguration group [dmnbrcfg]? [Return]
Enter the name of the Domain C Reconfiguration group [dmncrcfg]? [Return]
Enter the name of the Domain D Reconfiguration group [dmndrcfg]? [Return]
Enter the name of the Domain E Reconfiguration group [dmnercfg]? [Return]
Enter the name of the Domain F Reconfiguration group [dmnfrcfg]? [Return]
Enter the name of the Domain G Reconfiguration group [dmngrcfg]? [Return]
Enter the name of the Domain H Reconfiguration group [dmnhrcfg]? [Return]
Enter the name of the Domain I Reconfiguration group [dmnircfg]? [Return]
Enter the name of the Domain J Reconfiguration group [dmnjrcfg]? [Return]
Enter the name of the Domain K Reconfiguration group [dmnkrcfg]? [Return]
Enter the name of the Domain L Reconfiguration group [dmnlrcfg]? [Return]
Enter the name of the Domain M Reconfiguration group [dmnmrcfg]? [Return]
Enter the name of the Domain N Reconfiguration group [dmnnrcfg]? [Return]
Enter the name of the Domain O Reconfiguration group [dmnorcfg]? [Return]
Enter the name of the Domain P Reconfiguration group [dmnprcfg]? [Return]
Enter the name of the Domain Q Reconfiguration group [dmnqrcfg]? [Return]
Enter the name of the Domain R Reconfiguration group [dmnrrcfg]? [Return]
Configuration complete.
```

```
Select one of the above options:
1) Edit current configuration
2) Restore default groups
3) Quit Select one of the above options: 3
sc#
```

#### 使用例 5 — ドメイン管理者グループへのユーザーの追加とドメイン B ディレクトリへのアクセス権の構成

有効なユーザー名と有効な SMS グループおよびドメインを指定する必要があります。

```
sc0:# smsconfig -a -u fdjones -G admn B
fdjones has been added to the dmnBadmn group.
All privileges to domain B have been applied.
```

#### 使用例 6 — ドメイン構成者グループへのユーザーの追加とドメイン C ディレクトリへのアクセス権の構成

有効なユーザー名と有効な SMS グループおよびドメインを指定する必要があります。

```
sc0:# smsconfig -a -u fdjones -G rcfg C
fdjones has been added to the dmnCrcfg group.
All privileges to domain C have been applied.
```

#### 使用例 7 — プラットフォームディレクトリへのアクセス権の構成

有効なユーザー名と有効な SMS グループおよびプラットフォームを指定する必要があります。

```
sc0:# smsconfig -a -u jtd -G svc platform
jtd has been added to the platsvc group.
All privileges to the platform have been applied.
```

#### 使用例 8 — ドメイン C ディレクトリへのアクセス権を持つユーザーの表示

```
sc0:# smsconfig -l C
fdjones
shea
```

#### 使用例 9 — プラットフォームディレクトリへのアクセス権を持つユーザーの表示

```
sc0:# smsconfig -l platform
fdjones
jtd
```

**使用例 10** — ドメイン C ディレクトリへのユーザーアクセス権の削除

有効なユーザー名と有効な SMS グループを指定する必要があります。ユーザーがドメインへのアクセス権を持つ複数のグループに属している場合は、ディレクトリアクセスを取り消す前にすべてのグループから削除する必要があります。

```
sc0:# smsconfig -r -u fdjones -G rcfg C
fdjones has been removed from the dmnCrcfg group.
fdjones belongs to the dmnCadmn group
Access to domain C remains unchanged.
```

```
sc0:# smsconfig -r -u fdjones -G admn C
fdjones has been removed from the dmnCadmn group.
All access to domain C is now denied.
```

**使用例 11** — 無効なグループ名を使用した構成

有効な SMS グループを指定する必要があります。

```
sc0:# smsconfig -a -u fdjones -G staff D
ERROR:group staff does not exist
ABORTING.
```

**使用例 12** — グループと指定の組み合わせ

正しい領域指定とともにグループ名を指定する必要があります。admн グループは、どちらの指定でも機能します。

```
sc0:# smsconfig -a -u fdjones -G rcfg platform
ERROR:group rcfg cannot access the platform
ABORTING.
```

```
sc0:# smsconfig -a -u fdjones -G oper D
ERROR:group oper cannot access a domain
ABORTING.
```

**終了ステータス**

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

**属性** 次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値      |
|--------------|----------|
| Availability | SUNWSMSr |

**ファイル** 次の構成ファイルが必要です。

/etc/hostname.scman0

MAN Ethernet インタフェースファイル

/etc/hostname.scman1

MAN Ethernet インタフェースファイル

/etc/opt/SUNWSMS/config/MAN.cf

MAN デーモン構成ファイル

---

**注 -** MAN.cf は、内部 SMS システムファイルであり、サンの担当者以外は変更してはなりません。

---

**関連項目** mand(1M)

**注意事項** ユーザーは主要ネットワーク情報のいくつかの項目を入力することが必要です。この情報を収集するには、『Sun Fire 15K システムサイト計画の手引き』で設定ワークシートを参照してください。

## smsconnectsc(1M)

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前     | smsconnectsc – 遠隔 SC コンソールへのアクセス                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 形式     | smsconnectsc [-y n]<br><br>smsconnectsc -h                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 機能説明   | <p>smsconnectsc は、停止した遠隔 SC にアクセスするためにローカル SC から遠隔 tip コンソールセッションを作成します。</p> <p>smsconnectsc は、ローカル SC にログインした際に、ローカル SC のポート B を遠隔 SC の RS-232 ポート A に接続するビットを有効化します。遠隔 SC は、停止中の SC です。いったん tty 接続が有効になると、smsconnectsc は、遠隔 SC に対する tip コンソールセッションを呼び出します。tip コンソールセッションを使用して、遠隔 SC で必要な処理を行うことができます。</p> <p>セッションを終了する場合には、telnet か rlogin のどちらかを使用してローカル SC にログインしたかによって、方法が異なります。後述の「拡張機能説明」を参照してください。</p> |
| オプション  | <p>-h ヘルプ。使用方法を表示します。</p> <hr/> <p><b>注 -</b> 単一で使用します。-h に追加して指定されたオプションは無視されません。</p> <hr/> <p>-n すべてのプロンプトに自動的に「no」と応答します。</p> <p>-y すべてのプロンプトに自動的に「yes」と応答します。</p>                                                                                                                                                                                                                                           |
| 拡張機能説明 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 使用法    | <p>smsconnectsc によって開始された tip コンソールウィンドウでは、行の先頭のチルド (~) は、tip コンソールで次のアクションを指示するエスケープ記号と解釈されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ ~. によって、tip セッションが切断されます。</li></ul> <p>telnet を使用してローカル SC にアクセスしている場合は tip セッションが切断され、ローカル SC にログインしたままになります。</p> <p>rlogin を使用してローカル SC にアクセスしている場合は、tip セッションが切断され、rlogin セッションも切断されます。</p>                                                                      |

---

注 - チルドは、ピリオドを入力するまでは画面に表示されません。

---

■ `~~.` によって `tip` セッションが切断されます。

`~~.` は、`rlogin` に対してのみ機能します。`telnet` を使用してローカル SC にアクセスしている場合は、「`~:` コマンドが見つかりません。」というエラーメッセージが表示されます。

`rlogin` を使用してローカル SC にアクセスしている場合は `tip` セッションが切断され、ローカル SC にログインしたままになります。

---

注 - 最初のチルドは、画面に表示されません。2 番目のチルドは、ピリオドを入力するまでは表示されません。

---

`rlogin` は、チルドが新しい行の先頭に使用されている場合でも、チルド-エスケープのシーケンスを処理します。行の先頭でチルドシーケンスを送信する必要があり、`rlogin` を使用する場合は、2 つのチルド(最初のチルドはエスケープで、2 番目は `rlogin` に対するチルド)を使用します。もうひとつの方法としては、`rlogin` の実行中に、行の先頭にチルドを入力しないようにします。`kill -9` コマンドを使用してコンソールセッションを終了すると、`smsconnectsc` コマンドが実行されたウィンドウまたは端末は、`raw` モードになり、ハングしたように見えます。このような状況を回避するには、`^j` と入力し、次に `stty sane`、さらに `^j` と入力します。

#### 必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、プラットフォーム管理者特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

#### 使用例

使用例 1 - ローカル SC から停止した遠隔 SC へ遠隔接続する

次の例では、ローカル SC を `sc1`、遠隔 SC を `sc0` とします。ローカル SC に、プラットフォーム管理者としてログインします。

```
sc1:sms-user:> smsconnectsc
TTY connection is OFF.
About to connect to other SC.Do you want to continue (yes/no)? y
connected sc0:sms-user:>
```

smsconnectsc(1M)

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

関連項目

rlogin(1M)、rlogin(1M)、tip(1M)



|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前    | smsrestore – SMS 環境の復元                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 形式    | <pre> smsrestore filename smsrestore -h </pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 機能説明  | <p> <b>smsrestore(1M)</b> は、SMS の操作環境を <b>smsbackup(1M)</b> によって作成されたバックアップファイルから復元します。 <b>smsrestore</b> を使用して、SMS ソフトウェアが新しいディスクにインストールされた後に SMS 環境を復元します。 </p> <p> <b>smsrestore</b> は、構成ファイルの必要な変換を実行します。 </p> <p> エラーが発生した場合は、<b>smsrestore</b> がエラーメッセージを <code>/var/sadm/system/logs/smsrestore</code> に書き込みます。 </p> <hr/> <p> <b>注 -</b> メイン SMS 環境が、たとえば、ドメインのシャットダウンなどでバックアップファイルの作成後に変更された場合、システムコントローラ用の現在のバックアップファイルを維持するには <b>smsbackup(1M)</b> をもう一度実行する必要があります。 </p> <hr/> |
| オプション | <pre> -h      ヘルプ。使用方法を表示します。 </pre> <hr/> <p> <b>注 -</b> 単一で使用します。 <code>-h</code> に追加して指定されたオプションは無視されません。 </p> <hr/>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| オペランド | <p> 次のオペランドがサポートされています。 </p> <p> <i>filename</i>      <b>smsbackup(1M)</b> によって作成されたバックアップファイルの名前です。指定されたファイルが現在のディレクトリにない場合は、<i>filename</i> にはファイルのフルパスを含んでいる必要があります。このファイルは、システム、接続されているネットワークまたはテープデバイスのどこにでも配置できます。<i>filename</i> が指定されていない場合は、エラーが表示されます。 </p>                                                                                                                                                                                                                      |

smsrestore(1M)

拡張機能説明

必要なグループ特権

このコマンドを実行するには、スーパーユーザー特権が必要です。

詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

使用例

使用例 1 – SMS の復元

```
sc# smsrestore sms_backup.1.0.cpio
```

使用例 2 – テープデバイス 0 からの SMS の復元

```
sc# smsrestore /dev/rmt/0/sms_backup.1.0.cpio
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常に終了しました。

0 以外 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。

| 属性タイプ        | 属性値       |
|--------------|-----------|
| Availability | SUNWSMSop |

ファイル

このコマンドでは次のファイルが使用されます。

```
/var/sadm/system/logs/smsrestore
```

smsrestore ログファイル

関連項目

smsbackup(1M)

|           |                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前        | smsversion – SMS ソフトウェアのアクティブバージョンの表示                                                                                                                                                                                  |
| 形式        | smsversion -t<br>smsversion -h                                                                                                                                                                                         |
| 機能説明      | smsversion(1M) は、システム上で現在アクティブな SMS のバージョンを表示します。                                                                                                                                                                      |
| オプション     | -h ヘルプ。使用方法を表示します。                                                                                                                                                                                                     |
|           | <hr/> <b>注 -</b> 単一で使用します。 -h に追加して指定されたオプションは無視されます。 <hr/>                                                                                                                                                            |
|           | -t 現在アクティブな SMS のバージョンを表示して終了します。                                                                                                                                                                                      |
| 拡張機能説明    |                                                                                                                                                                                                                        |
| 必要なグループ特権 | このコマンドを実行するには、スーパーユーザー特権が必要です。<br>詳細については、『System Management Services (SMS) 1.1 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。                                                                                                              |
| 使用例       | <b>使用例 1</b> – 1 つのバージョンの SMS がインストールされている場合<br>SMS の 1 つのバージョンのみがインストールされているときにアクティブバージョンを表示して終了します。<br><br>sc# <b>smsversion -t</b><br>smsversion:Active SMS version < 1.0 ><br>smsversion:SMS version 1.0 installed |
| 終了ステータス   | 次の終了値が返されます。<br>0 正常に終了しました。<br>0 以外 エラーが発生しました。                                                                                                                                                                       |

## smsversion(1M)

### 属性

次の属性の説明については、attributes(5)を参照してください。

| 属性タイプ       | 属性値       |
|-------------|-----------|
| Aailability | SUNWSMSop |

### ファイル

このコマンドでは次のファイルが使用されます。

/var/sadm/system/logs/smsversion

smsversion ログファイル

### 関連項目

smsbackup(1M)、smsrestore(1M)

| 名前           | ssd – SMS 起動デーモン                                                                                                                                                                                                                             |       |     |              |           |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|--------------|-----------|
| 形式           | ssd [-f <i>startup_file</i> ]<br>ssd [-i <i>message</i> ]                                                                                                                                                                                    |       |     |              |           |
| 機能説明         | <p>ssd(1M) は、SMS のすべての主要デーモンおよびサーバーを起動、停止、および監視します。オプションを指定しないで実行すると、ssd は、ssd が開始および監視するデーモンおよびサーバーをリストする <i>ssd_start</i> ファイルから読み取ります。</p> <p>このプログラムを手動で起動しないでください。ssd(1M) は、Solaris ソフトウェア実行コントロールスクリプトで自動的に起動され、再起動のために定期的に監視されます。</p> |       |     |              |           |
| オプション        | <p>-f <i>startup_file</i> デフォルトの <i>ssd_start</i> ファイルの代わりにこのファイルを使用します。</p> <p>-i <i>message</i> プラットフォームログファイルに通知メッセージを書き込みます。sms 起動スクリプトによって指定および使用されます。</p>                                                                              |       |     |              |           |
| ファイル         | <p>次のファイルがサポートされています。</p> <p><i>/etc/opt/SUNWSMS/startup/ssd_start</i><br/>ssd 用のデフォルト起動ファイル</p> <p><i>/etc/opt/SUNWSMS/startup/sms</i><br/>SMS 用のデフォルト起動ファイル</p>                                                                            |       |     |              |           |
| 属性           | <p>次の属性の説明については、attributes(5) を参照してください。</p> <table border="1" data-bbox="500 1503 977 1612"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table>          | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ        | 属性値                                                                                                                                                                                                                                          |       |     |              |           |
| Availability | SUNWSMSop                                                                                                                                                                                                                                    |       |     |              |           |

tmd(1M)

| 名前           | tmd – タスク管理デーモン                                                                                                                                                                                                                                  |       |     |              |           |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|--------------|-----------|
| 形式           | tmd [-t <i>number</i> ]                                                                                                                                                                                                                          |       |     |              |           |
| 機能説明         | <p>tmd(1M) は、SMS のスケジュールなどのタスク管理サービスを提供します。このサービスの目的は、ハードウェアテストおよび構成ソフトウェアの同時起動中に発生する衝突の数を削減することです。</p> <p>このデーモンは <b>ssd(1M)</b> によって自動的に起動されます。コマンド行から手動で起動しないでください。</p>                                                                       |       |     |              |           |
| オプション        | <p>-t <i>number</i>      このオプションを使用すると、指定した数の同時起動を抑制できます。値は整数で 1 以上でなければなりません。</p> <hr/> <p>注 –      デフォルト値を変更すると、システムの機能に不正な影響を与えることがあります。サンのサービス担当者から指示された場合以外は、このパラメタを修正しないでください。</p> <hr/>                                                   |       |     |              |           |
| 終了ステータス      | <p>次の終了値が返されます。</p> <p>0      正常に終了しました。</p> <p>0 以外 エラーが発生しました。</p>                                                                                                                                                                             |       |     |              |           |
| 属性           | <p>次の属性の説明については、<code>attributes(5)</code> を参照してください。</p> <table border="1" data-bbox="474 1293 954 1402"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWSMSop</td> </tr> </tbody> </table> | 属性タイプ | 属性値 | Availability | SUNWSMSop |
| 属性タイプ        | 属性値                                                                                                                                                                                                                                              |       |     |              |           |
| Availability | SUNWSMSop                                                                                                                                                                                                                                        |       |     |              |           |
| 関連項目         | ssd(1M)                                                                                                                                                                                                                                          |       |     |              |           |